

建築と社会

Architecture and Society

特集　自然素材をめぐる「もの・わざ・ひと」

日本建築協会

5

2001 May.

「日本建築協会80年史1917-1996」

増刷頒布中　頒価　3,000円



A4判・240頁・並製本

1999年7月に発刊した「日本建築協会80年史1917-1996」は、各方面から好評をいただいておりますが、このたび、皆様の強いご要望により、増刷・頒布することにいたしました。大正6年3月30日に関西建築協会として誕生した日本建築協会の80年の歴史を、様々な事業や委員会活動を通じて、また、本会設立者の片岡安、武田五一以降現在までの会員たちの社会活動を通して知ることができる記念誌として、A4判・240頁にまとめています。

とくに、協会草創期の大正・昭和初期の片岡安ら協会のメンバーと当時の大阪市長・関　一との交流を物語る一文は、大阪の都市計画史、あるいは関西の建築人物誌ともなっています。本会の歴史を知るだけでなく、建築を通して、それぞれの時代の雰囲気を身近に感じることができる大変貴重な資料となるものです。

購入ご希望のかたは、下記要領でお申し込み下さい。

＊

申 込 先　社団法人 日本建築協会
〒530-0001　大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL 06-6348-0635　FAX 06-6348-0634

頒　　価　1部3,000円（税・送料込み）

※増刷部数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。

「日本建築協会80年史」

●日本建築協会の沿革／委員会活動／「建築と社会」の変遷／大正時代から現在までの本会主催の博覧会・展覧会・講演会／よろず相談住宅展／青年建築家・青年技術者顕彰／工高生デザインコンクール入選者etc.

●日本建築協会創立者と会を支えた38人のプロフィール（片岡　安・設楽貞雄・武田五一・池田　實・波江悌夫・竹腰健造・尾崎久助・東畑謙三・塚本猛次・福田朝生・佐野正一・葛野壯一郎・横濱　勉・松本禹象・宗　兵蔵・園部文雄・日高　胖・野村一郎・古宇田　實・松室重光・松井貴太郎・安井武雄・中澤誠一郎・坂　靜雄・今林彦太郎・井上新二・松本儀八・池田宮彦・錢高輝之・中西六郎・大林芳郎・鴻池藤一・伊東五郎・竹中錬一・鷲尾健三・松村雄吉・横尾義貫・足立　孝）

●座談会「戦中から戦後初期の協会活動」―尾亀清四郎・大林芳郎・小西　岬・佐野正一・横尾義貫・三品哲夫の6氏による終戦前後の協会活動の証言―

＊

■執筆ワーキンググループ
坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐浴邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由

■80年史編纂委員会
長谷部朔郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉　毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二



「日本建築協会の遺産と功績」（坂本勝比古）より



「草創期の人々」より片岡安の項

TOTAL CONSTRUCTION MATERIALS AND EQUIPMENT FAIR

けんざい2001

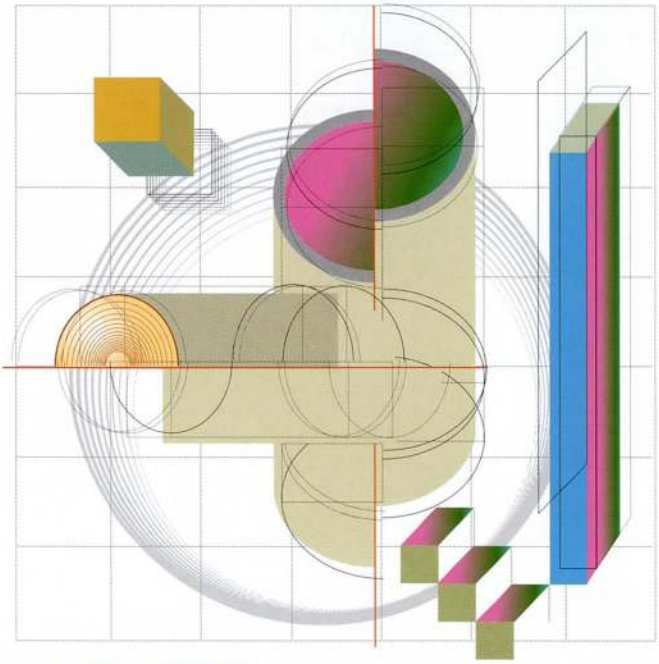
第16回 総合建築材料・設備展

OSAKA 2008 CANDIDATE CITY

平成13年5月15日(火)⇨18日(金) 10AM~5PM (最終日のみ4PMまで)

インテックス大阪／4号館 大阪市住之江区南港北1-5-102 ■ニュートラム中ふ頭駅

「快適・健康・安心」——進化する建築文化



入場無料

会期中、すてきな景品の当たる抽選会を実施！

＜主催＞ (社)日本建築材料協会

フジサンケイグループ 日本工業新聞社

＜後援＞ 経済産業省、国土交通省

事務局

社団法人 日本建築材料協会

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-3-13 辰巳ビル

TEL:06-6443-0345(代) FAX:06-6443-0348

http://www.kenzai.or.jp E-mail:office@kenzai.or.jp

日本工業新聞社 事業部

〒530-0001 大阪市北区梅田2-4-9

TEL:06-6343-3222~4 FAX:06-6341-4773

http://www.jij.co.jp E-mail:osaka-inf@jij.co.jp

併催

建築トレンドセミナー

於＝インテックス大阪・国際会議ホール(300席)

5月15日(火) 13:30~15:00

「高齢者にふさわしい住まいづくり」

白石真澄氏 ニッセイ基礎研究所社会研究部門主任研究員

5月16日(水) 13:30~15:30

「建設廃材のリサイクルについて」法令・推進策・優遇策・具体例

河村賢二氏 国土交通省 総合政策局 建設業課 課長補佐

5月17日(木) 13:30~16:30

＜日本健康住宅協会による講演＞

「建築材料と室内空気汚染」

吉田左門氏 日本健康住宅協会 技術部長

「住宅の品質確保法の促進等に関する法律」と「住宅性能表示制度」

森長一郎氏 (財)大阪住宅センター 住宅性能検査監

「快適・健康・安心（住宅と消費者）」

酒居淑子氏 兵庫県立神戸生活創造センター 次長

5月18日(金) 10:30~12:00

「快適・健康・安心の環境づくり」

東孝光氏 大阪大学名誉教授 千葉工業大学教授

出展各社による製品説明会

於＝会場内特設コーナー (40席)

5月15日(火)	13:30~14:30	(株) 稲福建設
	14:30~15:30	ホルツ徳島協同組合
	15:30~16:30	(株) 木建市場
16日(水)	11:00~12:00	(株) アウテック
	13:30~14:30	クリーンペア近畿 (株)
	14:30~15:30	エスケー化研 (株)
	15:30~16:30	岡本インターナショナル (株)
17日(木)	11:00~12:00	岡部ストラクト (株)・旭化成建材 (株)
	13:30~17:00 ＊事前申込が必要	ジェトロ輸入住宅部材センター カナダ総領事館 ＜於＝ATCビルITM棟9階セミナールーム＞100席
18日(金)	11:00~12:00	福井コンピュータ (株)
	13:30~14:30	アキレス (株)

聴講無料 ＊ただし、当日定員になり次第締め切ります。

出展会社・団体

国内 (五十音順)

●(株)アークエース
●(株)アウテック
●アキレス(株)
●旭化成建材(株)
●(株)アシスト
●アスワン(株)
●阿南電機(株)
●(株)アレフ
●石丸産業(株)
●(株)ウエハラ
●内山商事(株)
●ウベボード(株)
●(株)梅彦
●エコ・リビングコーポレーション
●エスケー化研(株)
●エスビック(株)
●エバリス(株)
●(株)エムティアール ビジネス コーポレーション
●オイレス工業(株)
●王建工業(株)
●大阪化工(株)
●大阪ガス(株)
●大島応用化学工業(株)
●岡部ストラクト(株)
●カナフレックスコーポレーション(株)
●カネソウ(株)
●(株)加美塗装工業所
●亀井鐵工(有)
●(株)カワノ
●瓦寅工業(株)
●関包スチール(株)
●菊水化学工業(株)
●(株)キシモト
●キマド(株)
●(株)キョーワナスタ
●久保田セメント工業(株)
●クリーンペア近畿(株)
●グローブジャパン(株)
●グローベン(株)
●(財)経済調査会
●(株)ケンソーヘルス
●(株)神戸ガーデンハウス
●(株)ゴール
●(株)コスモ・ソフト
●コニシ(株)
●笹原メーソンリー(株)
●(株)サンコウ電子研究所
●サンコーテクノ(株)
●(株)サンステップ
●サンユー(株)
●三洋塗装工業(株)
●(株)三和マテリアル
●(有)自然館咲く咲く
●(株)シブタニ
●(有)ジャスト東海
●(株)昭和丸筒
●ジョー・プリンス竹下(株)
●(株)新亀製作所
●(株)シンコー
●スガツネ工業(株)
●ゼネラル化成(株)
●(社)全国タイル業協会
●全国タイル工業組合
●(株)ソーゴ
●(株)第一科学
●(株)ダイケン
●大日本プラスチックス(株)
●ダイヤテックス(株)
●太陽セメント工業(株)
●(株)タカギ
●(株)タカハシ工芸
●タキロン(株)
●(株)タジマ
●立川ブラインド工業(株)
●(株)タナカ
●ディエムカードジャパン(株)
●(株)ティ・カトウ
●(有)ティ・ネット
●テクノトゥールズ(株)
●東亜コルク(株)
●東洋突板工芸(株)
●東レ(株)
●徳島県木の家づくり協会
●(株)トクヤマ
●(株)永井技研
●ナカザワ建販(株)
●ナブコドア(株)
●(有)奈良友商店
●成瀬特殊木材(株)
●南海プライウッド(株)
●二三産業(株)
●(株)西尾木材工業所
●(有)西日本サービス
●(株)ニシムラ
●日新グループ
●ニッタイ工業(株)
●(株)日本衛生センター
●日本科学エンジニアリング(株)
●日本健康住宅協会
●(株)日本ゼスト
●日本パワーファスニング(株)
●原田セメント化工(株)
●ビー.ビー.ダブリュ(株)
●P.V.ソーラーハウス協会
●檜創建(株)
●兵庫県粘土瓦協同組合連合会
●(有)ファクトリー・ツール
●福井コンピュータ(株)
●富士川建材工業(株)
●(株)ふじわら
●古河電気工業(株)
●(株)ヘルメチック
●ホームデポ(株)
●(有)ポリマー商工
●ホルツ徳島協同組合
●マツ六(株)
●(株)丸エム製作所
●(株)丸喜金属本社
●ミヅシマ工業(株)
●村瀬衣料(株)
●(株)木建市場
●(株)屋根技術研究所
●(株)ヤマト
●(株)山中製作所
●山本窯業化工(株)
●(株)ユタカメイク
●(株)ユニオン
●吉川化成(株)
●(株)淀川製鋼所
●(有)ルーフ・プロジェクト
●ワープ太陽(株)
●若井産業(株)

海外

●ズィルコン ジャパン
●韓国民芸(株)
●日本オスモ(株)
●岡本インターナショナル(株)
●ウエスターン・トレーディング(株)
●ACMDIRECT CORPORATION SDN BHD
●アメリカ広葉樹輸出協会
●日本貿易振興会 大阪本部
●APA-エンジニアード・ウッド協会
●米国針葉樹 日本事務所
●日本建機(株)
●(株)ベターハウジング&リフォーム
●(株)稲福建設
●英国総領事館
●立共インターナショナル(株)
●東陽特殊硝子(株)
●Cascade Component's Inc
●ドアクラフトジャパン(株)
●ブリティッシュコロンビア州政府 日本事務所
●B.C Wood Specialties Group
●BESTKO PRECISION LTD.
●CAHAJAYA TIMBER IND. SDN. BHD.

キリトリ線

けんぜい2001

第16回 総合建築材料・設備展 登録カード

このカードを展示会受付へお持ちください
(ご来場の節は名刺をお貼りください)お持ちでない方はご記入ください。

〒

勤務先所在地

勤務先名

所属部課・役職名

御氏名

TEL　　FAX

<アンケート> (✓印をお付けください)

1. 年齢(　　才)　(男・女)

2. どこからお越しいただきましたか?

□大阪市　□大阪府下　□京都府　□兵庫県　□奈良県
□滋賀県　□和歌山県　□東京都　□その他(　　)

3. あなたの業種は?

□官公庁・公団・公社　□設計事務所　□建設業・住宅関係
□建材メーカー　□商社・販売業　□団体役員　□一般(学生含む)

4. あなたの職種は?

□経営・管理　□総務・資材　□広報・宣伝　□生産・技術
□研究・開発　□営業・販売　□設計　□建築・施工
□一般事務　□その他

5. あなたは本展示会を何でお知りになりましたか?

□招待状　□新聞・雑誌　□電車の中吊り　□ポスター
□友人・知人から　□ホームページ　□その他

6. 本展示会に来られた目的は何ですか?

□設計・施工のための情報収集　□新築・リフォームのための参考
□取引先の出展会社との交流を深める　□製品の購入・商談
□他社の動向を知るため　□次回出展の参考
□その他(　　)

総会議決お知らせ

平成13年3月28日開催の平成12年度第2回総会において、下記議案が原案どおり承認されましたので報告します。

1.平成13年度事業計画
(p.1に掲載)

2.平成13年度予算
(p.2に掲載)

3.名誉正会員推挙
(p.2に掲載)

4.定款細則の一部改正
(p.48に全文掲載)

1. 平成13年度事業計画書

(社)日本建築協会は、創立以来80有余年の歴史を誇り、「建築を通じて社会に貢献する」ことを理念として今日まで活動をしてきた。しかし、時あたかも21世紀を迎えた現在、我国の経済、社会の在り様は大きく変容することを余儀なくされている。当協会がその基盤として立脚している「建築関係業界」においても、平成大不況のもと死活を賭けた国内外での競合が熾烈さを増している。また、毎日、新聞紙上を賑わしているキーワードを拾い上げても、少子化、高齢化、環境(温暖化、リサイクル、地球にやさしい…)、人にやさしい(バリアフリー、ボランティア…)、シックハウス、規制緩和、IT革命、…等々枚挙に暇がない。これらは、今後の社会の在り様を端的に示しており、もとより、当協会とも無縁なものではない。

かかる社会環境のもと、当協会の会員数は、近年、漸減を続けており、将来へ向けての『協会の在り方=存在意義』が強く問われている。新世紀を迎えた本年こそ、会員が一丸となり英知を絞り、協会が再度大きく羽ばたくための活動を検討・再構築していかなくてはならない。

以上の観点に立ち、平成13年度を協会は『自分達で考え、具体的な改善策を検討する年』と位置付け、以下に掲げる事業を実施する。

Ⅰ.平成12年度活動からの課題

平成12年度活動から本年度には次の課題が引き継がれた。即ち、

(1)定款の全面改定(平成12年11月7日認可)に伴う協会活動の見直し

昭和22年以来の定款の全面改定であり、平成13年度は実質的に新定款に基づく活動の初年度となる。総会、理事会、評議員会のあり方も変わる。6月には新執行体制が新定款による総会承認の下に発足する。各理事会・委員会活動内容も検討していかなくてはならない。

(2)「協会21世紀を考える委員会」答申内容の具体化

「協会21世紀を考える委員会」に『今後の協会のあり方』について諮問を行い、協会の今後の方向性についての答申を得た。平成13年度はこの答申に沿って、協会活動の具体的な改善策を各理事会、委員会で議論し実行していかねばならない。

(3)協会財政の一段の悪化への対応

会勢の漸減に伴い、ここ数年、協会の財政は悪化の一途を辿っている。(2)とも関連することであるが、今後、聖域なしに、協会活動、事務局費用について検討を加え、『入を図り、出を制し』財政の好転を目指さなくてはならない。そのためには、「今までやってきた活動だから継続して行う」という姿勢は捨て去り、会勢増強に効果ある活動=社会・会員が望む活動は何か?を一から考え、原資の重点投下、活動のスクラップアンドビルドを思い切って実施していかねば、協会活動は先細りの道を辿る以外になくなる。また、事務局経費も聖域なしに経費削減を検討する。自ら新たな道を拓いてのみ、発展し生きる道が出来ることを忘れてはならない。

*

Ⅰ.で述べた課題は、可及的速やかに解決すべきものではあるが、中期的視野に立って解決を図らざるを得ない課題でもある。

各理事会、常設委員会は、協会諸活動の改善策を検討・構築し、平成14年度から具体的に実施することを目標とする。

Ⅱ.平成13年度の活動計画

平成13年度は、Ⅰ.の課題解決を念頭に置きつつ、以下に掲げる事業を実施する。

1.会誌「建築と社会」の発行 ≪編集委員会≫

大正6年9月創刊以来、第2次大戦終戦前後の一時期を除いて毎月、会誌「建築と社会」の発行を続け、協会会員連帯の手段として、また建築界と社会を結ぶ接点として本会の歴史と伝統を継承する役割を果たしてきた。

本年の第82輯発行にあたっては、新世紀初頭の年にふさわしい魅力ある誌面づくりをめざす。本年で第48回を迎える「青年技術者表彰」や本年第1回の表彰を行う「建築と社会賞」などの顕彰制度をとおして、本誌への親しみの醸成を図り、会勢増強にも貢献する。

また、長引く不況のもと、本誌発行費用のベースとなる広告収入の増大が期待出来ない現況の中で、編集、印刷に関わる諸経費などのコスト削減に努めながらも、会員相互の交流の場となる誌面充実に努力していく。

2.「建築技術選書」と<プロのノウハウ>の企画

≪出版委員会≫

本出版委員会は、建築技術の単行本発行を企画することを目的とする、「出版企画と著者発掘」にアンテナを張り巡らせている一種の探偵集団といえる。

協会創立60周年記念事業(昭和51年)として建築技術選書を企画刊行して以来、今日までに、技術選書39冊・特装版12冊・プロのノウハウ36冊(いずれも、学芸出版社刊)の計87冊に及ぶ単行本を世に送り出してきた。本年度は、さらに委員の英知を集め、よりよい技術書出版を図る。また、出版書をテキストとした著者による講演会を実施する。

3.講習会等の実施

(1)建築工事実務講習会 ≪教育委員会≫

昭和32年度以降、毎年、建築中堅技術者を対象とした「建築工事実務講習会」を開催、平成12年度までに延べ69回を数えている。本年度も実務講習会を実施するが、現場実務に役立つよう講習内容のさらなる充実を図る。また、各支部との連携を密にして、引き続き、実務講習会参加者の拡充を図る。

(2)情報の提供 ≪事業委員会≫

時宜にマッチしたテーマを選択し、会誌「建築と社会」の特集や事業委員会が企画する見学会との連携に留意しつつ、講習会・講演会を企画・実施する。また、話題建築物について、その建築の意図、設計主旨などを発注者・設計者から聞く会を開催する。

各種メディアを活用した情報の提供についても検討する。

(3)見学会の実施 ≪事業委員会≫

新建築や地域開発プロジェクトなどを対象とする見学会を毎月1回程度実施する。

また年1~2回、茶室・近代建築・町並み保存地区等の見学会を行い、当該地域の歴史や伝統文化との触れ合いを通じて、会員相互の交流を図る。さらに、地方の特色ある作品に注目した企画を行い、地方会員との交流も図る。

(4)若い会員の交流 ≪事業委員会≫

若い会員の感性をさらに磨き、活力を高めるために、サロン形式の集会を適宜開催し、講師と参加者との対話に重点を置きつつ、若い会員相互の親睦・交流を図る。

4.新建築材料の調査・性能等検討 ≪建材委員会≫

建築工事における建築材料の選定は、意匠面、耐久性、機能性など要求される条件が多岐にわたっている。本委員会ではこの点に注目し、品質・性能はもとより設計・施工上の留意点など建材の調査・検討を行うとともに、時代の要請に応え得る確かな情報の収集と会誌「建築と社会/新建材の頁」の誌面を通じての紹介を行う。

5.青年技術者の顕彰 ≪青年技術者選考委員会≫

昭和29年度に本顕彰制度を実施して以来、平成12年度までに754名の顕彰を行った。本年度は第48回を迎えるが、アトリエ設計事務所などの方々も多数応募できるよう応募資料の簡略化等を検討し、より門戸を広げ、優秀な若手技術者顕彰の場とする。

6.工高生デザインコンクールの実施 ≪教育委員会≫

本デザインコンクールは工高生の設計技能向上奨励のため、昭和30年度に創設。以来、毎年テーマを替えて実施してきた。年々、参加校が広域化し、応募件数も増加、まさに全国的規模のコンクールにまで発展してきている。本年度は第47回を迎えるが、応募校のさらなる広がりと応募件数の増加を通じて所期の目的を果たせるよう努める。

7.工高等建築科優秀卒業生の表彰 ≪教育委員会≫

昭和27年度に本制度を創設。優秀な建築科卒業生を表彰することにより、卒業後の本人のさらなる研鑽を促し、激励することを目的としてきた。平成12年度は239校、241名の表彰を実施した。本年度は、優秀卒業生の推薦を各学校長に依頼する時期に併せ、団体会員として本会に入会するよう勧め、本会活動、本会発行の各種資料等が学生・生徒の勉学に役立つ機会を増やす活動を行う。

8.会員の増強

社団法人にとって、会員数の維持・増強は最重要事項の一つである。本会においては、会勢理事会を中心として、会員数の増加活動を展開している。本年度は新世紀への出発の年でもあり、今後本会がさらなる飛躍ができるよう全委員会の各種活動を通じ、協会全体を挙げて幅広い分野ー特に若年層の入会に力点をおいてーからの会員増強活動を展開する。

9.支部・地方会員との連携強化

本会の会員組織は、現在、本部および京都・中国・東海・和歌山の各支部所属会員ならびに地方会員、学生会員により構成されている。しかし、協会としての活動は、会誌への投稿、建築工事実務講習会の支部での実施等一部の事業を除き、本部、支部の連携が十分とはいえない面がある。本会の活動は、本来、広域的な視野で展開されるべきものであり、会勢の増強を含めて、支部活動のより幅広い活性化を期待するところは大きい。

本年度は、支部活動に対して本部として連携を密にしつつ、協力できる事項に対しては最大限のバックアップをしていく。

10.IT化への取り組み ≪仮称 IT委員会≫

本会の活動PR、会勢増強への寄与、通信事務作業・経費の合理化等を目的として、Eメールの導入、ホームページの開設への強い要望がある。本年度、「仮称IT委員会」を創設、各常設委員会より検討委員を派遣願い、導入の可否、内容等を検討する。

11.事務局業務の効率化・経費削減 ≪事務局≫

本会事務局の業務量は年々増加している。しかし、協会財政は悪化の道を辿っている現在、事務局人員の増加は許されない状況にある。事務局業務の見直しを含め業務の効率化、人材能力向上策の検討および財政悪化に対応するために聖域を設けない事務局経費の削減を一段と進める。また、本会の財政状況全般を把握している立場から、常任理事会等へ定期的な予算執行状況の報告、各委員会活動における経費削減提案を積極的に行う。

また、本年度は定款全面改定後の実質的な初年度にあたる。総会、理事会、評議員会等の運営等も大幅に変更される。事務局は新総会運営等の対応に遺漏なきを期す。

12.その他

本会は、建築関係諸団体と友好的な関係を築き、協力・協調に努めつつ、本会の目的達成に寄与する諸団体の優良な事業企画に対しては、後援・協賛を行う等の支援をしてきた。本年度も、社会に役立つ事業に対しては、これまでと同様な支援を実施する。

2. 平成13年度収支予算書

平成13年4月1日から平成14年3月31日まで

(単位:千円)

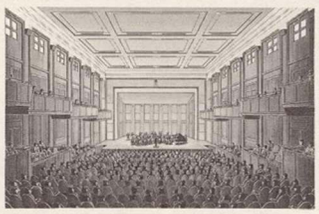
勘定科目	平成13年度	平成12年度	差	備考
Ⅰ. 収入の部				
1.会費収入	77,900	88,071	−10,171	
個人正会員	28,532	32,515	−3,983	H12収入見込の150万円減(100口減)
個人正会員(地方)	1,775	1,588	187	H12収入の20万円減(16口減)
団体正会員	47,533	53,850	−6,317	H12収入見込の100万円減(40口減)
準会員	60	118	−58	
2.事業収入	65,700	67,300	−1,600	
会誌収入	52,000	58,000	−6000	会誌広告料、会誌個別販売
契約約款収入	2,400	2,200	200	
会員名簿収入	6,000	0	6000	広告料+名簿売上
出版委員会収入	1,000	1,500	−500	出版企画料、講座参加料
事業委員会収入	1,300	1,500	−200	見学会、講演会参加料
教育委員会収入	2,000	2,000	0	実務講習会参加料
建材委員会収入	0	100	−100	
受託事業収入	0	0	0	
雑収入	1,000	2,000	−1,000	建築クラブ事務委託、図書斡旋委託料等
3.寄附金収入	0	100	−100	
4.雑収入	320	1,019	−699	預金利息、貸会議室使用料
5.記念事業積立金取崩収入	0	2,000	−2,000	日本建築協会賞用
6.退職給与引当金取崩収入	6,440	3,000	3,440	過去分分割払い(2名分)
当期収入合計(A)	150,360	161,490	−11,130	
当期事業収入(B)	143,920	156,490	−12,570	B=A−記念事業積立金取崩−退職給与積立金取崩
Ⅱ. 支出の部				
1.事業費	61,490	66,850	−5.360	
会誌発行費	51,500	56,000	−4,500	残業費、交通通信費等含む
契約約款費	1,400	1,000	400	
会員名簿発行費	3,500	0	3,500	
出版委員会事業費	300	1,000	−700	残業費、交通通信費含む
事業委員会事業費	1,600	3,000	−1,400	残業費、交通通信費含む
教育委員会事業費	2,160	2,800	−640	残業費、交通通信費含む
建材委員会事業費	30	50	−20	残業費、交通通信費含む
記念事業費	0	2,000	−2,000	80年史、日本建築協会賞費
受託事業費	0	0	0	
雑費	1,000	1,000	0	
2.管理費	86,880	91,640	−4,760	
人件費	60,190	64,300	−4,110	社会保険料、通勤費含む
退職金	6,440	4,000	2,440	過去退職者未払い分
福利厚生・教育費	350	200	150	福利、教育費
助成費	3,700	4,200	−500	支部への助成金
会議費	1,220	1,500	−280	理事会・常設委員会等、交通通信費
旅費・交通費	150	170	−20	
通信運搬費	1,000	1,000	0	
集金費	1,900	2,000	−100	会費・広告費等集金(振込み)費
消耗品費	1,200	2,000	−800	文房具、パソコントナー等
修繕費	200	350	−150	パソコン等修繕
印刷製本費	400	500	−100	定款製本等
光熱費	330	350	−20	電気代
火災保険料	20	20	0	
租税公課	4,000	4,300	−300	消費税、固定資産税等
清掃費	180	250	−70	
建物管理費	4,100	4,000	100	共益費、建物修繕積立金、水道代
雑費	1,500	2,500	−1,000	会費広告料未集金償却、協賛金、慶弔費等
3.退職給与引当積立金支出	1,390	3,000	−1,610	
4.予備費	600	0	600	Eメール、HP導入、PC購入等
当期支出合計(C)	150,360	161,490	−11,130	
当期収支差額(A)−(C)	0	0	0	
当期事業支出(退職金支払を除く)(D)	142,530	154,490	−11,960	D=C−退職金支出−退職給与引当積立
当期事業収支差額(B)−(D)	1,390	2,000	−610	

3. 名誉正会員推挙

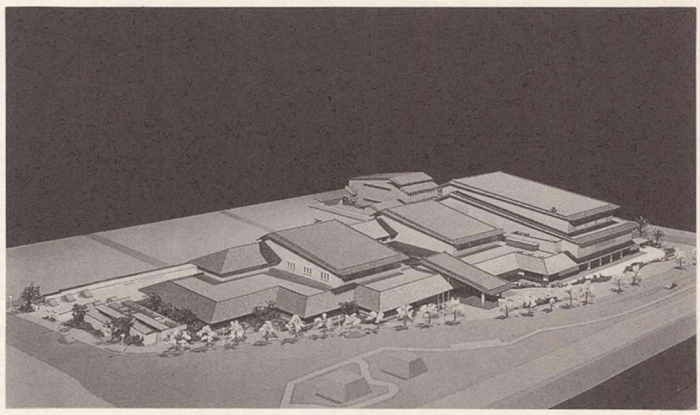
岡本 行善　窪田 祐　鶴田 昭一　牧田 顯治　三品 哲夫

<平成13年3月30日付>

やまと郡山城ホール見学会（再掲）



日　時　2001年 5 月14日(月)
14:00―17:00
講　師　松本哲雄
松田平田大阪事務所副所長
集　合　現地
大和郡山市北郡山町211-3
＊近鉄「郡山」駅より徒歩10分
定　員　50人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員500円、一般1,000円
＊税込
申　込　5月7日(月)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名:郡山城ホール見学会
②氏名
③個人会員･団体会員・一般の別
④職場･学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を5月8日(火)に発送します。
申込先　(社)日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　(社)日本建築協会
事業委員会見学会小委員会
担当主査：塘　伸夫／東畑建築事務所



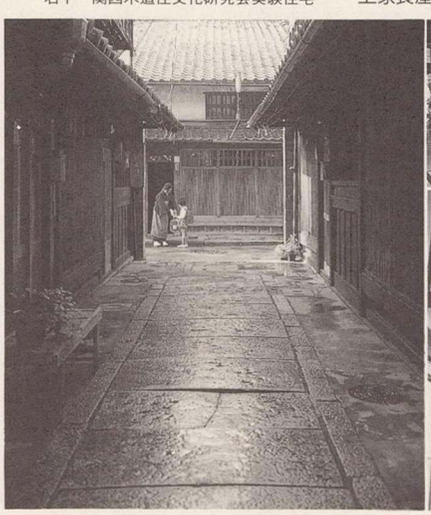
大和郡山市には、私達が忘れかけていた日本の原風景が色濃く残っています。
平城京から郡山城へといきづく時の流れの中に我々は甍を見つけました。
甍を中心に据え、軒の深い庇と白壁で和のデザインとし、かつてここが家老屋敷であった記憶を呼び戻すとともに、伝統的なしつらえで城との調和をはかり、"やまと"の佇まいを演出しました。
大ホールは「ホール IN ホール」システムを採用し、演劇系のためのプロセニアム形式の舞台と、走行式音響反射板と前舞台により、専用コンサートホールと同等の性能をもつ舞台が両立できるようにしました。
図書館は3年以内には総蔵書数21万冊になる予定であり、剣道、柔道、射場をもつ武道場を併設します。
心の豊かさ・美しさが感じられ、香り高い文化を創出し、市民に開かれ市民が参加して文化の裾野を広げる施設づくりをめざしました。　(松本哲雄)

●建築概要
所在地　大和郡山市北郡山町211-3
建築主　大和郡山市
設計監理　松田平田
施　工　淺沼組・藤本建設JV
敷地面積　17,041.053㎡
建築面積　8,121.920㎡
延床面積　17,888.240㎡
構造規模　RC･一部SRC、4F(ホール・図書館)、S、2F(武道場)
工　期　1999年11月～2001年3月
オープン　2001年6月

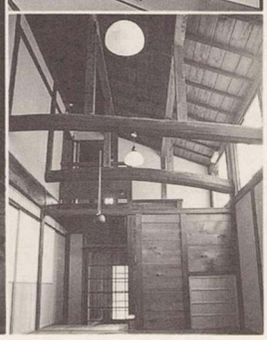
まちなみ見学会 第5回 京都･西陣の町家（再掲）

今も織物関連の町家が並ぶ西陣、かつて大宮通りはその表通りであった。大宮町五辻を中心に糸屋八町と呼ばれ、糸屋を営む町家が軒を連ねていた。
その面影を残す江戸末期から明治初期に建てられた京町家を、写真家がギャラリーとして活用している「町家写真館」。先代から受け継いだ京町家の遊墨漫画アトリエ「ギャラリーmachiya de ほっ」。若い芸術家たちが住む「三上家長屋」。京町家を今によみがえらせようと奮闘する「関西木造住文化研究会」が築150年以上の町家を9ヶ月間かけて全面改修した耐震・耐火の「実験住宅」。大正元年に建築された二棟続きの町家を京都府建築工業協同組合が改修モデルとして公開している「よしやまちの町家」と京都建築専門学校がゼミ活動に使う「町家校舎」等。
西陣・京町家の保全・再生に取り組む京町家の住人・専門家と一緒に、まちなみ探索に出かけませんか。

左・三上家長屋、右上・町家写真館
(以上撮影：水野克比古)
右下・関西木造住文化研究会実験住宅







日　時　2001年 5 月19日(土)
13:00―16:30
講　師　高木伸人／京都市景観・まちづくりセンター事業課長
木村忠紀／棟梁、京都府建築工業協同組合理事
田村佳英／建築家、関西木造住文化研究会代表幹事
見学先　よしやまちの町家・校舎
町家写真館
Machiya de ほっ(ギャラリー)
三上家長屋
関西木造住文化研究会実験住宅
その他
集　合　よしやまち町家校舎／京都市上京区葭屋町通下立売下ル
＊地下鉄「丸太町」駅徒歩10分
定　員　30人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員1,000円、一般2,000円
＊税込
申　込　5月10日(木)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名:まちなみ見学会
②氏名
③個人会員･団体会員･一般の別
④職場･学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を5月11日(金)に発送します。
申込先　(社)日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　(社)日本建築協会
事業委員会見学会小委員会
担当主査：松本 剛／大阪府建築都市部

茶室講演会
第1回
（再掲）

日　時　2001年 5 月28日（月）
18:00—20:00
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　中村昌生
京都工芸繊維大学名誉教授
定　員　40人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 1,000円、一般 2,000円
＊税込
申　込　5月21日（月）までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名:茶室講演会
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を5月22日（火）に発送します。
申込先　（社）日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　（社）日本建築協会
事業委員会見学会小委員会
担当主査：森田芳次／安井建築設計事務所

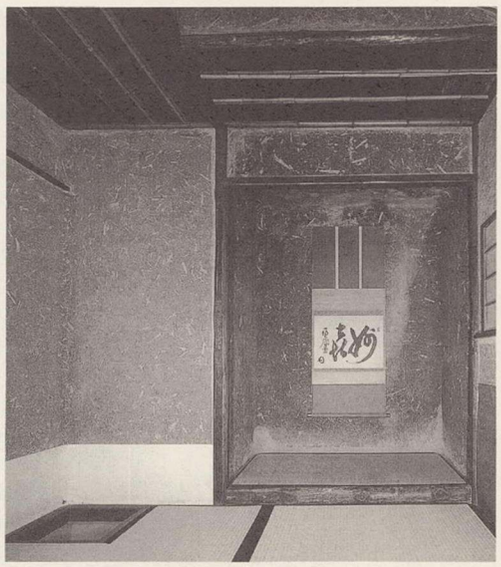
茶室見学会は、中村昌生京都工芸繊維大学名誉教授を講師にお迎えして、早くも15回を重ね、7年にわたり盛会に開催されて参りました。これはひとえに、先生のご指導と情熱、会員の皆様方のご熱意の賜物と厚く感謝する次第です。

さて今回、一度原点に立ち返りまして、茶室の成り立ち、茶人ならびに茶室の形式の流れを、先生にお話しいただく機会を企画させていただきました。この講演会は、今後数回シリーズで行う予定をしています。

また講演会開催後なるべく早い時期に、その内容にふさわしい茶室の見学会を行うという企画を立案させていただきます。

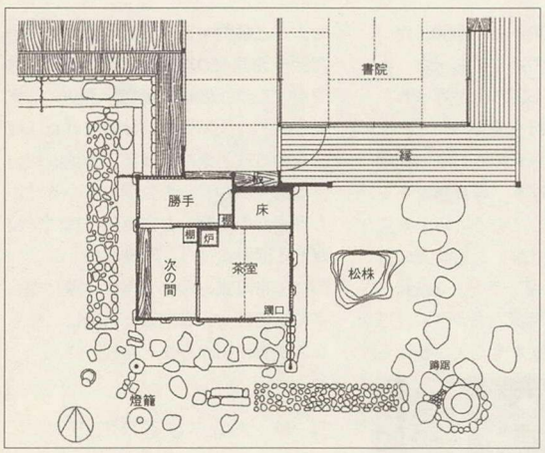
会員の皆様方を始め、興味をお持ちの方々多数のご参加を期待しています。

（森田芳次）



なかむら　まさお
1927年愛知県生まれ
京都大学助手、京都工芸繊維大学教授等を歴任。
現在、京都工芸繊維大学名誉教授、福井工業大学教授、京都伝統建築技術協会理事長。
主要著書　『古典に学ぶ茶室の設計』建築知識
『茶室大観』創元社
『茶室の研究』墨水書房
『茶の建築』河原書店
『茶匠と建築』鹿島出版会
『茶室と露地』小学館
『数寄屋古典集成』小学館
『数寄屋邸宅集成』毎日新聞社ほか

茶室見学会
第16回
妙喜庵の待庵
（再掲）



今回は、5月28日に開催されました第1回「茶室講演会」をうけまして、大阪と京都の境、天王山の麓山崎にある妙喜庵の茶室「待庵」（国宝）を見学します。

待庵は、千利休が天正年間（1580年頃）に山崎の屋敷内に創ったのではないかといわれ、利休の死後、文禄3年（1594年）に千家が再興された後に、現在の妙喜庵に移築されたといわれています。利休の師、武野紹鷗が完成したといわれる「紹鷗の四畳半」が唐物持ちの茶室であったのに対し、利休は、侘び数奇をこそ茶の湯の本流にしなければと思い、侘び数奇しか出来ない茶室として「待庵」をつくったようです。

外観は、四畳半にあったような縁が消えて土間庇の空間になります。同時に出入口ににじり口が導入されています。また、下地窓を採り入れ、室内に微妙な明るさを自由に創り出すことを可能にしています。茶室の内部は二畳敷きで、床を設け、唐物を飾る床ではないという意志をその意匠に強く表現しています。床柱は丸太で、土壁を天井まですべて塗りまわす室床とし、框も含めて大胆な表現転換を図っています。また炉のある処の入隅柱も塗りまわされ、要所を塗りまわすことにより室内全体を広く感じさせる効果をねらっています。同じ理由で天井の一部を張らずに掛込み天井とし、竹を使用した軽くのびやかな空間としています。

（森田芳次）

日　時　2001年6月 9 日（土）
14:00—16:00
講　師　中村昌生
京都工芸繊維大学名誉教授
集　合　現地／JR「山崎」駅前
京都府大山崎町竜光56
定　員　30人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 3,000円、一般 4,000円
学生 1,000円引　＊税込
申　込　6月1日（金）までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名:茶室見学会
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を6月4日（月）に発送します。
申込先　（社）日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　（社）日本建築協会
事業委員会見学会小委員会
担当主査：森田芳次／安井建築設計事務所

これからの建築と社会
第2回講演会
ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの事業戦略

ユニバーサル・スタジオ・ジャパンは大阪市が取り組んでいる「集客都市大阪」を実現するための主要なプロジェクトです。また、大阪のベイエリア開発の起爆剤としても期待されています。すなわちベイエリア法に基づく大阪湾での第１号に指定されています。外国のテーマパークとしては東京ディズニーランドに次ぐ我が国第２号であり、話題となった映画をもう一度パークで楽しんでいただくことをコンセプトとして人気を博しています。

93年頃に大阪進出が具体化し、96年３月に事業会社であるUSJが設立されました。パークの基本コンセプトはUSI社がまとめ、97年８月より基本設計に着手しました。その後98年10月に工事を着工し約28ヶ月の時間を経た2001年１月に完成の運びとなりました。

敷地は54万㎡で、内駐車場は15万㎡。全部で18のアトラクションよりなり、21の物販店及び24の飲食店より構成され、初年度800万人の集客を見込んでいます。　（城江利彦）



じょうえ　としひこ
1947年兵庫県生まれ。
1971年京都大学工学部土木工学科卒業。
1973年同大学院修士課程修了（土木工学専攻）
同年住友金属工業㈱入社
1996年㈱ユー・エス・ジェイ出向
同年同社取締役建設本部長就任。現在に至る。

●建築概要

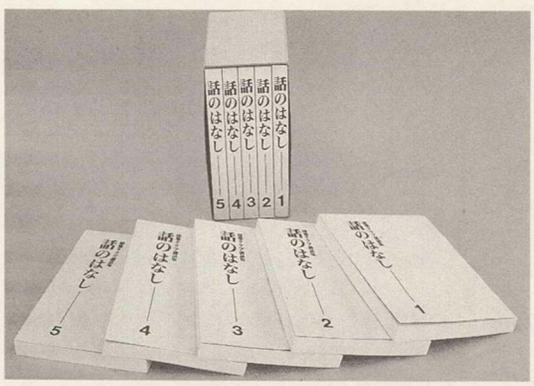
事業主体	㈱ユー・エス・ジェイ
所在地	大阪市此花西部臨海地区再開発地域
用途地域	準工業地域・準防火地域
基本計画	Universal Studios Inc.（USI）
設計	大林組（第一工区） 鹿島建設（第二工区） 竹中工務店（第三工区）
敷地面積	54ha（パーク39ha、駐車場15ha）
延床面積	156,432.95㎡
棟数	116棟
設計期間	1997年７月～1999年３月
施工期間	1998年10月～2001年１月
オープン	2001年３月

日　時　2001年**6**月**19**日㈫
18:30―20:30
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　城江利彦
㈱ユー・エス・ジェイ取締役建設本部長
定　員　30人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員1,000円、一般2,000円
学生は半額
＊飲物付、税込
申　込　６月12日㈫までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名：USJの事業戦略
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を６月13日㈬に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
事業委員会情報小委員会
担当主査：天野直樹／竹中工務店設計部

講演記録集
「話のはなし」残部頒布します！

昭和47年6月に発足した「建築クラブ」（日本建築協会会員有志の集まり）は、毎月1回、大阪市内のホテルに学者やジャーナリストをはじめ政界・経済界・文芸界・スポーツ・芸能界など広い分野から講師をお招きして、お話を聞く朝食会を開いております。

1997年、この朝食会の第300回を記念して、講演速記録を集約し、最終的に118回分を5冊1セット（1冊平均約320ページ）の本に編集いたしました。「話のはなし」の講話の内容はとても多彩で、「おもしろい話」「貴重なはなし」「裏ばなし」などがいっぱい詰まっています。



B6判　5分冊

1セット・5,000円（消費税別途）でおわけできることになりました。ご希望のかたは電話またはFAXでお申し込み下さい。

申込先：日本建築協会事務局
TEL06-6348-0635　FAX06-6348-0634

読者と織りなす

たて糸 よこ糸

「建築と社会」では、読者の声を誌面づくりに役立てるために、皆様の意見と、編集担当者の声を掲載していきます。

■イギリスにて

日本を離れて約１カ月。イギリスに10カ月の滞在予定で、様々な英国文化に触れている毎日です。

日本の情報は、こちらのマスコミからはほとんど報道されないので、インターネットを頼りにしている毎日ですが、外国にいてもメールで簡単に情報交換ができ、IT社会の恩恵で外国にいるハンディを感じることはありません。

４月号の「IT社会におけるきずな」特集は、情報技術を中心とした21世紀の生活文化の方向性を見出そうと企画したものですが、英国ではあらゆる業種において、HPアドレスが電話番号と同列に扱われており、IT社会の定着度を感じます。それでも、DIYやガーデニングに対して市民の関心は相変わらず高く、毎日のようにテレビで特集番組が放映されているのを見ると、どんな時代になろうとも生活の本質は変わらないのではと感じています。

（編集委員　K・S）

■個性の発露

先日、子供の絵の話を聞く機会があった。子供の描く絵は、写実的に描ける「視覚的タイプ」と抽象的で感覚派の「触覚的タイプ」に大きく分けられるそうである。社会一般、親の目から見ると、物を忠実に描ける「視覚的タイプ」の絵に感心してしまって、自分の子供の絵が何の形だかわからない個性的な「触覚的タイプ」だったりすると、それを積極的にほめたり伸ばしていこうとは考えられなかったりする。

それを聞いて、建築の作品づくりにも似たようなことがあると気づいた。現在の不況下では、各設計事務所、各建設会社ともコスト重視、稼ぎ重視が先行して、建築家や設計者の秀でた個性が活性化できない環境にある。

先日、「建築100人×100冊」展を見に行く機会があった。建築家、設計事務所、ゼネコン設計部、学生入り乱れ、自己の作品・思想を図書などの展示を通じて表現していた。そこには、型にはまらない個性と力量があって、見て楽しく、頼もしく感じたものである。

（編集委員　S・T）

■汗ばむ季節を前に

昨年８月、シリーズ頁『大先輩に聞く』の取材に同行し、石井修先生の自宅を訪問させて頂く機会に恵まれました。訪問直後、まだまだ暑い道中で少し汗ばんだ状態で取材が始まりましたが、石井先生のお話が進むにつれ、夏の夕暮れの自然な温度が心地よく感じられ、ゆっくりとした流れの時間を楽しむことができました。

心地よい空間と温度、そして時間。どこにでもあるようで、日ごろなかなか一体となって感じられないような気がします。

心地よい春の一日、あの８月の半日の思いがよみがえりました。

（編集委員　T・S）

切り取り線

「建築と社会」読者アンケート

「建築と社会」では、読者の方々のご意見を参考に、充実した誌面づくりをめざしております。今月号で、とくによいと思われた作品、記事、その他についてのご意見をFAXでご送付下さい。
なお、このご意見は、読者と選ぶ第2回『建築と社会賞』の1次選考に反映されます。

□とくによいと思われた作品

よいと思われた理由

□とくによいと思われた記事

よいと思われた理由

□その他、本誌についてのご意見や、取り上げてほしい内容などがありましたらご記入下さい。

2001年5月号

送付先：
㈳日本建築協会
「建築と社会」

FAX 06-6348-0634

お名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

□ご意見は、“たて糸よこ糸”欄に取り上げさせていただくこともありますが、その場合はイニシャルのみを掲載させていただきます。

勤務先 ＿＿＿＿＿＿＿＿　TEL ＿＿＿＿＿＿＿＿

主催　日本建築協会

平成13年度　# 第47回工高生デザインコンクール

設計課題　# ライブハウス

課題の趣旨

洋の東西を問わず、音楽は人々の生活の中に浸透し、クラッシックや軽快なワルツの調べに人々は心を癒される。また、自己表現の手段として音楽を追求する人も多い。

現代では、様々なハイテク機器を用いたロックなどの音楽が若者に浸透する一方で、さまざまなパフォーマンスや伝統芸能も近年見直され、新しい分野を開きつつある。



入選賞牌

しかし、その練習や発表の場が少ないことも現実であろう。また、路上ライブのように、聴衆との一体感が得られることができる場が求められている。

本課題では、様々な世代の人たちの発表や創作の場としての「ライブハウス」の提案を求めるものである。

設計条件

1. 敷　　地：敷地の大きさ、形状ともに自由。
2. 規　　模：200～500㎡
3. 所 要 室：使用方法を想定し、必要と思われるスペースを適宜設ける。

所要図面

1. 配 置 図：縮尺自由
2. 各階平面図：縮尺1：100
3. 立 面 図：縮尺1：100（2面以上）
4. 断 面 図：縮尺1：100（1面以上）
5. 透 視 図：設計意図が最も反映するところ（アイソメも可）。着彩仕上げ。模型写真に替えてもよい。
6. 設計説明：設計趣旨（立地・周囲の状況などについての説明を含む）および建築概要（敷地面積、建築物の構造・階数および床面積など）を示す。
   設計意図を表すサブタイトルをつけるのが望ましい。
7. そ の 他：平面図・断面図には、室名・寸法を記入する。その他必要と思われる図面を加えてもよい。

応募条件

1. 用　　紙：製図用紙A1判（594㎜×841㎜）1枚を使用し、その中にすべての要求図面を描くこと。
2. 仕 上 げ：図面は黒色鉛筆仕上げとし、ワープロ、CGやCAD、スクリーントーンなどによる仕上げは禁止する。（ただし、色鉛筆による着色は可）。透視図は彩色用紙を用い、製図図面にのりづけしてもよい。
   透視図や模型写真以外のものを貼りつけることや、図面のパネル化は行わないこと。
3. 応募資格：平成13年4月現在、高等学校在籍の生徒で、個人または共同で制作したものとする。
4. そ の 他：用紙や図面には、学校名・学年・氏名など応募者がわかるような表示は行わないこと。
   ※以上の条件に違反した応募作品は、失格とすることがある。

応募方法

1. 別紙用紙に、学校名・所在地・学年・氏名を記入し、封筒に入れ密封し、図面の裏に貼りつけること（記入用紙が足りない場合は複写して下さい）。
2. 共同制作で応募する者は、1.の記入用紙に連名のうえ、代表者に丸印をつけること。
3. 応募作品は学校を通じて提出すること。

締切期日

平成13年9月28日(金)付の消印をもって締め切る。

送付先

〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3-2100 大阪駅前第3ビル21階
社団法人 日本建築協会　第47回工高生デザインコンクール係
TEL. 06-6348-0633 FAX. 06-6348-0634

入選作品の数および賞

1. 入選作品は10点とする。
2. 入選作品のうちから最優秀賞1点、優秀賞2点以内を選び、賞状・賞牌および記念品を贈る。
3. 他の入選作品には、賞状および賞牌を贈る。
4. 応募者全員に参加賞を贈る。
   ※入選作品の版権は本会に属し、また入選作品は本会にて保管する。

入選者発表

審査の結果は、各学校ならびに本人に通知するほか、本会の会誌「建築と社会」11月号に発表し、入選作品は翌年1月号に掲載する。

審査員（50音順・敬称略）

委員長　吉羽　逸郎／㈱アイ・エフ建築設計研究所代表取締役
委　員　大井　昇二／㈱大林組本店建築設計部部長
岡本　　隆／㈱日建設計大阪本社設計室設計室長
門川　清行／㈱竹中工務店大阪本店設計専門役
川原村勝幸／㈱安井建築設計事務所設計部副部長
久保　清一／大阪芸術大学芸術学部建築学科助教授
小林　正明／鹿島建設㈱関西支店建築設計部副部長
阪田　弘一／京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科助教授
鈴木　道子／エム.アイ.エー.アーキテクツ㈲代表取締役
瀬戸本　淳／㈱瀬戸本淳建築研究室代表取締役
田中　直人／摂南大学工学部建築学科教授
高砂　正弘／㈱高砂建築事務所代表取締役
八杉　政一／㈱東畑建築事務所建築設計室設計部長
山本　光良／㈱昭和設計企画設計部企画室長
吉村　英祐／大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻助教授

このコンクールは、高校生の設計技能の向上を目的とし、昭和30年より毎年テーマを変えて開催しています。

「建築と社会」誌

特集一覧 ●1979~2000

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6348-0635、FAX 06-6348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1979 vol.60	●転換期の再開発＊	●大阪南港ポートタウン＊	●商業空間＊	●コンクリートのひびわれ	●日影規則＊	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌＊	●建築の終局強度の検討	●庄内のまちづくり＊	●80年代のインテリア＊	●第26回青年技術者＊	●建設業の労務事情＊
1980 vol.61	●80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	●住宅の耐久性＊	●建築行政と法規＊	●最近の防水工法	●都市景観とアメニティ＊	●屋内体育施設の設備＊	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材＊	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション・集合住宅	●これからの建築設計と新耐震設計法＊
1981 vol.62	●職能論＊	●中国の論文—北京の都市計画＊	●ポートピア'81＊	●台所まわりの計画と設備＊	●シーリング材の知識＊	●災害と法—安全な環境をめざして＊	●都市住宅—住まい手からの発想＊	●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集＊	●住宅・都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割＊	●間仕切壁の性能評価＊	●第28回青年技術者＊	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 vol.63	●新たな商業空間の展開＊	●省エネルギーと開口部＊	●医療施設—地域医療と設備計画＊	●近畿の地盤と地質＊	●都市景観—まちなみ美観への誘い＊	●大阪市庁舎（第1期）＊	●ホール建築と音＊	●大スパン構造＊	●昭和設計作品集＊	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築＊	●風土・空気と人間＊
1983 vol.64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設＊	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール＊	●集合住宅と生活音
1984 vol.65	●21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル＊	●ビルのリフレッシュ—内外装補修技術の現状と発展—＊	●建設産業とロボット開発＊	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル＊	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々＊	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 vol.66	●大阪湾物語＊	●東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール—それが生みだす文化—	●建物の表情—最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合—人体と建築にみる— ●日建設計作品＊	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 vol.67	●これからの住空間—都市型集合住宅にみる	●屋根—そのデザインと素材	●現代デザイン—ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発—その創造的仕掛けの鍵をもとめて— ●ツイン21	●CAD—その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 vol.68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚の街づくり＊	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 vol.69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明＊	●制振＊	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営善	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讃賓テレビ
1989 vol.70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 vol.71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館＊	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化—設計の多様化をめざして—＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営緒の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の景望と景観＊	●高級感—建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 vol.72	●新しい都市空間づくり—I— ●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり—II— ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号＊	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム	
1992 vol.73	●夢物語—人がかわる、まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン—東海支部—＊	●建築家のための設備知識—集合高層住宅の設備システム—	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り—住宅・都市整備公団関西支社10周年—	●木構造を使ってみませんか—集成材による構造—＊	●接着—建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」＊	●屋台—仮設の魅力に学ぶ— ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 vol.74	●第30回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営緒	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境—限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生—構造技術の役割— ●大阪市営緒	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第41回青年技術者 ●環境—人にやさしい空間創造をめざして
1994 vol.75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと視	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈＊	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって—会員作品＊	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美—建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 vol.76	●光がつくる風合の世界＊	●音—騒音から操音/創音へ	●飛騨・美濃—まちの活性化と地方文化＊	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法—会員作品	●新しい「都市・建築」の視点＊	●建築構造と社会の接点 ●日建設計＊	●ライフラインと建築設備＊	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 vol.77	●阪神大震災から学ぶ＊	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念＊	●遠江—その地方振興と文化＊	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 vol.78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり＊	●東海支部会員作品 ●金沢・能登—風土・文化とまちなみ・建築＊	●創立80周年記念/建築と私と社会—80人の眼—＊	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興—法・制度の運用と新たな展開へ— ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA＊	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法—会員作品—	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 vol.79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州—諏訪とその周辺—	●街並みの演出—最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備—ビルメンテナンスの立場から	●建築への証言'98—21世紀に向けて	●ゆれをとめる—たえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 vol.80	●"らしさ"のデザイン ●建築を綴る小野なモノの仕掛人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品'99 ●北信濃—街並み修景と地域文化の再構築	●都市のパブリック	●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法—まちづくり・すまいづくりへの展開—	●私の目でみた環境問題	●アーバンインテリア—都市空間としてのインテリア	●木とともに	●私の空間作法	●第46回青年技術者
2000 vol.81	●21世紀のデザインの動向を見る ●安井建築設計事務所創業75周年	●中国支部—しまなみ海道と中国地方の街づくり—	●東海支部会員作品2000 ●越中・富山—地域文化の振興と新たな施設づくりの流れ	●こころを癒す環境デザイン	●測る—測定方法と測定結果が意味するもの—	●スケルトン&インフィル	●改正建築基準法—パートII—	●100年後へのメッセージ ●日建設計創業100周年	●来世紀に引き継ぐ—わざ、もの、こころ—＊	●時間	●私の空間作法—会員作品— ●21世紀の高齢者の居住環境	●第47回青年技術者

＊は欠号

建築と社会 5 2001

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第82集／通巻950号

今月の表紙

デザイン／笹村欽也
今垣内千恵
建築写真／河合止揚

●日本放送協会大阪放送局

設計／渡邊仁建築工務所
施工／大林組
竣工／1936年10月25日
所在地／大阪市中央区馬場町

●その全体像が、情報発信のモニュメント的印象を与える建物である。つい最近までドラマのバックに使用されていた。情報を発信する側にとっても、受ける側にとっても想い出深い名建築である。　（笹村欽也）

■特集予告

6月号／成熟社会をささえるまちづくりー法令・制度・プランを活かしてー

7月号／現代の日本の空間、文化を探る

編集委員会（平成12年度）

■副会長
井上　豊
薬袋　公明
■編集理事
内田　直樹
小島　雄
佐野　吉彦
竹中　統一
畠山　祐治
広原　盛明
松村　慶三
◎宮田　照久
山田　修
■特集小委員会
□計画分科会
★計画系
伊縫　憲幸
梅田　善愛
梅村　宏尚
小浦　久子
※鈴木　克彦
田中　直人
紅谷　昇平
松田奈緒子
横関　真紀
吉村　英祐
★建築計画系
江副　敏史
※菅野　忠司
小林　優子
児玉　敬志
佐藤不二男
迫　淳海
桜井　則雄
笹村　欽也
塚本　史郎
所　千夏
野田　隆史
服部　光宏
★インテリア・住宅系
石川　佳子
加藤　力
北浦かほる
小梶　吉隆
佐藤　勝紀
田中　浩介
高野　直樹
※西田　和子
ペリー史子
本山　仁
□構造分科会
岩永　速典
※大氏　正嗣
金田　興熙
河野　隆史
木下　隆嗣
岸本　一蔵
佐治　明志
園田　隆一
田中　剛
田辺　太一
陶器　浩一
松村　和夫

□設備分科会
梶井　宏修
河津　隆之
近藤　国夫
※近藤　正一
田ノ畑好幸
西岡　道雄
野口　太郎
桝井　貴廣
村上幸三郎
谷津　和久
山根　敏和
□施工材料分科会
※植田　実
小椎八重猛
竹中　秀文
太刀川丈爾
能美　敏男
増田　信久
吉田　正友
□法令分科会
伊勢　照男
衣笠　春幸
黒木　省二
※椎名　辰之
中島　和也
西　輝行
■作品作風小委員会
△赤木　隆
浅尾　宏
朝倉　一晃
居内　章夫
井上　雅祐
川上比奈子
倉渕奈千子
寺岡　宏治
中村　文紀
林　孝司
前川　治彦
増田　敬彦
増田　俊哉
山田　俊紀
■会員企画小委員会
稲木　裕子
大谷由紀子
河崎　敦子
清水　麗子
△髙岡　伸一
髙田　光雄
辰巳　清一
塚口　明洋
辻川ひとみ
福田　瑞穂
■広告企画小委員会
小幡　義明
加納伸太郎
小山　昭
斉藤　治久
田淵　博昭
△武田　修示
千葉　耕作
平松　勉
福西　延招
前田　衛
渡邊　浩文

◎委員長　△副委員長　※幹事

印　刷　2001年4月25日
発　行　2001年5月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　話　06-6348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本データネット株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕

CONTENTS

特集●　自然素材をめぐる「もの・わざ・ひと」

［総論］　自然素材をめぐる「もの・わざ・ひと」●木下孝一　18

［素材］
木 ― 北山杉、杉、檜、外材　24
土（瓦） ― 岐阜産耐寒瓦、三州瓦　26
土（壁） ― 土佐漆喰、壁　28
草 ― 畳、簾　30
チタン ― 屋根、建築金物　31
石　32
紙 ― 和紙、襖　32

会告　総会議決お知らせー平成13年度事業計画書．平成13年度収支予算書．名誉正会員推挙．定款細則の一部改正ー．やまと郡山城ホール見学会．まちなみ見学会⑤京都・西陣の町家．茶室講演会①．茶室見学会⑯妙喜庵の待庵．これからの建築と社会②ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの事業戦略．講演記録集「話のはなし」残部頒布します！読者と織りなす"たて糸よこ糸"．第47回工高生デザインコンクールー設計課題：ライブハウスー．　1

作品作風　神戸商船大学総合学術交流棟　10
DNX新大阪ビル　12

gallery　竹包隠居/GAREGE REFORM●松井哲哉（川上比奈子・中村文紀）　14

建築の眼　住み続けられた風景（5）●吉田高子　デザインとエンジニアリング●時田　繁
東北と建築●黒田長裕　建物と人間の近似性（5）●曾根健二　16

REPORT　大阪市環境事業局舞洲工場ーまるでおとぎの国のお城ー●小笹光彦　33

素材と技術が生み出すデザイン　「タイル」●小林優子×大谷弘明　34

法令コーナー　パブリックコメント制度とは何か●椎名辰之　36

設備の頁　新冷媒の動向●片岡修身　37

構造の頁　建築と秩序●多田英之　38

新建材の頁　電磁波吸収ロックウール化粧吸音板●松本　章　40

information　大阪市立住まいのミュージアム開館．「松下電器のユニバーサルデザイン戦略ー主催／アジア太平洋トレードセンターー」．SDゼミ「住空間を考える」．シンポジウム「建築設備のリサイクル」．「建築仕上診断技術者」講習会．bautec 2002へ出展募る．環境・エネルギー優良建築物マーク．ハンズ大賞大阪作品展．3つのインスタレーション展．インテリアプランナー試験、受験申し込みは6月に．空間デザイン・コンペティション作品募集．「きのくにデザインコンペ」の結果．http://www.nittoso.or.jp/　41

月間の動き　平成13年3月分　43

資料　「協会21世紀を考える委員会」からの答申　47
日本建築協会定款　48
日本建築協会細則　51

南側外観

▼エントランス外観



▼テラスの水平線を強調した庇



作品
作風

設計■
神戸商船大学施設課
小笠原設計

監理■
神戸商船大学施設課

施工■
大林組神戸支店

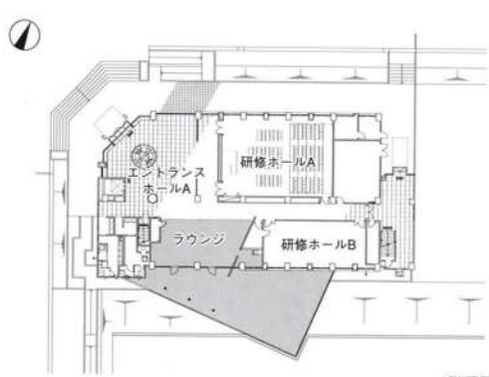
神戸商船大学総合学術交流棟

ビジョン21の中枢施設として計画がスタートした本建物は将来を見据え、学園生活を豊かにするよう配慮した。
また〈IT、Amenity、International、Ecology〉といった時代の最先端を考慮した上でコンセプトは次のように決定された。
1．学術情報の処理、交換、発信のセンター機能の役目をもつ。
2．学内外、国際的な学術情報の開かれた総合利用施設である。
3．地域共同研究センターとの複合により有機的連携を計る。
このコンセプトを具現化するにあたり〈Flexible、Borderless、Sharp、Open、Clean〉といったことを設計に取り入れると共に1階には“船”というイメージを感じさせるような空間を創出した。

【特徴】

・各階はフレキシブルに諸条件に対応できるように室構成は大空間とし、PS、EPSを集約した。このことにより、南側の海と北側の六甲の山々を同時に見ることができる。
・ラウンジは床にウッドデッキ張りテラスと同じ仕上にして、“船”のデッキにいるような雰囲気を持たせた。
・テラスの庇はシャープな水平線を強調したデザインとし、中央に設けられたルーバーは夏、太陽を遮り、冬にはラウンジ内部に取入れる角度に設定した。
・学生達のリフレッシュコーナーが海を眺めることができ、落着きのある位置に各階設けた。

（辻　英明/小笠原設計）



1階平面図　1：500

所 在 地 ——神戸市東灘区深江南町5丁目1-1
敷地面積 ——94,344.00㎡
建築面積 ——　873.00㎡
延床面積 —— 4,410.79㎡
構造規模 ——SRC、6F、PH1F
工　　期 ——1999年6月～2000年9月
最 寄 駅 ——阪神電鉄・深江駅
撮　　影 ——河合止揚



リフレッシュコーナーより南側の海をみる



ラウンジよりテラスをみる



エントランスホール

エントランス

▼外壁詳細



▼エントランスホール



作品
作風

設計・監理■
東畑建築事務所

施工■
戸田建設大阪支店
（電気設備）きんでん
（空調・衛生設備）ダイダン

DNX新大阪ビル

水質分析機器を製造、販売する米国企業の日本法人本社ビルである。建築主の業種がいわば環境ビジネスであること、敷地が学校、高層集合住宅、事務所ビルが混在する都市域にあること及び厳しい予算が意匠の動因となっている。西面にはブリーズソレイユとして機能するルーバーを取り付けたバルコニーを設けた。これによりペリメーターゾーンの解決を図っている。

隣地となる東、南面では最小限の開口に留め、設備開口はすべて、ルーバーのある西面に納めた。

屋上に小さな広場を創り、交差点から視認できる位置に１本の樹を植えた。道行くひとの目にとまる。広場には潤いを付与する。

（中村文紀／東畑建築事務所）

所 在 地 —— 大阪市淀川区西中島6-3-14
敷地面積 ——　755㎡
建築面積 ——　456㎡
延床面積 ——3,114㎡
構造規模 ——S、8F、RF
工　　期 ——1999年12月～2000年12月
最 寄 駅 ——JR新大阪駅
撮　　影 ——藤　義則／エスエス大阪

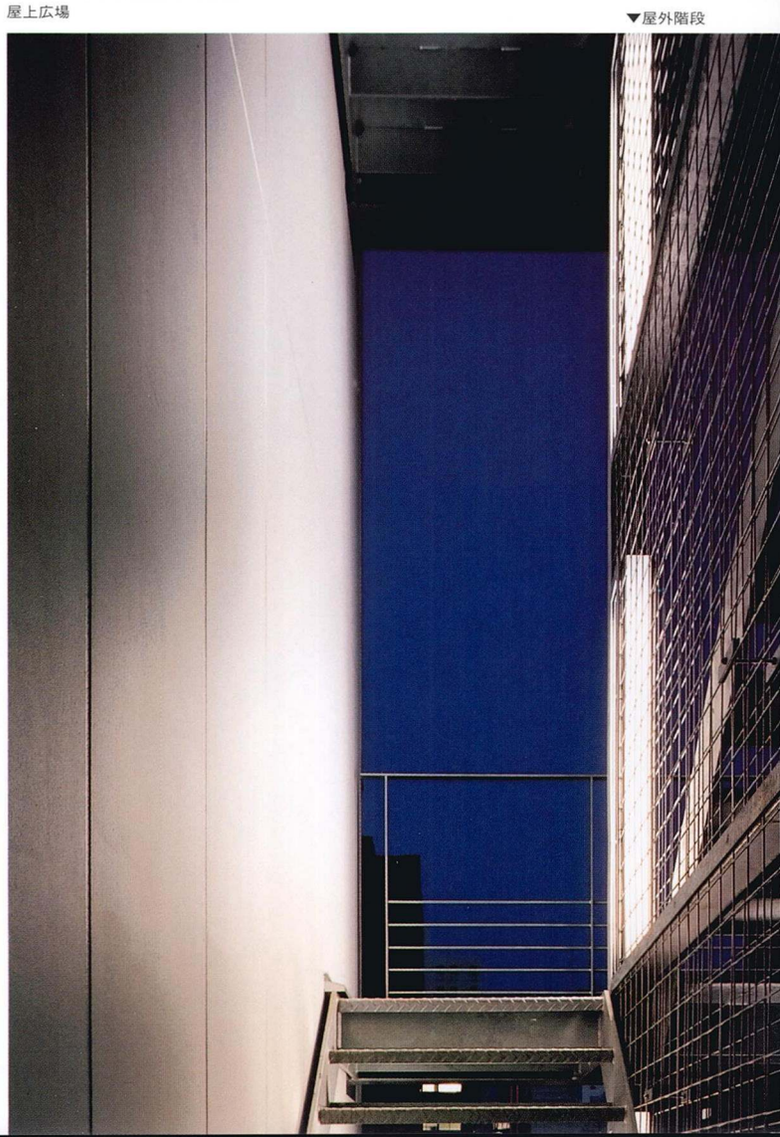


北西よりのぞむ



屋上広場

▼屋外階段



gallery

竹包隠居／GAREGE REFORM

設計
松井哲哉





松井哲哉（まついてつや）
1967　京都府生まれ
1990　近畿大学卒業
　　歌一洋建築研究所
1997　ウーズ　設立

tableau―伊藤尚美
撮　　影―福澤昭嘉
　　ウーズ／着工前モノクロ
企画編集―川上比奈子（作品作風小委員会）
　　中村文紀（作品作風小委員会）

・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・

・不景気・・・・・

・不透明・・・・・

・・・・・・・・・・

・・生きる・・・・・

・・住む・・・・・・

・・・・・・・・・・

・・竹林・・・・・・

・・ガレージ・・・・

・・土間・・・・・・

・・・・・・・・・・

彼は考えた・・・・・

・そして・・・・・・

・掘りはじめた・・

・・・・・・・・・・

・・dig・dig・dig・・

・・・・春・・・・・

・・・・夏・・・・・

・・・・秋・・・・・

・・・・冬・・・・・

・・dig・dig・dig・・

・・・・・・・・・・

するとそこに・・・・

・多くの人が・・・・

・あつまりはじめた

・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・

・・友人・設計・・

・・職人・画家・・

・・・・・・・・・・

・祭のような日々・

・・・・・・・・・・

・・一枚の床・・・・

・・木の戸・・・・・

・・雑草の築山・・

・・・・・・・・・・

そして彼は・・・・・

・住みはじめた・・

・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・







ARCHITECT's EYE

住み続けられた風景（5）

吉田　高子

近世大坂において度重なる洪水に対して、防災事業として宝永年間に大和川の付替え工事が行われ、古大和川の跡地には新田開発が盛んに行われた。開発当時は久宝寺川筋、玉櫛川筋、新開地之内、深野池之内などに34ヶ所の新田を数えた。それら新田経営の管理・運営のための事務所・倉庫施設が新田会所であり、新開池に開発された鴻池新田の会所建物（東大阪市）は現存し、重要文化財の指定を受けている。

隣接の大東市域においても数多くの新田が開発されたが、深野池に開発された深野南新田、河内屋南新田などは、大坂町人平野屋又右衛門に所有管理され、平野屋新田と呼ばれていた。その会所として平野屋新田会所が、その屋敷地・濠・会所建物と共に現存している。

終戦直後の昭和22年の航空写真には、平野屋新田会所、その周りの新田農家集落、農地となった新田とその区画、川、溝などが写し出され、宝永年間の開発者とその後の百姓たちの営みが見えてくる。

現在、平野屋新田会所屋敷はその機能を失い、管理棟に居住することもなく、建物は荒廃しその補修が望まれるところである。この屋敷の周辺は宅地化が進んでいるとはいえ、未だここを核として存在しうる環境を留めている。この会所屋敷は、深野池の決潰から農民を救った旧大和川付替え工事の記念碑として、平野屋新田（深野南新田や河内屋南新田）という豊かな農村地帯として開発された名残として後世に伝えるべきものであろう。

近畿大学理工学部建築学科教授

デザインとエンジニアリング

時田　繁

日本の建築には、日本古来の伝統建築も有れば、明治時代に輸入されてきたヨーロッパの建築の流れを汲む建築もある。では、建築の歴史の中で、現代はどのような時代になるのであろうか。建築設備の飛躍的な発展・ユニバーサルデザインの浸透に伴い、住宅の質も変化し、オフィスビルもインテリジェント化の流れに乗っているように思える。また、デザイン思潮の流れは、いわゆる現代建築からメタボリズム等へと移った上で、さらにポストモダンの時代を過ぎ、混沌とした状態になっているようだ。しかしながら、建築物は今も昔も人々に居住空間や執務空間を与えるものであることには変わりはない。ともすればデザインに目が向くことが多いのだが、建築にはエンジニアリングの面が有ることを忘れてはならない。その時代時代に応じた、機能的に十分満足のできる建築を提供することが建築に携わるものの使命であることは今更いうまでもないことと考える。多少の明るさは見えてきたようだが、長引く不景気の時代のなかで、ローコストを強いられることも多いだろうが、施主に対するアピールを考えるあまり、エンジニアリングの裏付けの薄い、デザインに偏した建築が多いように思われる。

今再び、原点に立ち戻り、デザインとエンジニアリングの関係を問い直してみる時ではないだろうか。

（社）公共建築協会勤務（前・国土交通省近畿地方整備局営繕部長）

東北と建築

黒田　長裕

最近話題の建築の一つとして、仙台メディアテークが挙げられるのではないかと思います。その構造の斬新性や透明感のある外壁等に話題が集中されがちですが、以前東北に住んだことがある経験から考えてみると、全国でも屈指のけやき並木を有する定禅寺通りの雰囲気に、最も自然と溶け込んだ解答である様な気がします。当建物に限らず、最近では随分東北の建築を雑誌で見かけることが多くなった様に思います。地元の針生さんや阿倍さんの作品、東京のアトリエ派の先生方が次々と作品を発表されています。以前の象設計集団他による沖縄の一連の建築、熊本アートポリスの数々の作品等、ある地域限定で一連の話題を提供しているプロジェクト群があります。前者は沖縄と言う土着性、後者は関係者の強い意志によるものと言えますが、東北の場合はどの例にあてはまるのか、いろいろ考えて見ますが、どうもうまい解答が見つかりません。東北ほど地域性に富んだ所はないかと思います。ただ、雑誌にとりあげられている多くのものは、現代風の透明感にあふれた建築が多く、地域性と直接結びつく部分は少ないかもしれません。ある意味では、東北がいろいろな意味で関東圏内に組み入れられてしまいつつある現状を反映していると思います。そうなると東京から最も離れた、司馬遼太郎さんが北のまほろばと呼んだ青森に今後実現するプロジェクトに自分としては興味を持っています。強烈な個性を持つ偉人を生み続けた青森の地域性が、建築をどう変容させるか今から楽しみです。

（株）エヌ・ティ・ティファシリティーズ関西事業本部都市建築設計部長

建物と人間の近似性（5）

曽根　健二

今回は人間と建物の最も異なる点に関して考えてみる。たくさんの相違点があるように考えられるが、見方を変えると類似点にもなり案外、異なる点を見つけるのは難しいが違うと考えられる点の一つに作用点がある。建物はもっぱら、その内部空間を利用するのに対して、人間は外部に対して作用する。つまり、建物はその内部の居住空間や、内蔵されている物体（低温を必要とする食物、定温定湿を要求される書物等）を保護するためにあらゆる機能が設定されており、特に人間を快適に過ごさせるため温度、湿度はもちろん、色や空間の構成、移動の簡便さ等あらゆる利便性を追求した機能を重視している。一方人間は、その作用点が外向きであり、ものを創造したり、機械を操作したり組織を作り大きな仕事を行ったり、その範囲は広大であり可能性は無限である。この点が最も異なる点と考えていたが、ある時建物も外向きな作用点があるのに気がついた。そう「景観」である。建物の設計者はその建物が建てられた後の景観を周囲の状況と兼ね合わせ想像し、最も調和の取れた形や色を選定することに全力を注ぐ。このことは重要な点であり町全体の景観や性格さえも決定する主要因と考えられると同時に外側から観た景観はその建物の用途さえも想像させる。最も、外見と中身が異なる建物も多く見受けられるがこの点は人間も同様であり昔から「見かけ倒し」のことわざが有るくらいである。

㈱きんでん技術本部理事・副本部長

建築の眼

木 竹 草 土 紙 石

自然素材をめぐる「もの・わざ・ひと」

本特集企画担当委員
植田　実（清水建設）／太刀川丈爾（竹中工務店）／竹中秀文（大林組）
十倉　毅（鳥取環境大学）／能美敏男（鹿島建設）／増田信久（大阪府）

自然素材をめぐる「もの・わざ・ひと」

木　下　孝　一
数寄屋研究所　心傳庵

建築材料が環境及び健康に及ぼす影響についての問題意識が高まっている中、その解決には、まず建築材料を知ることが必要である。

明治期から建築の学校では西洋建築中心に教育してきたため、木造建築が軽視され続け、環境や健康に悪影響のない木造建築の材料についての知識が忘れられてきている。材料・素材の研究はとても奥が深く、机上の学問だけでは不可能で、実際に材料を手に取り触ることで初めてわかるものである。私はこの道54年になるが、いまだに材料に関しては新たな発見が多い。また、研究者がそのような方法をとっていないことは残念である。

全ての木造建築の材料を実験・分析することは一人では無理だがこの度は実際に毎日材料に触れて仕事をしている職方の方々にご協力いただき、材料に関する知識や疑問点を挙げていただいた。ここでは、木造建築を計画する上での材料の知識を大まかに概説したい。

素材を生かす

素材を生かした建築の計画はまず基礎に始まり、土壌と、コンクリートと基礎石の性質を知ることが重要である。例えば造成地は、地震の揺れに共振しやすく建物に大きな衝撃を与え易いので、通常より強い基礎が要求されるし、水位の高い所では、無筋で漆喰やコンクリートで固め、花崗岩の長石を使用する。

耐久性のある建物を造るためには、コンクリートのベタ基礎に鉄筋をしっかり入れて岩盤のように堅くする必要がある。しかし、天然の川砂と違い、砂や砂利が悪くては、セメントに泥気が入って鉄を腐らしその腐食からコンクリートに亀裂が入るという悪循環を起こすため、セメントだけでなく砂や砂利なども見極めなければならない。

基礎に使う石も、安山岩、砂石、凝灰岩、花崗岩など、木材に匹敵するくらい種類が多く、含水率や強度もそれぞれ違っている。同じ種類の石でも、石の目というものがあり、適材適所に使い分けることは難しく、横割れしやすい状態に使うと大変なことになる。

今では石を加工するのも運ぶのも簡単に機械で行うが、石の目も水分のない死石の部分も、実際に手で触れて作業しないとなかなか分からない。

木の生い立ちを知る

木造建築で一番重要なのは木材で、製材をした時に木材の善し悪しが分かる。いかに大きな木であっても繊維の弱い木は製材した時に分かる。また、あて木といって硬さはあっても弾力性がないもの年輪の冬目と夏目のバランスが悪いものも割れやすい。これは目で見ても手で触っても分かりにくいものだ。

強度が同じ杉でも、年輪だけでは分かりやすいものとそうでないものがある。目が細かくて強そうだと思っていても、いざ割ってみると簡単にスパッと割れる木がある。こういう木は構造材には適していない。

北山杉の中の白杉は表面に凹凸があり、見た目がよくない。しかし、年数が経つと特に

茶室は木味といって喜ぶが、一般の住宅では好まれないことが多い。この木は良いものだと言って勧めても、お客様が喜ばないかぎり使われない。構造材に関しては、建物を建てる人間が責任を持って材料の検査をするべきである。

物を造るには目と手と足で材料を覚えるものである。数字や本だけでは覚えられない。昔から言われているもの、学者が本に書いている物を鵜呑みにせず、疑問を持って真実を求めることが急務である。今まで棟梁としてやってきて木材に関しては、この事を実感している。

私共が多く使う吉野の杉、檜が高く評価されているのはなぜだろうか。その理由を考えることは良質の木材を選ぶ上で大きなヒントになる。

春日杉や屋久杉は一般的には用材として手に入らないからこれは別格と考えてよい。戦争中の無計画な軍隊の伐採によって大径木が少なくなり、杉、檜、松、特に赤松や黒松の太いものは伐採されてしまったため、市場には良質材が非常に少ない。一般に今市場に出ている大径木は吉野材か秋田材が主流で、高知県の東部魚梁瀬地方のものも出てくる。

松の見極めには苦心する。目が細かいから大丈夫だと思うのは間違いで、寸法だけでも計算できないものがある。伐採の時期を間違えると虫が付きやすくなる。

小さい木は狂っても柱を割るほどの力はないが、１尺（約30㎝）以上の梁を使う場合はよほど注意しないと割れたり、やせてきたりする。

吉野杉は年輪幅を細かくして強度と耐水性のある木材にするため植林の時から密植して、間伐まで計画されて育てられている。吉野の寒さと、細やかな植林計画から生まれる木材の艶と強さが昔から良いとされてきたのだ。

しかし吉野材でも、育つ土壌や環境によっては良い木も悪い木もある。斜面地で育った杉や水位の高い所で育った杉では同じ吉野杉でも質に違いが出る。だが現状は、一本一本の木の原木から中身を見極めることは難しく、産地で特定せざるを得ない。実際に産地別に木材を見てみると、吉野材は良い材が60%以上で、それでも半分以上なので良質材といわれており、結局杉、檜の良質材といえば吉野材といわれるわけである。

ところが、そのような優秀な木材を山林で手間をかけて育てても百年未満の木は採算がとれない。最近は、値段が下がり、売ることも出来ないという状況だ。見た目と値段の安さだけが要求されてきた結果、強度はないが安い木材の方が求められ、良質材を育ててきた生産者を苦しめている。

どの産地でも荒く植えて早く太くし、早くお金になる安易な植林になってしまっている。木材の善し悪しを設計士や建築屋が知っていれば、強くて良い木の需要が多くなり良質材を作ろうと努力するだろうが、今のままでは良質材を育てる植林技術までもがうしなわれようとしている。

また、樹齢千年の木は千年耐える、北向きの木は北に使え等といわれるが、これは木のことを十分に識る人には通用するが、一般にはこの言葉を鵜呑みにすると間違うことがある。

木材についての知識不足は、建物自体の危険も招く。茶室の柱には直径２寸７，８分

(約８cm)のもので、40～45年の木を使う。細い柱なので、なるべく強い年輪幅の細かい木を選ぶ必要があるのだが、設計士は見た目の寸法と値段の安さだけから選ぶので、20年～25年でその太さになった弱い木を注文することになり、構造材として欠陥を生じてしまうのである。

台檜、木曽檜、東北地方の檜は年輪がいかに緻密でも繊維が柔らかく、腐りやすいので基礎のコンクリートに直に置くとすぐ腐る。45年生の北山産の白杉にははるかに及ばない。

物を知らないことは幸せなのかもしれないが、知らないということほど恐いということでもある。僅かな差で、経費を節約すればもっと良い木が使えるのに、そのような設計士に依頼したお客様にとっても不幸な事である。

壁の強度は下地の吟味

壁については、壁土の前に下地の吟味が重要である。壁下地の貫(ぬき)は構造材なので、強度を保つ材料にしなければならない。それを、ある現場ではスプルースの柾板にしていた。柾目なので狂わず安いと思って使ったのだろうが、これは釘が効かないほど弱い材で、竹下地を止めることもできない。予算がなければ杉の床板の両端を使うなど、工夫すればいくらでも強い貫に出来るのだが、材料強度も知らず、そういう心がけもせずに、完成すれば見えないところだから安く済ませようと思っているのは、知らぬが仏としか言いようがない。

壁の竹下地については、東京大学の有馬教室で１年４ケ月かけて竹のデータを出している。糖分と澱粉質をいかに減らすかということは昔の人は簡単に出来ていた。下地に使う竹は、割って干して乾燥させることで澱粉質を減らすことができる。竹を伐ったまゝ束ねておけば必ず虫が入る。ましてや防虫剤を使うと、繊維がおかされてしまい、それを束ねて保管しておけば、朽ちて音もたてずに折れてしまう。公共事業で使う竹下地も防虫剤入りの竹を使っているが強度を保っている物を使っているのか心配である。

竹は表面の繊維の強度が重要である。折ってみれば子供でも分かる。折れた後の繊維が長く残るほど良質材といえる。また、竹を編む縄にはシュロ縄（棕櫚）と科学繊維で編んだものがある。シュロ縄は、土付きが良く丈夫であり、後者の方は土付きが悪く、土が湿気を含むと裾の方からボロボロになって弱いのだが、下地をかく時に滑りが良くて扱いやすい。

藁縄も同じ材料を使っていても叩いて編んだ手縄は丈夫で、叩かないで機械で編まれたものは強度が半減する。手で触って柔らかい縄ほど丈夫である。

壁土には、火、水に強い土、夏の長時間の熱に耐えられる土、保温力のある土など、色々な性質の土がある。それらの粘土と砂、スサなどをいかように調合して、どういう所に使ったらよいかという研究はあまりされていないようだ。

屋根瓦の下に使う屋根土は長時間熱を受けても断熱性を保つ土を選ぶ必要がある。土の防火性については、私は焼き物から多くを教わったが、土壁の防火壁を作る調合を研究し

ている。

昨年、最低レベルの仕様で作成した土壁で、防火実験を行ったが日本建築学会の東北大会（2000年９月）で「最低のレベル」という表現がはずされて発表されてしまった。順次色々なレベルの土壁実験を行い、いずれは発表したいと思っている。

私は30年以上土の研究をしてきたが、最近ようやく見えてきた。

建築の寿命は屋根の雨もりから

建物のほとんどが屋根から悪くなり、雨もりから廃屋につながるといってもよいだろう。

屋根材では、瓦、金属屋根と、杉皮、木を割ったもの、茅葺きなどの材料とその仕様を知る必要がある。個々の詳細は省略して、問題点のみを挙げる。

金属屋根下地に使ったコンパネに釘止めするが、釘から結露をしてコンパネと釘自体を腐らせて、台風で簡単に屋根をめくれるような危険を招いてしまう。実際に、新築から18年目のある寺での銅板屋根の葺き替え時に、既に屋根下地のコンパネが腐り、釘抜きやバールを使わずに素手で銅板がめくれた時は、屋根下地材の大切さを再認識した。私共では、チタン材（半永久）を使うようになってからは、屋根の下地板は１寸（約３㎝）厚赤杉板を使い、釘の先が下に貫通すると結露につながるため打ち抜かないように、１寸釘を斜めに打つようにして止めている。

瓦屋根も下地さえしっかりしていれば結露せず、土どめや土葺きをしても危険はない。瓦や屋根土で重くすると建物に重量がかかり過ぎて良くないと言われるが、建物にはある程度の重心をかけていないと落ちつかず、屋根が軽すぎると台風で飛んでしまうこともある。私の住んでいる京田辺市は、第二室戸台風をまともに受けて、公営住宅が数棟倒壊し、アルミの瓦棒、桟葺きの家の屋根が、桁がカスガイで止めてあったが抜けて現実に数百メートル飛ばされている。

瓦自体の選定も、建物の建つ場所によって変える必要がある。凍害の起こりやすい寒冷地では堅くて強い瓦を使用しないと割れてしまう。悪い瓦を使うと弱い地震でも角がはがれてしまい、そこから凍害が起こってしまう。

自然素材は呼吸している

建具の材料選定も非常に難しい。僅かな細かい部材で常時動かすものだから、材料の木の強弱がはっきり分かるのは建具だともいえる。

腰板に使う九州の霧島の杉などは少なくても建具にしてから15年から20年以上経てば艶が出てきてますます良くなるのだが、今はデザインと値段ばかりが重要視されてそういう材料が使えなくなり、スプルースなどの外材で作られる建具は、数年で繊維が弱いために建付けが悪くなってしまう。

障子の和紙にしても、一般には美濃紙が主流だが、同じ三椏（みつまた）、楮（こうぞ）を

使っても産地によって色々な特徴がある。黒谷のようなお札に使用されるような紙や、越前奉書のように独特の味がある紙は、持ち味を生かすように使いたい。パルプの入った紙と純和紙では保温と室内の空気換気で大きく異なる。

茶室の天井にはマコモという草で編んだ物を使うが、床材の蒲と混同されることがある。神様の三方に使うのがマコモで、土場の上敷きや夏に素足で土間を歩けるようにしたり、湿気止めに敷くのが蒲だ。その蒲を天井に使っているのには驚いた。知らなかったということで片づけてよいものか。

藺草（いぐさ）を使う畳も、最近は良いものがなくなってきた。狭い空間で使われる茶室では畳も吟味され、人が歩いてギィギィ鳴ったりせず茶道具を置くので凹凸があってもいけないし、何年たっても真っ直ぐにシャンとしていることが大事である。

今はないが「中継ぎ表」を使うと、お酒をこぼすとコロコロと露のように転がってしみ込まない。そんな良い畳が昔はあったのだが残念ながら材料不足で今は出来ない。

スタイロ畳は修理がきかず、藁床でい草表の畳のように土に返らないので、使用後の処理の際に環境汚染が問題となる。同じ藁床であってもナイロン糸が使用されているものは糸だけが残り、周りに絡みついて迷惑をかけている。

素材についてはよく考えないといけないというのは、畳の場合特にいえることである。

昔は普請道楽といって何代も続くような家を建てようと、大工や左官にどれだけお金をかけて、どれだけ良いものを追求したかということを自慢していた。今はどれだけ安く早くできるかという事だけでものを作るから、良いものは出来ない。工事を請ける方もそのようにしむけたのかもしれない。日本の文化は変わってしまった。本当に一つ一つ文化が消えていく。本物が消えていってしまう。時代の流れといってしまえばそれまでだが、あまりにも物を知らずに値段だけ、数字だけに追われて数字しか知らない人間が建築に携わってきたから、何もかも消えていくのではないか。

建築と教育

昔はお客様を自分の家でもてなすという風習があった。私は貧乏な農家に生まれたが、それでもお客様の入る玄関と、一般の人が入る玄関と、台所の出入口となる勝手口の三つの入口があった。茶匠の千利休は既に二帖、三帖の茶室をお客様をもてなすための空間としてニジリ口、茶道口、給仕口とそれぞれの役割を持たせて入口を作り、今でも茶道ではそれが継承されている。家庭生活でもお客様をもてなすということから、子供や孫は色々なことを見て学び、伝統や作法や他人への気配りの仕方を覚えてきたはずだ。今のように核家族になり、各世代が別々に暮らすようになり、マンションで子育てしていては、自分のことしか考えない子供になるのも無理はない。小学校に入る前から子供部屋を与えられ、鍵をかけて自由放題にしていては、他人に気を使うということが出来なくなるのも当たり前だ。

これは教育の崩壊で、それを学校で補おうというのは無理ではないか。また、住まいに

は天然素材が使われていないから、風邪を引きやすく花粉症や病気になりがちになる。山林が荒れると木が自分の寿命を知って一斉に花を開いて子孫を残そうとするが、それで花粉が多くなっているのではないか。

家の床材がフローリングとベニヤでは、触れた感触が冷たく、足だけでなく気持ちも冷たくなってしまう。なにしろフローリングもベニヤも死んだ材料なのだから。死んだ素材とは加工品のことだが生きている材料は、暑いときには乾燥して縮み、水を含めば息を吹き返す天然の素材であり、そういう材料で建てた家で子供を育てたい。

建築の教育は何を教えてきたのか。私は今の大学生を弟子にとってみて初めて、大学では「ものつくり」の職人を育てることが出来ないことが理解できた。東京美術学校が東京芸大になった当時、東京芸大では当時の最高の職人であり芸術家でもあった松田権六、加藤土師などを集めて学生を教えていたが、実際に何人かの芸術家、職人が育っていった。今のような学校では、学者は育っても芸術家や「ものつくり」は育たないのだ。一体、もの作り大学では何を教えようとしているのか。社会に役立つ「ものつくり」を育てるには、昔からの丁稚制度で私たちが一人ずつ育てるしかないと自信を持って言える。

学校を存続させるには、実際にものを作れる人間が教えることが唯一の方法だと思うが、それも考えを切り替えなければうまくいかないだろう。

フランスには、後世に残したい建物の工法の派遣職人を養成している。日本でも良い建物を造ろうとする人には、最低の基準の建築基準法を離れて、天然素材の木造建築が建てられるような制度が必要である。それには職人が全部結集する必要があるが、今なら知識や技術のある者が残っているのでまだ間に合う。

大工、左官、板金、建具、畳などの各職人の棟梁が集まり、それぞれの職種の素材、技術や木構造をマスターしたグループを束ねられる棟梁が必要である。今は数寄屋の素人でも棟梁といわれるようになっているが、本来の棟梁はそういうものではない。国際的にも通用するような棟梁の会を林業界を含めて作り、実際にものを作れる人間が集まって、知恵を結集すれば本当の教育もできるだろう。

私は自分の責任の持てないものは作るなということを第一に教育している。責任の持てない人の指図にも従ってはいけない。施主の意見だけはよく聞いて、自分のプロ意識をもっと高めて研究していくべきだと思っている。

プロフィール　1931年　石川県に生まれる。
1947年　京都にて酒井安太郎氏に弟子入り。
1954年　京都仁和寺の光琳好遼廓亭に感銘をうけ、平井滋造棟梁に師事。
1966年　数寄屋師として独立。
1993年　京都府伝統産業優秀技術者賞を受賞。
主な建築作品
酬恩庵茶室・酬恩庵新庫裏・宝物殿・方丈修理〈重要文化財〉（京田辺市）
光悦寺庫裏・書院・茶室・本堂・屋根替大修理（京都市）
三輪休雪邸（萩市）、大阪城黄金茶室復元、祖形待庵（京都大徳寺・瑞峯院内）
薬王院庫裏・茶室（東京都）
他、広間・小間70席

木

北山杉（構造材）

産地
中川（京都市）
材種
シロ杉、シバハラ、タネスギ（挿し木の苗木）

シロ杉

シロ杉にはホンジロ、ミネヤマジロ、ホウヅキジロ、コネンタニジロと4品種がある。中でもホンジロは成長は遅いが、材質は緻密で表面は白く、シロ杉の内でも材質として最も優れている。

昭和初期頃までは数多く生産されていたが現在は作られていない。心傳庵（京都府京田辺市）所有のものが最後かもしれない。

一応の目標樹齢は40～45年生が柱材、桁材として強度もあり優れている。

育林
苗木を育てる→移植→下刈除伐→間伐→枝打ち、蜜植→枝下12m位まで枝を打ち上げる。

伐倒
2月頃、枝じめをする（色、光沢、品質を良くし、亀裂を防ぐため）
秋、根元より伐倒、同時に枝葉をつけたまま、山で皮をむく。

乾燥
・山で立て干しにして乾燥させる（7～10日間位）
・搬出して適当な長さに切り、背割りする。
・昼は外で、夜は倉庫内で自然乾燥させる。
・“菩提の滝”の砂で磨いて製品となる。

特長
・真っ直ぐ。
・真丸。
・末落が少ない。
・材質は緻密。
・節がない。
・木肌が美しい。
・なめらかで光沢がある。
・ひび割れが少ない。

現状
・成長が遅く、採算がとれないこともあつて植林されにくくなった

シバハラ

樹齢25～30年生のものがよい、表面がきれいなことが特徴である。非常に成長がよいので多く植林されている。

構造材として使用されている。

育林
9月～12月頃伐倒し、1ヶ月位で葉を枯らす。水圧で皮をむく。色が出たら人工乾燥させ、洗って出荷。　（株）松文商店）

杉・檜（構造・造作材）

杉

産地
秋田（秋田県）　吉野（奈良県）
白山（石川県）　魚梁瀬（高知県）
春日（奈良県）　霧島（鹿児島県）
屋久島（鹿児島県）

特長
・ほんのりとした赤味を帯び、美しい柾目をしている。
・杢目は時代を経るごとに飴色に変化して美しさが増してくる。
・水に強く、耐久性があり、20～30年くらい変色しない。

産地にみる特長
秋田杉－冬目が柔らかく油分が少ない。
吉野杉－民有林だが、手入れが良く通直、冬目が硬く、油分があるので時代とともに飴色になり美しい。
中国産－冬目は秋田杉より硬いが、赤身部分が黒くなり風味が悪い。
並　杉－その他の杉は柾目が粗く、伐採時期を配慮しないため、色の美しさに欠けるので建具にはあまり使われない。その他吉野杉など最高級の柱材である

現状
現在、建具材として入手できるのは秋田杉、吉野杉がほとんどである。　（株）トクダ）

檜

産地（国内）
木曽、天竜（長野県）　高知（高知県）
飛騨（岐阜県）　高野山（和歌山県）
尾鷲（三重県）　吉野（奈良県）など
構造材の主役である。

杉より硬く硝子戸や板戸の枠材に使用する。
建具材として使えるのは木曽檜だけで、他の檜は堅牢で油分が多く艶が良いため、柱材となるため建具材が取れる大径木になる前に伐採される。
大径木が出ても値段が高く使えない。　（株）トクダ）

外国産

米　檜－木曽檜と似ている。
台　檜－木曽檜と似ているが、伐採しすぎて輸入禁止
中国檜－台檜より品質は劣る
（ラオス産）
ヒ　バ－水に強く檜の代わりとして使用。国内産としては関東、東北にもある
米ヒバ－柾目は日本産より細かい、大径木も多い。
サワラ－木曽五木の一つ。赤杉の代用として使用されるが、量が少ない。
米　松－日本のトガサワラと同属。松と杉の中間で松に近い。柾目は直通、硬さは中庸、色は淡赤色、脂が出やすいのが欠点。
ｽﾌﾟﾙｰｽ－米唐松で日本のトウヒ（唐檜）やエゾマツと同属。色は淡黄色、柔らかく素直で加工しやすいが湿気に弱く耐久性に欠く。構造材には適さない　（㈱トクダ）

ひとこと

安全性

木材は燃えやすいが、熱伝導率が金属に比べ低い、木材に火がついても裏側には熱が伝わりにくい。
昨今の火災で死者が出るのは、燃える木のせいではなく、プラスチック系の新建材や化粧合板の出す煙によることが多い。

素材を生かす

ものを作るには、素材の性質をよく知らなければならない、木材の腹、北側の部分で冬目が柔らかく素直で狂いが少ないので建具材に適している。

木材に水分が含まれていると乾燥時に木材の収縮で製品が狂うので、冬に樹を切り出し最低６ヶ月以上乾燥させる。自然乾燥により時間をかけて木の中の水分やアクを抜いていく、その間、空気中の湿気を吸ったり吐いたりしながら乾燥して気候になじんでいく、伐採された後も生きているといわれるが、このように呼吸しているからだ。

節や瘤も時代とともに別の美しさに変化する、そんな楽しみにも期待したい。

伝統技術-1

木製建具の組み立てには金具を使わない。ホゾと穴と接着剤そのため補修が簡単にできる。

酬恩庵一休寺の本堂の舞良戸、一枚板戸の下桟が蟻ホゾにしてあり、建具を壊さなくても下桟が取り替えられるように作られている。この素晴らしい先人の知恵を後輩に残したい。

伝統技術-2

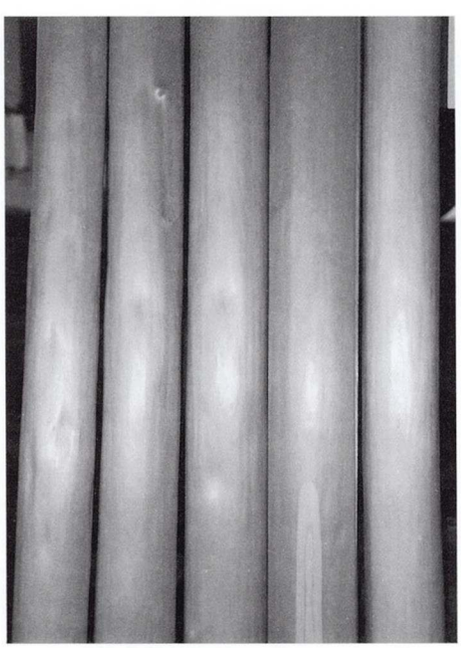
機械化が進み、職人の技を超える正確な加工が部分的にできるようになったが、職人が長年にわたり工夫を重ねて開発してきた道具が姿を消してしまった。しかし、針葉樹の仕上げの鉋がけだけは、手鉋で仕上げなければ木の持っている特有の艶と光沢がでない。

伝統技術-3

職人の世界にもかっては優秀な人材が多数いた。基本の技術を習得したのち、さらに向上させていく中で、素材の持ち味や欠点を熟知し、適材適所に使い分けてきた。

数少なくなった職人も技術の習得に時間がかかり、技術の未熟なままで素材への知識もなく仕事をしている、そこへ追い打ちをかけるように新建材による加工された部材が出回るという悪循環に陥っている。

先輩達の築き上げてきた伝統の技術が今や失われつつあることに危惧している。



左３本、シロ杉。表面に凹凸がある。
右２本はシバハラ



上段左／北山シロ杉、直径３寸６分（約12㎝）43年製。
上段中／杉、市場材の直径３寸２分（約11㎝）10年もの、25年ものは４寸７分（約15㎝）。
上段右／吉野杉、直径３寸２分（約11㎝）15年製、４寸７分（約14センチ）は50年かかる
下段左／檜サビ丸太、直径３寸６分（約12センチ）23年製。
下段左より２本目／シバハラ（杉）、直径３寸６分（約12㎝）20～23年製。

土

－1－

岐阜産耐寒瓦(本磨瓦)

粘土

岐阜県産粘土には高温焼成を可能にするために重要な役割を果たす成分を多く含有している。

粘土の三原則

1．石英（石の粉）
2．カオリン鉱物
3．絹雲母（木草類が腐食したもの）

・絹雲母は石英とカオリン鉱物を接着させる役目をする。
・カオリン鉱物の含有が少ないと、粘土の密度が細かすぎて吸水率はよいが、吸水した水分が蒸発せず高温焼成しても凍害の原因となりやすい。

製造工程

原　土	採土後６ヶ月以上曝す
↓	
配　合	３～４種類の粘土を調合する
↓	
土練り	水を加え練る
↓	
荒地、成形	
↓	
磨　き	成形後、金ベラで磨く
↓	
乾　燥	５～10日乾燥
↓	
窯積み	
↓	
焼　成	あぶり 30℃～500℃　30時間 本焼成 500℃～1200℃　16時間 いぶし 1000℃0　0.5時間 冷　却 1000℃～500℃　28時間
↓	
選別、包装	

磨き工程（いぶし瓦）

成形後一枚毎に木型の上にのせ行儀を矯正する。鉄ベラで入念に磨きあげたのち、乾燥・焼成に入るが、現在、ほとんどの産地でこの工程はカットされている。

磨き工程を行うことにより。

・製品の表面が締まる。
・銀色の光沢を保つ。

岐阜県内でも約30業者の内、この磨き工程を取り入れているのは２割にすぎない。

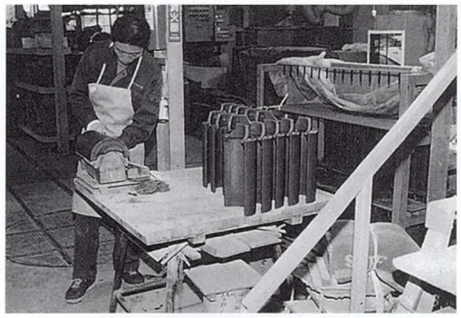
性能

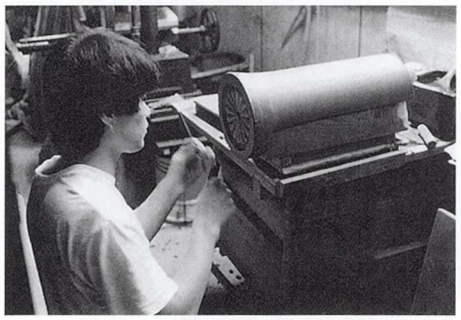
吸 水 率	3.2%
強　　度	曲げ破壊荷重（N）2942以上
耐寒温度	－30℃　異常なし

吸水、耐寒試験；岐阜県陶磁器試験場

（資坂井製瓦）

磨き工程（坂井製瓦）







三州瓦(本磨瓦)

産地

愛知県

主な種類

・平板瓦

・和型陶器瓦

・敷瓦

・壁瓦

耐久性

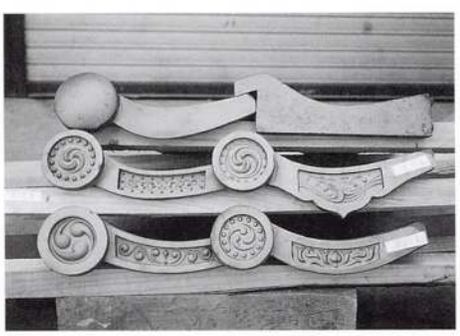
耐用年数が100年と長いので、建て替え時でも降ろして再使用できる。　(黒川瓦工業)



白鳳時代の実相瓦をアレンジした岐阜瓦（心傳庵型）。
室町時代の唐草をアレンジしたもので、正面の切り込みの幅が広い、デザインには留意しているが彫り込みは単なる意匠的なものではなく、2段に切って裏に水が回らないようにしている。



左から岐阜産、三河産、淡路産。
三種ともそれぞれ粒子が異なる、瓦を割って砂の配合をみる。叩いた音も違う。硬いものでも寒さに弱い物もある。
岐阜瓦は5種類の配合がされており寒さにも強い。



軒瓦
上段左、右は淡路産一文字、唐草模様のないものは水が裏に回って淀が腐りやすい。
中段は三河産、唐草の彫模様によって水を2回切るようになっている。
下段左は京都産、彫りが深くて広い。下段右は淡路産、彫りが浅くて狭い。

ひとこと

古代色

日本建築には和型古代いぶし瓦のわざと色むらを出しものが好まれる。

ねじれ

30〜40年前までは、“ねじれ”のある瓦を職人は組絵をするように葺いていく、口が空いたところからは、下からの湿気や温度が抜け、屋根地が腐らず長持ちし家の中の空気が入れ替わり快適な居住空間を作っていた。

現在では、少しの隙間もなく葺くのが、職人の腕の良さと言われている、そのためには換気棟を取り付けなければならなくなっている。機密性が高すぎて健康に影響を及ぼすこともある。

似て非なるもの

岐阜県内の瓦業界では常に品質の良い瓦を作りつづけるべく努力しているが、他の地方の原料と製法で焼成後、化学薬品処理によって銀色にしたり、磨き工程を省略しているのにかかわらず、プレス型に「本磨耐寒」等の刻印が打たれて製品として出ているものある。

工場が岐阜県内にあるので岐阜産として出荷されている。産地指定にあたっては「岐阜産耐寒瓦磨き」については原料の粘土、磨き工程等も仕様に入れていただきたい。

いまのままでは「岐阜産耐寒瓦磨き」はいずれ淘汰されてしまうことになるであろう。



光悦寺（京都）のチタン屋根。江戸末期の鬼瓦はそのまま使用した。ひれは本来なら鬼瓦の厚みの7〜8掛けの寸法にするが、軽さを出したいので厚みを半分以下にして納めた。

土

－2－

土佐漆喰(練り漆喰)

産地－高知県

高知県は風雨の激しい地域であるため、それに対応できる壁材として土佐漆喰が生まれた。
また、石灰石の産地で、南国市稲生地区の原石が漆喰にもつとも適している。

消石灰のアルカリ成分とワラのアルカリ成分およびニガリ成分を多量に含み完全にアク抜きしたもので、コテすべりもよく施工が簡単、亀裂、離脱のおそれもなく防火壁となる左官材料である。

製造工程

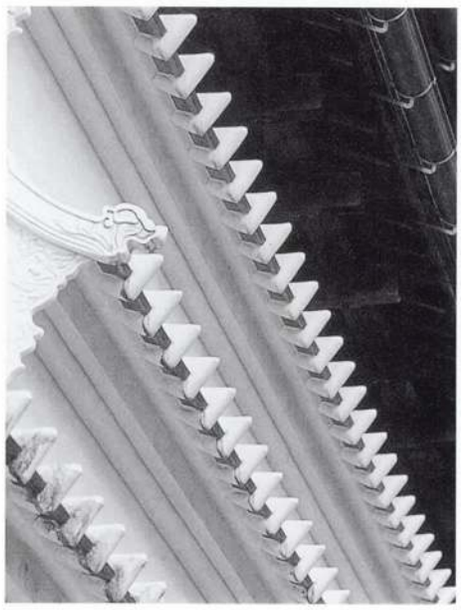
1．石灰石に工業塩を入れて焼成し、粒度の大きい消石灰にする。
2．わらを発酵させる。(スサづくり)
3．1と2を水で練り混ぜ製品とする。

＊一般漆喰が使用しているツノマタ、接着剤、ノリ等は使用しない。

特長

・風雨に強く、不燃、防火性にすぐれている。
・時間の経過とともに性能が向上する。
・混水量が少ないので乾燥後の収縮が小さく、クラックの発生を抑えることができる。
・吸放湿性能にすぐれているので、換気性があり結露を起こさないのでカビやダニの発生も防ぐことができる。
・すべて自然素材のみでつくられるので、人と環境にやさしく、リサイクルもできる。
・多用性にすぐれた素材で、コンクリート、レンガ、ラス材、石膏ボード等、あらゆる下地に対応し、下塗り、中塗り、上塗りのどの工程にも使える。

(株)栗田商店



壁

日本における代表的な左官仕上げには、主に土壁、大津壁、漆喰壁の三種がある。基本的に左官工事の壁は、壁の下地作りからはじまり、下壁(荒壁)、中塗、上塗の三段階を経て完成する。

壁下地には古来からの竹木舞下地や、木摺下地、さらに、現代の工法や材料に合わせてさまざまな下地がある。

下地

木舞下地－間渡し竹と木舞竹を縦横に配し、縄を用いて掻きつけた下地。
木摺下地－木摺板を柱に横貼りした下地。普通は木摺の上に直接粗壁は塗らず、まず、下塗用の漆喰を塗りその上に土壁を塗る。

荒壁

木下地に直接塗り付ける下塗材で、下地竹との堅固な結合が求められる。

材　　料－粘性のある粘土質の土で。15㎜ふるいを通過する程度のもの。
水合わせ－土に水を入れてかき混ぜ、スサを土の盛量の½程度入れて放置する。
(水合わせの期間を長く、古土の混入率わ多くすればアクの出も少なく、凍害の恐れも少なくなる。)

◇ちり回りと斑直し

荒壁の後、中塗をする前に柱と壁が接する部分や貫部分の処理や、荒壁全体の調整(斑直し)を行う。

中塗

荒壁の上に塗る材料で、壁全体の中心となる部分で、亀裂のないこと、強度があること、厚さの薄い上塗の下地材として不陸やコテ斑がないこと等精度が求められる。

材　　料－土は1.5㎜のふるいを通過する程度。中塗スサ、砂。土の粘性によつて調合比率が異なる。

上塗

上塗とは壁の仕上げのこと、特に化粧材として表面の色合いやテクスチャーの美しさが重視される。

土壁の仕上げには大きく分けて、水捏ね仕上げ、糊捏ね仕上げ、糊差し仕上げの三種がある。特に土壁に糊を使用するのは、日本独特の方法である。

また、他の代表的な土壁の上塗仕上げとして、切り返し仕上げ、引き摺仕上げ、長すさ仕上げ、ささら仕上げ、砂壁、錆壁、ホタル壁、中塗土のまゝの仕上げ等がある。

土材の種類

中塗土－淡路中塗土－内壁、外壁の中塗土として用いられる。黄褐色、淡路島産。

伊勢赤土――内壁、外壁の荒壁土や中塗土として用いられる。薄赤色、伊勢産。

武生中塗土－内壁、外壁の中塗土として用いられる。薄褐色、武生産。

上塗土－聚楽土――内壁、外壁の上塗土として用いられる。茶褐色、京都産、大物仕上げ。

稲荷山黄土－内壁、外壁の上塗土として用いられる。鮮やかな黄色、京都産、土壁、磨き大津、並大津など。

明石赤錆土－内壁、上塗土として用いられる。赤茶色、明石産、土物壁。

浅黄土――内壁、外壁の上塗土として用いられる。薄緑色、淡路産、主に大津壁に使用。

白土――大津壁に使用。白色、静岡産。粘土分の多いものは焼き物に使用。

土蔵

土蔵の施工方法には、日本各地でさまざまな特色のある工法がある。土蔵は貴重な物を収容するための建物で、火災や盗難から財産を守る目的を持っている。その左官工事はとても手数を要し、木舞掻きから、下塗、上塗の各工程の間に、土や漆喰などが十数回も塗られ厚さは約28cmにもなる。特に、出入口の扉や窓は、防火のために隙間をつくらないよう手の込んだ施工がされ、扉は普段開け放しておくので、扉の裏側が表となるので、さまざまな意匠が施される。（久住左官）

ひとこと

美しさ

日本建築の柱と梁の架構敷構造では、壁は非耐力壁で、なおかつ柱などに分割されて壁の面積も小さく区切られる。

また、夏の日差しを遮ったり、雨が多いことから、全体として軒の出が長く外壁を保護する役割を果している。

このような条件の中から、強度だけでなく美しさにこだわるさまざまな土壁の表現が求められてきた。

実験

中塗用の土と上塗用の土、砂やスサ、糊等を混ぜ合わせた材料などを用い、38種類の土壁の見本を作成し、それぞれの土壁につき次の実験を試みた。

・土の粒度の分布を調べ、土に含まれる粘土、シルト、砂等の量の測定。
・水滴によって穴を開ける実験。
・磨耗度を調べる実験。
・収縮率を調べる実験。

この実験結果は磯村雅子氏の「日本の壁＆土壁材の実験レポート」((1998) にまとめられている。

防火・耐火

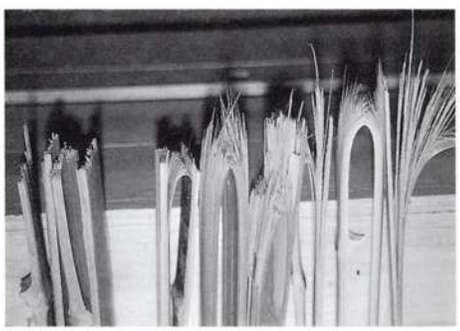
防火に関しては、日本建築学会の2000年度大会「学術講演梗概集A－2」――「伝統軸組構法による木造土壁の火災安全性実験」で紹介されている。

また、土壁の耐火性能を確認するための実験データは皆無に等しく、データを蓄積し、耐火性能の解明を試みていく必要があることから近々実験が行われる予定である。

切望

聚楽土の採集には非常に困難している。そこで類似品が聚楽土と称して使われている。伝統を守る故に企業として努力し製造している者にとって悔しい思いをしている。

正しい認識と識別方法が確立されることを切望する。



下地竹の強度（折った状態）
左／防腐剤入り、鉈（なた）で叩いたような折れ方。
中／少し皮が残った状態、束ねたまま保存していたもの。
右／折ったときに繊維が長く残っている。伐る時期もよく。乾燥させたもの



伐つた青竹をすぐ干すことで良質の竹になる。

聚楽土

採集地－聚楽第跡地（京都市上京区）

聚楽第跡地付近で建築工事の際、基礎工事掘削段階で地下約２～３ｍの聚楽の層にあたり採集し、壁土用に加工したもの。

上塗の土として最高級。色は褐色、渋みのある色合い。粘土質、鉄分も多いことから水に強い。古くなると独特の錆を出し一層深い味わいが出るので幅広い施工ができる。梨子地肌の聚楽仕上げ「ざっくり」とした粗めの切り返し仕上げ等伝統的な仕上げに使用されている。（中内建材店）



粘土は細かく潰しておく。
京都府、滋賀県、奈良県の三県にまたがる木津辺りでは良質の粘土が採れる。



荒壁の土作り。
潰した粘土はふるいにかけて水と混ぜる。上質の粘土ほど水に溶けにくいが、火と水には強い。

草

畳

畳は畳床、畳表、畳縁から成っている。
畳づくりは付け仕事といって、畳床の寸法に合わせてゴザを張り付け、縁をつけて畳に仕上げる。

畳床

床専門に作っている業者がいる。素材の稲藁は刈り取って3年置くのが理想だが、現在は、藁不足で1年寝かせばよい方。

一枚の床を作るのに、40㎝以上の高さに藁を積んでローラーへ通し機械で縫う。藁の乾燥が不十分だと隙間ができる。

畳表

産地

・備後（広島県東部）
備後表と呼ばれ最高とされている。土壌を守っているので品質がよく柔軟度がある。

・熊本
宇城、八代を中心に生産量は全国一。

・中国
最近は品質もよくなっているが。コンテナの中での一回燻蒸程度では虫の害が心配。
い草の質が硬く折れやすい。

製造工程

・泥染－い草の色はグリーン。そのまま干すと茶色になるので、染土という泥につけて染め。い草独特の色、香り、光沢を出す。（泥染をすることで、茎表面の葉緑素の酸化を防ぐので、青く新鮮な状態を保つことができる。）

・製織－手機織り（中継ぎ表）
い草の中心の良いところだけを見せるため真ん中で継いである。
一番長い六配表（約90㎝）が最高級品。数寄屋畳として趣があり、むっくりとした仕上がり。

畳縁

素材は木綿と麻が主で、色は黒、茶が多い。
麻縁は茶席用で極上品は本藍染。徳島と滋賀で染めているが、7～8回染めるので半年位かかる。

•

＊藁、藺草（い草）、麻とも良い素材が不足している。

（高室畳工業所）

簾

葭（よし）

産地

近江八幡（滋賀県）

簾、建具、茶室用、インテリアとして品質に優れている。年月とともに独特の色合い、わび、さびの風合いが出る。現在では、一昔前の葭原料には及ばず、加工製簾に手間が掛かる。

五十鈴川流域（三重県伊勢市）

産地から大神葭、美緑（美六葭）の名称がついたと伝えられている。近年埋め立ての開発や刈り取り後の葭原焼き等の十分な手入れがなく、土壌汚染、湖水汚濁の影響で美しい姿の葭が激減している。また、天候不順も関係しており、生育中に寄生虫や異常生育もみられる。

不良葭は刈り取って簀の子に編み、排水口の泥よけ、排水路に埋め水質浄化に役立てている。

中国産葭

日本での不足のため輸入されている。製品、半製品の名目で、一部原材料も輸入している。

＊他に、岡山でも産出していたが現在は臨海工業地帯に変貌し。下北半島（青森県）や北海道の一部地域でも取れるが良品とはいいがたい。

真菰（まこも）

産地

淀川流域、琵琶湖畔に自生している、若芽は水鳥の餌、棲家となる。水質汚染で少なくなつている。また、刈り取りが夏期で暑さの中での厳しい作業のこともあって刈り取り量も減少している。天然素材のため自然条件にも影響されやすい。

神殿の神床八束台の敷物、五月人形の段飾りの敷物、茶室天井等に使われる。

蒲（がま）

産地

愛知県蒲郡淀川流域、利根川流域、群生していたが、水害や開発により産地は狭くなっている。

蒲の茎（蒲芯）は簾、蒲の葉は縁敷、廊下敷の敷物として編み使用される。

通り庭、土間に夏の敷物としても使用される。

＊他にすだれ材料としては、割竹（一部割、二部割）丸ヒゴ、油竹、かるかや、萩、四角草、木賊があるが現在では入手困難なものが多い。
また、外来種のセイタカアワダチ草（キリン草）も使用することがある。

（久保田美簾堂）

ひとこと

枯れた手

付け仕事（畳作り）で大事なのは“針扱い”上からの針と下からの針を思うとおりに操るようになるには経験を積むしかない、丁寧で手間が掛かっている枯れた手がいる。いかに上物を手掛けたかということである。

掛けた糸がどういう働きをしているか、何年経っても型崩れしないように糸が掛かっているか、畳をほどく時にその技を盗むことができる。

割り出し

畳の寸法は大事である。部屋全体の寸法を計ると、四辺は同じでも対角線が違うことがある。畳を作る前に部屋のクセを畳で拾って修正する必要がある。これも畳屋の力量の一つと言えよう。

割り出し方というものは、それぞれが伝統的に踏襲していくものだが、最近の畳屋の中には機械化の影響からか割り出し方も知らない業者もいる。

光と影

茶室用の本格的な気配りとしては、部屋の光線がどの方向から入るかを配慮しておかなくてはならない。

畳には縁を付けるが、その分高さができて畳目に影がさす、光が当たる方向から見れば、この幅が全部見える。が、影のさす側ではちょっと幅が狭く見える、畳縁を少しずらしてやる、目の錯覚を利用して目立たないようにする。

縦と横

縦向きに敷いた畳は光に反射して白っぽく見える、横向きのものは一目一目に影がさすから色が濃く見える。こんなことも多少は気にかけて仕事をしている。

畳がすっきりときれいに見えるように常に考えている。

葦と葭

葦（あし）と葭（よし）は混同されやすい。葦の群生地は喪失したようだ。葦の穂先はススキの穂に似て茎は硬く中はつまっていて皮ははじける、農家で作物の豆類の手に利用している。

チタン

屋根

チタンは約2000年前に元素として発見された。50年ほど前から工業生産が開始され、軽い、強い、錆びない等優れた特性から航空宇宙・化学・電力等の分野で適用され、最近では、建築・土木・医療・民生品等の分野まで需要が拡大している。

建材への適用は1985年頃からはじまり、1991年以降200～300㌧の年間需要で定着している。

特長

・耐食性

常温で瞬時に強固で安定した酸化皮膜（不動態皮膜）を成形し、海洋雰囲気も含む一般環境でほぼ完璧な耐食性をもつ金属。海水に対して白金なみの耐食性をもち、腐食性ガス等にも優れた耐食性能を示す、温泉地域、酸性雨にも強い。

・優れた意匠性

渋い落ち着いたグレーの素地が主に使用されるが、陽極酸化により青色や金色等の鮮やかな発色も可能である。　（開発：新日本製鐵）

・強く・軽い（強靱性）

鉄とほぼ同じ強度で約半分の軽さ（比重4.51）

・加工性

膨張係数が小さいため歪みにくい。板金加工がしやすい。

・環境にやさしい

金属イオンの溶出が少ないため環境汚染の心配がない無害な金属である。

表面仕上げ

・ロールダル法

・酸洗法

・ロールダルと酸洗の組み合わせ

・アルミナショットブラスト

適用例

・厳しい腐食環境

東京臨海副都心、海塩粒子の濃度が本土の４倍の沖縄、桜島の火山灰が降る鹿児島、日本海側の厳しい塩害地域、その他海浜地域で多くの適用例がある。

・恒久的建造物

100年建築を標榜した東京・奈良の国立博物館、宗教団体の神殿等。最近では神社仏閣への適用例が急速に増えている。

建築金物

建築用チタンには屋根材のほかに和釘、メカス、巻頭、折釘等建築金物も開発されている。

（新日本製鐵㈱／㈱ティグ／安田工業）

石

石

地球誕生以来、自然とともに生成されてきた石、人類は古代より石を身近な材料として生活用の道具、狩猟・農耕用の器具として使ってきた。

また、住居にもその堅牢さと耐久性を利用して、さまざまな形で使用されてきた。近代建築においても耐久性はもとより石のもっている自然の美しさ、重厚さ、信頼性を生かした構造材、外装・内装材として使われている。

耐久性

・花崗岩、安山岩――――――耐久性に優れる
・砂　岩、凝灰岩――――――耐久性に劣る
　（外壁に用いると白華化による風化を起こす）
・石は一般に圧縮には強いが引っ張りに弱い。
　◇強度の大きい順
　花崗岩　→　大理石　→　安山岩　→　粘板岩
　→　砂岩　→　凝灰岩
・圧縮に対する強度は石目方向や鉱物組成によってかなりの違いが生じる。
　石目の方向による強度の差は大谷石などの凝灰岩に顕著である。　（㈱阪下石材）

ひとこと

美しさ

半加工した石の表情、石と石との組み合わせによる変化に富んだ美しい輝き。

また、木、鉄など他の素材との出合いに見る対比の表現など自然素材ならではの安堵感を醸しだしてくれる。

センス

石の特長を生かす色・柄合わせ等の施工・仕上がりに対して日本は特に厳しい。

石工事の職人は石の重さ、冷たさ、石の味までも引き出すようなデザイン的センスが要求される。

ヨーロッパでは

石垣、庭石は別として、日本は建築への石の使い方につき、文化的背景や気候風土のせいもあってか、ヨーロッパ等に比べて知識が乏しく、日本人の木に対する感性やこだわり程には到っていない。

紙

表具

日本家屋が紙を有効に利用し建築に取り入れているのは、気候風土が大きく関係している。高温多湿なわが国では建物が開放的で屋外との仕切りには障子を用い、室内の間仕切りも襖と障子が多く利用されてきた。

日本人の美意識は、雨戸を開ければ障子を通して部屋いっぱいに朝日で明るくなり、開けた障子の合間から吹き抜けていく風のさわやかさを感じとる。

また、雨の日には庭先の木々の緑が一層色濃く映り、湿った空気は紙はもちろん木材や土までもが吸収してくれる。

和紙

独特の穏やかな魅力がある。洋紙との比較では洋紙は表面がなめらかで色は白い。和紙は繊維が粗く、長い。色はにごり気味の白色。

耐久力

和紙のもつ生命力は正倉院はもとより全国各地の寺院などの古文書にみられるように目をみはるものがある。

用途

木造建築において紙を使用するものには、襖、障子、紙の張壁、紙張天井、腰張などがある。

襖――――鳥の子紙、楮（こうぞ）紙、下張紙
障子――手漉き美濃紙厚口
腰張――貼るときは上質ふ糊（海草）を使用。
　◇糊の濃度に注意する
　薄い糊：貼った紙がはがれやすい
　濃い糊：張り替え時に壁もともにめくれることがある。

襖

耐久性と強靭性

1．しっかりした下地骨をつくる。
2．古くより伝来の下張りをする。
　・丈夫にするために骨縛り――――楮紙厚口
　・光線よけの胴張り――――間合い紙又は紺紙
　・遮音用鎧掛け――――楮紙厚口
　・下張総仕上げ鎧縛り――――楮紙厚口
　・上張をきれいに仕上げるため浮け－楮紙薄口

1、2の条件を満たしていれば、100年間位は表替えのみで耐えられる。　（静好堂中島）

大阪市環境事業局舞洲工場－まるでおとぎの国のお城－

小笹光彦
ランテック計画事務所

3月31日にオープンしたばかりのユニバーサル・スタジオ・ジャパンを通り過ぎ、此花大橋を渡ると舞洲である。橋を渡りきった左手に、異色の建築が突然姿をあらわす。これは「大阪市環境事業局舞洲工場」で、その外観、外装、色づかいなどからは、とても焼却施設だとは思えない。まるでおとぎの国のお城のような感じで、舞洲に新しく出現した恰好のランドマークである。

平成13年3月27日（火）14：00～16：00、上記の建築の見学会が㈳日本建築協会事業委員会見学会小委員会により開催された。

舞洲工場の概要

不思議な雰囲気の漂う玄関ホールから、総勢76人の参加者はエレベーターで5階へ昇り、渡り廊下を通って工場棟の大会議室に入る。まず、この部屋で平賀良氏（大阪市環境事業局施設部技術主幹）、渋谷康雄氏（大阪市都市整備局営繕部設計課長）、内本清重氏（大阪市都市整備局技術監兼営繕部工事課長）の3氏から、おのおの10分程度の概略説明を受けた。その後、約1時間の予定で、工場内及び外構の見学が行われた。



舞洲工場は大阪市環境事業局と都市整備局の共同発注工事で、5月には本格的に稼働を開始する。現在は工事も竣工し、オープンに向けて、プラントの操作研修中であるとのこと。

この工場は大阪市の11番目の焼却施設である。既設のものはかなり老朽化も進んでいることから、900 t／日の処理能力をもつ西日本最大級の施設として建設された。焼却炉は2基あり、当日はそのうちの1基が試運転中であった。建築は延床面積約57,000㎡、大阪市本庁舎に匹敵する規模で、SRC造・7階建、一部地下2階である。ダイオキシン対策、汚水、廃物対策等に万全を期した環境保全対策型、エネルギー有効利用型の最新鋭施設である。

特異な外観デザイン

この工場の外観デザインは、オーストリア、ウィーン生まれのフリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサー氏の手によるもので、提出された模型に基づき設計が進められた。

フンデルトヴァッサー氏は画家・環境アーチストとして世界的に著名で、この種の作品としては、ウィーンのゴミ焼却施設「シュピッテラウ　ヒーティングプラント」が有名である。わが国においては、東京に21世紀カウントダウン時計のモニュメント等があり、大阪では扇町公園のキッズプラザ4階、5階の内装デザインがある。

この建築のデザイン主旨は、地域に根ざした、エコロジー・技術と芸術との調和であり、舞洲の新しいランドマークの創出であり、さらに、舞洲の環境共生型のまちづくりを目指したものであるとのこと。フンデルトヴァッサー氏は残念ながら、本工場の竣工を見ずに、平成12年2月に亡くなられた。



氏のデザインスタンスの確立には、過去に数年間の滞日の経験があり、その間、京都の木版画家との交流もあり、浮世絵からの影響もかなり受けているとのことである。「直線に神は宿らず」という信念があり、流動する曲線や渦巻きにその特徴がある。また、フンデルトヴァッサー・カラーと称する独特の色づかいがあり、自然の生命体のエネルギーを象徴しようとする姿勢が見られる。

氏は建築作品や都市計画などを通じて、自然と人間が同化していくための環境問題を提言し、科学の暴走をコントロールできなくなった人類への警鐘を鳴らし続けてきた。この建築でも、屋上全体の緑化や窓を利用した植栽が施され、みどりによる地球環境への貢献や人間の快適性の向上を果たそうとしている。直線を嫌った有機的な曲線により、デザインそのものをエコロジカルなものにしようという哲学が隠されている。

聞いて、見て、感じたこと

場内には見学コースが設定されており、外観ばかりでなく、見学コースの内装も部分的には結構凝っている。5階から順次下へ降りていく順路になっており、その途中の大きな窓からゴミ回収ピットや大型クレーンがゴミを掴んで焼却炉に投入しているところが見られる。場内には焼却施設と粗大ゴミ施設が併設されており、その中から鉄類とアルミ類を選別し、資源回収をはかっているとのこと。

聞くところによると、ゴミ焼却により24.000 kW／日の発電能力があり、この電気を工場内の諸施設に利用しているが、残りは売電しているとのこと。

電気のみならず、蒸気、温水等のエネルギーの利用については、招致活動をしている2008年のオリンピックをにらんだ計画であるらしい。また、本工場の近くに、大阪市下水道局の「スラッジセンター」を建設中であり、平成16年3月には完成予定であるとのこと。これが完成した時には、本工場で発生するエネルギーを地下埋設管により配送する計画である。このスラッジセンターが完成すれば、此花大橋からの舞洲への入口部分の両側に同じタイプの建築が配置されることとなり、ゲート的な機能が一層強まることが期待される。また、工場棟に隣接して、別個に煙突が建っている。これは高さ120mのRC造りで、頂上部に直径約22mのゴールデンボールと称する金色の玉が飾られている。この玉は「夢と希望」を象徴するもので、ステンレス製のホーロー仕上げである。舞洲のどこからもこの玉が見え、日光を浴びてキラキラ輝いている様は意外に効果的である。

このユニークな建築は、設計者、施工者、監理者泣かせの産物であったろうと、その苦労がしのばれる。それだけに末長く大阪市民に親しまれる建築になることを期待したいものである。

（おざさ　みつひこ）

タイル TILE

Kobayashi Yuko
小林 優子 UR設計

つちもの

機能性VSデザイン性

街を歩くとき、様々な色や大きさの異ったタイルを張った建物を目にする。カタログをめくってもその種類の多さに驚かされる。しかしその多くがひどく無表情に感じるのはなぜだろう。

外装材として、石を使いたいがコストが合わず、まるで吹付材の代用品がごとく様々な色を取りそろえ、メンテナンスのランニングコストを考慮してタイルを使いましたと言わんばかりである。

いまやタイルはコスト・効率重視の大量生産という流れの中で、単に人工的な便利な材料に成り下がってはいないだろうか。施工技術や製造技術など機能性を追及した結果、色調・サイズの均一化は図られたものの、皮肉にもかえってタイルの素材感が軽視される結果になっているのではないかと思わずにはいられない。

確かに機能的であることは大切である。ただ、タイルの持つ素材感やデザインへの可能性を忘れてはいけない。

原点を再考すべきタイル

タイルの起源はレンガであると考えるとき、それは土のみを原料としたまぎれもまく、「やきもの」であった。それゆえ、数多いタイルの中でも、レンガタイルは最も土という素材感があるタイルだと思っている。

日々進歩する技術により多くの新建材が生み出される今、このレンガタイルを通して、タイルの本来の土の産物である「やきもの」としての素材感を再考し、また単に躯体を覆うという概念から脱したいと考えた。他の材料との調和を考慮しながらも、アクセント的効果を期待して…。

また、同種のタイルを大きさや形状・使用方法により、そのデザイン性も模索していきたいと思う。



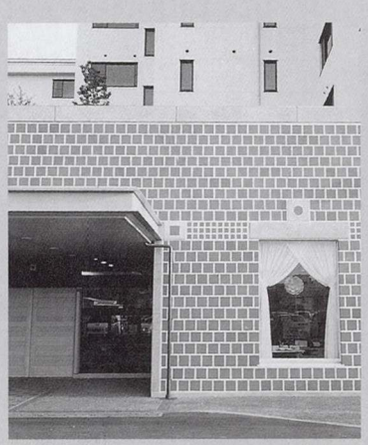
レンガタイル

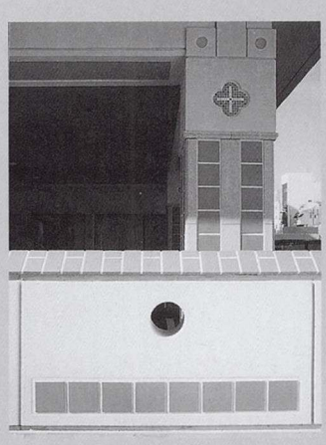
150角のせっ器質レンガタイルを10～15㎜の広目地で張る。時にはボーダーで、また時には壁一面に芋目地で……。大きさ・形状を変えて、塀の笠木にもなれば、石やガラスモザイクと共に柱の装飾にもなる。多少のサイズのむらは目地で調整すればよい。

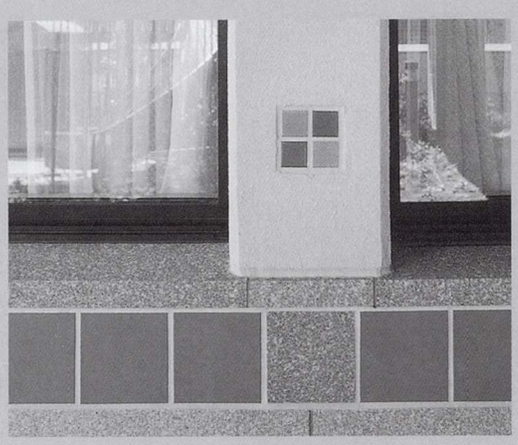
この還元焼きレンガタイルに求めるものは、幅広いやきむらであり、無釉独特の土の素材感である。それこそ天然素材だけがもつ「風合い」に他ならない。

1枚1枚やきむらという表情を持ったタイルが集まりデザインをつくる。大きさや面の形状・張り方によるデザインの可能性は限りなく大きい。

しかし、どんな場合でも、石などと違い威圧するのではなく、触れたくなるような風合いがタイル、特にレンガタイルにはあるし、そんな風合いを大切にしていきたい。







「素材と技術が生み出すdesign」は、相対する具体的な事例や視点に光をあてることにより、異なるものの見方の可能性に挑戦する。今回は外装を被うタイルを取り上げ、石や土とは違った価値を見つけてみたい。

（「素材と技術が生み出すdesign」幹事会）

◀いしもの

Ohtani Hiroaki
日建設計 大谷 弘明



組積造VSタイル張り

なぜ西欧の建築に殆どタイル張りの建築がないのか。長年疑問だった。例外を除いて、まずタイルの外装には、お目にかからない。

ある時に解ったのは、彼の国々の建築文化は、組積造と粘土細工、すなわちムク（量塊）から出来ていることだ。組積造には作法があり、生半可な模倣は命取りだが、作法をマスターすれば、長寿命建築を目指す近道ともなる。我々も、使えるならばムクのものが好きに違いない。厚みのある単一の素材への信頼感に浸ることができるから。

対して我が国の数え切れないタイル張り建築。薄く皮膜をまとった何とも頼りなげな「貼りもの」。金がないからタイルもやむを得ぬ、としているかもしれない。タイルは安価で使いやすいが、可もなく不可もなく、といった既製的・汎用的な感覚が、人々の発想の根っこに植え付けられてはいまいか。

発想を必要とするタイル

タイルに求めるものは、組積造のイミテーションではない。決して躯体の耐候性を高めるという役割だけに貶めてはならない。人の知恵・発想と、土と火の反応とが、かたち創る産物。自然とも人工ともいえる面白い両義性をもっている。焼き物茶碗と、建築タイルの世界にこんなに大きな開きがあって、そのままで良しとは思わない。石のように重厚な表情をもたない代わり、人を優しく包み込む布のような柔らかさだって表現できる。語弊はあるが、「民主的な」材料、こんなに面白い可能性ある材料はないと考える。

この国の建築文化は、もともと線材と帳壁に根ざしていた。このかよわさ、儚さに見合う、細かな微粒子の集合によって建物を被ってみたい。美しい焼き物の肌理を具えた艶のあるタイルを、点描のように、潔く使う方法を考えようと想う。

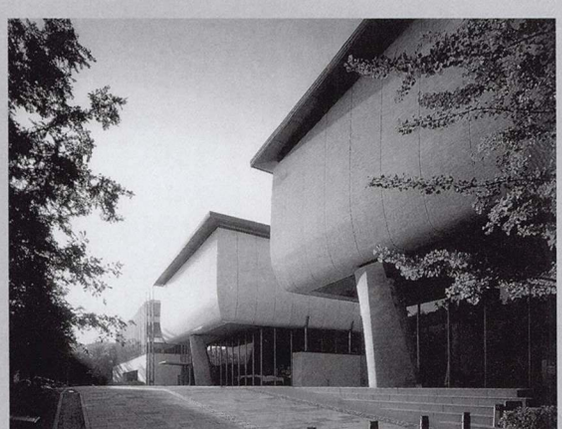
出来ることが限られているなら、なおのこと、天の邪鬼にそのタイルの可能性を、一歩推し進めてみたいと思った。

白磁のタイル

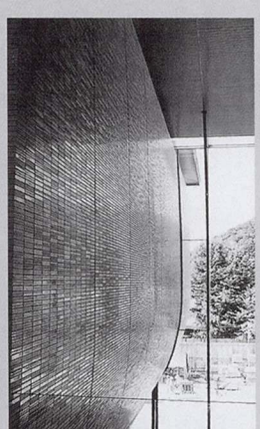
愛媛の美術館の設計に際し、自分に考えられる以下の戦略・策略を動員して、これまでにない皮膜を創ろうとした。

1．釉薬に頼らない白。ニュアンスに富んだ複雑な色合い。
2．タイル面に光を載せる。ランダムに溝切り。バーコード模様。
3．触りたくなるような質感を透明釉で表現する。
4．巧緻なエッジを生み出す物理的な厚みと目地深さで見せる。
5．PC版打ち込み。その表現としての「あいじゃくり」形状。
6．いつもどこかがきらっと輝いて見える大きな外壁の曲面形状。

全部で50万枚。工業的な成果の追求の果てに、工芸的な価値が生まれた。この「微粒子」を使うことで、淡味ながらコクのある表情と情緒が醸し出された。







パブリックコメント制度とは何か

椎名辰之
前 大阪市計画調整局建築指導部指導課主査・現 大阪市住宅局建設部建設課

最近、建築関係者は、建築雑誌や業界紙で国土交通省（旧建設省）のパブリックコメントの実施を紹介する記事をよく目にするようになったのではないか。

パブリックコメント制度とは、行政機関が政策立案過程においてその案を公表し、広く国民や事業者等から意見の提出を受け、これらを考慮して最終的な意思決定を行う手続きをいう。この制度により、広く一般に意見提出の機会が設けられることは評価できる。

平成10年に農林水産省が「遺伝子組み換え食品の表示のあり方」についてパブリックコメントを実施した際は、１万件を超える意見の応募があり、大きな反響を呼んだ。だが各行政機関で数多く実施されているパブリックコメントの中には、数件しか応募がないものもあり、制度の定着が今後の課題となっている。

国のパブリックコメント制度

国においては、この制度を平成11年３月に閣議決定し、４月から全省庁で実施している（パブリックコメントとは言わずに、単に意見募集、意見公募としているものもある）。

閣議決定の資料によると、広く一般に適用される行政機関の意思表示で規制の設定・改廃に係るものについては、意思決定過程において広く国民等に案を公表し、それに対して提出された意見・情報を考慮して意思決定を行うこととされている。政令・省令等を策定する過程で、国民等の多様な意見・情報・専門知識を行政機関が把握し、意思決定過程における公正の確保と透明性の向上を図る必要から実施するとしている。



国のパブリックコメント手続きの流れ（総務省の資料から）

なお、法律案は、国会において審議されるため、各省庁共通となるルールでは対象としていないが、各省庁の判断で同様の手続きを行うことは可能としている。

国のパブリックコメントの実施状況を調べるには、総務省のホームページ（http://www. somucho. go. jp/soumu/jyoukyou. htm）が便利だ。ここから国土交通省も含めて各省庁のホームページの該当部分へリンク（連絡）されている。

地方公共団体のパブリックコメント制度

地方公共団体でも、この制度を導入するところは増えている。対象案件など独自の指針を定めている場合もあるが、考え方や手続きは基本的には国と同じである。近畿地区では兵庫県が平成13年１月から２月にかけて「福祉のまちづくり条例」の見直しのために実施した。大阪府でも、同名の条例を改正するために実施を予定しているようだ。京都市では「京都市住宅マスタープラン」の見直しのために京都市住宅審議会に諮問を行ったが、住宅審議会がその答申を策定する段階で、その素案について意見募集を実施した。

建築関係者の対応

仮に建築関係者が国土交通省のパブリックコメントの実施を知ったとしても、同省のホームページにアクセスするなどして意見提出するひとは限られるだろう。だが、専門家として関係のある法規制の制定や改正に意見を述べていくことは重要なことである。平成11年10月に旧建設省が公表した「都市計画制度の見直しに当たって」には、事業関係者、業界団体等、地方公共団体などから500件を超える意見が寄せられた。これらの意見は都市計画中央審議会の小委員会に提出されて検討が行われた経緯がある。また、同省では建築基準法大改正に関して性能規定関連の告示案がいくつも公表されてきた。たとえ意見提出までしなくても、関連規制の情報を早い段階で得るという利用方法も考えられる。

ＩＴ革命の追い風

近年のパブリックコメント導入の動きは、ＩＴ（情報技術）革命によるインターネットの発達が大きく貢献している。電子メールの普及は、意見提出する側の国民の背中を押してくれる。国の実施状況の集計を見ると、意見提出方法として郵便と電子メールはほぼ同じ割合にまでなっている。またＩＴの活用は、行政側の集計や結果公表の作業を効率化できるメリットもある。もちろん窓口配布や郵便など他の手段による意見公募と提出の機会確保も重要である。だが、今後さらにインターネットが発達して一般化すれば、パブリックコメントはさらに利用しやすいものになるだろう。

関係者の課題

現在は、制度そのものがあまり知られていないのではないか。一般人は、よほど目的意識がない限りインターネットでパブリックコメントのことを調べたりはしないだろう。やはり新聞、雑誌等による積極的な広報活動が必要不可欠だ。

行政における昨今のパブリックコメントの導入は、一種の流行になっているきらいがある。「意見聴取のアリバイづくりだ」という厳しい批判がないわけではなく、その中身が問われている。適切な情報公開とするためにも、公表案を作成した趣旨、目的、背景の説明は重要である。また情報不足の中での意見募集とならないよう関連資料の公表も欠かせない。提出された意見をどのように考慮したかその考え方を明確にし、行政の説明責任を果たすべきである。同時に、国民の行動も問われている。情報を入手して理解し、意見提出するのは受け手の責任だからである。（しいな　たつゆき）

片岡修身
ダイキン工業㈱地球環境室技術担当部長

冷媒が環境問題の一部となってから、かなりの年月が経って、オゾン層問題に加え、温暖化影響も問題となっている。ここでは、このオゾン層、温暖化の両面から冷媒の動向について述べる。

オゾン層破壊と温暖化

オゾン層破壊は、図1に示すように冷媒として使用されるCFC（Chloro Fluoro Carbon）などが成層圏で太陽からの紫外線を受けて分解し、含まれる塩素が触媒として働いてオゾンを破壊することによって生じる。オゾン層破壊係数はCFC12を1として相対的にオゾン層を破壊する能力を示すが、HFC（Hydro Fluoro Carbon）は塩素を含まないのでオゾン層破壊係数はゼロである。

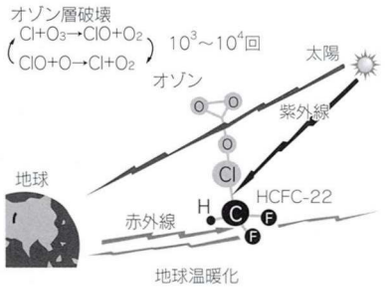


図1　オゾン層破壊と温暖化

温暖化は次のようにして生じる。地球は、太陽から受けた熱エネルギーを赤外線として宇宙空間に放出し、あるレベルの温度を保っている。しかし、地球から放出されるべき赤外線の一部が、大気中のCO_2やCFC等に吸収されることにより、温暖化が生じる。これも図1に模式的に示す。

大気中に放出されたHCFCなどは酸化などの反応によって次第に分解され減少していくので、温暖化影響も時間経過とともに減少する。GWP（Global Warming Potential：温暖化係数）は一定期間での温暖化影響の積分値をCO_2との相対値で表したもので、通常は100年間の値が使用される。主な物質のGWP値を表1に示す。

表1　主な温暖化物質とGWP値

温暖化物質	大気中寿命(年)	GWP(CO_2=1)		
		20年値	100年値	500年値
PFC14	50000	3900	5700	8900
SF_6(6フッ化硫黄)	3200	15100	22200	32400
HFC23	243	11700	14800	11900
N_2O(亜酸化窒素)	120	280	310	170
CFC12	100	10200	10600	5200
HFC125	32.6	6100	3800	1200
HFC134a	14.6	4100	1600	500
CH_4(メタン)	12.2	56	21	6.5
HCFC22	11.8	5200	1900	590
HFC32	5.6	2900	880	270

IPPC：1999年による

TEWI（Total Equivalent Warming Impact）の考慮

現在オゾン層問題への対応としてHFCが採用されつつあるが、HFCは温暖化防止の京都議定書でCO_2などとともに規制物質の一つになっている。それにもかかわらずHFCが採用されるのは、HFC以外に適当な物質がないことと、温暖化対策としての冷媒の選択は、冷媒による温暖化影響だけではなく、空調機の消費するエネルギーによる温暖化の考慮が必要なためである。

この冷媒による温暖化とエネルギー消費による温暖化を合わせて評価するのがTEWIで、エネルギー影響と冷媒の影響をCO_2に換算して加えたものである。最近はこの二つに製品や冷媒の製造や廃棄時のエネルギー消費まで加えたLCCP（Life Cycle Climate Performance）で評価される場合もある。冷媒の温暖化係数だけから判断すれば、プロパンやアンモニア、CO_2といったいわゆる自然冷媒が望ましい。しかし、例えば機械換気などプロパンの安全性対策を含めた性能で評価した場合、HFCに比べTEWI削減の効果はほとんどない。



図2　空調機LCCPの試算例

TEWIは、発電所での燃料の構成や機器の効率や必要運転時間によって値が異なるので、評価する国や地域で値は様々である。

可燃冷媒の採用

冷媒の直接温暖化を削減するには、大気中の寿命が短い冷媒を採用する必要がある。冷媒の安定性が低いということは酸素などと反応しやすいということであり、基本的には図3に示されるように、可燃性が高い物質ほどGWPは小さい。

プロパンは家庭用燃料として広く使用されており、冷媒としても採用できると考える人も多い。しかし、燃料用に比べ冷媒として使われる場合は圧力が300～1000倍もあり、また製品を廃棄する際にも冷媒は機器の内部に残っており、同じ物質を燃料用で使用しているから「冷媒としても使用可能」と判断するのは短絡的と思われる。さらに不燃の冷媒が入手可能である中で可燃冷媒を選択することは、PL問題の危険性が大きい。

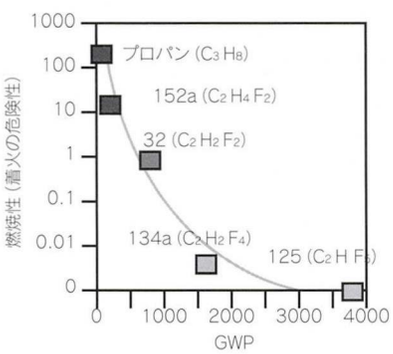


図3　GWPと燃焼

最適冷媒の多様性

主なHFC冷媒としてはR410A、R407C、R134aが採用され、現在切り替えが進んでおり、2004年までには、ほとんどの空調製品でHCFCの使用が廃止される。圧力が高く圧損が削減可能なR410A、圧力がR22に近く理論性能はR410Aより優れるが伝熱性能が低下するR407C、圧力損失は大きいものの単体で扱いやすく理論性能はもっとも優れるR134aと特性が異なるため、用途によって選択される冷媒が異なっている。具体的には、ルームエアコンにはR410A、業務用にはR407C、チラーには134aが主に代替冷媒として採用されている。

また可燃冷媒を将来採用する場合、少量であれば危険な冷媒も使用可能であるし、工場用設備のように高度な管理が可能な場所であれば可燃性や毒性のある冷媒でも採用可能である。冷媒充填量が50g程度の冷蔵庫などは、炭化水素を冷媒に採用する可能性はある。また工場用ではアンモニアが採用されることも多くなっているが、一般家庭や店舗用などへの採用は難しい。

現在、可燃性冷媒の一般空調機への許容充填量を定めるIEC規格案（IEC335-2-40）が審議されている段階であり、これが決定されると、R32といったHFCでも、GWPが低く燃焼性もわずかな冷媒が使用される可能性が出てくる。

（かたおか　おさみ）

建築と秩序

多田英之
㈱日本免震研究センター主宰、元・福岡大学教授

秩序という言葉がある。物事の条理、正しい道筋。社会における規則だった関係性。もちろん、建設の社会にも秩序があってしかるべきである。わが国においては、旧建設省という行政機関が秩序の番人を自認し続けてきた。建設界に正常な秩序をもたらすために、下手な設計を排除する、いかがわしい技術を排除する、不良品を排除する。一見、この名目そのものには何らの誤りもないように見える。しかし、これはまさに警察行政である。官が一方的に秩序をつくり、民に押しつけるという構図がここにはある。

秩序を守る。しかし、旧建設省がそれにもまして守ろうとしたのは、警察行政というシステムであった。これが事実であることは、建設界の現状があまりにも明快に物語っている。

秩序を守るシステムの自己増殖

官僚機構という組織が、その目的である秩序維持を実現するためには、「システム」が必要となる。そのシステムを支える根拠としてできたのが、建築基準法という法であった。ついで、建築基準法に則って、具体的な建築活動をする人たちにライセンスを与えるという名目で建築士法が制定された。この2法が、建築界の秩序を守るパトロール・カーの両輪として今も動いている。

ところが、この種のシステムには常に自己増殖の傾向がある。まして、そのシステムが権力を伴うときはなおさらである。そもそも、建築基準法の基本は「確認」行政にある。立案者には、ある程度までの良心があったのであろう。建築基準の基本を「許認可」とはしなかった。許認可というのは、言葉を換えれば、裁量権が行政側にあるということ。確認は、法律に違反しているかいないかを見るに過ぎない。そこには、強制権は存在しない。

とは言うものの、確認行政は官僚機構という組織が行使するがゆえに、確認のレベルでおさまるはずがない。組織工学の立場から見ても、権力を伴う組織は時を追うごとに権力を増強し、下部機構を増やし続ける。わが国の建築行政においては、日本建築センターがその象徴である。下部機構に判断権や決定権がない分野について、やはり自己増殖を続ける。それは、組織の宿命である。こういう現象で、本来あるべき立場を逸脱していく。

どの社会を考えてみても、権力とか秩序というものが優先する集団、組織には、発展、変革という概念そのものが存在しない。組織のためには、その方が都合がいいのである。ある権威が存在し、その権威を守りながら、自己増殖を続けるのが…。

その対極にあるのが、いわゆるベンチャーという言葉で象徴される組織である。このタイプの組織は、現状において足りないところ、あるいは忘れ去られた秩序の穴、様々な闇の部分に光を当て、新しいシステムをつくり上げようとする。そういう組織は、現状認識、状況変化に対する対応力、行動力、自己変革、洞察力をフルに発揮しなければ、システムとして成長することができないのである。

つまり活性化し、変革し、発展していくシステムと、既成の権威、規制の秩序を守るシステムは決定的に異なるのだ。

建築基準法、その目的は「秩序維持」だった…

法規制。一言で法といっても、その内容は様々である。法律、政令、条例、規則、細則。国会が決める、内閣が決める、省庁が決める、地方議会が決める、とレベルもそれぞれ異なる。建築界にかかわる法は、本来、都道府県レベルであるべきもの。国内外にかかわるものについては、国レベルというよりも業界のレベルとして、様々な自主規制が存在してきた。その自主規制をバックアップするために、殖産振興という目的で、旧通産省レベルの規制（規制という言葉よりも、標準化による効率追求という方が近い）が作成された。建築学会も旧通産省JISに倣ってJAS（言ってみれば、仕様の組み合わせ方法）をつくっている。

戦後まもなく、「国」レベルの建築基準法が制定された。官が定めた秩序を民に押しつける警察行政であることがはっきりしていたので、当初から今に至るまで、局面局面で反対の声が上がったが、行政の力でその都度押し切ってきた。

建築基準法発布から50余年。日本の建築にとって、法規制はどのようなものであるべきかが、本質的に考えられることはなかった。旧建設省は警察的な考え方から、建築に対する法規制の目的を「秩序維持」に置いた。そのためのシステムが生まれ、それを実行する過程で本来建築が持つべき自己変革、自己成長能力は制約を受け続けた。それでも、強制の度合いが許容限度内にあったから何とか続いてきた。建築界においても、何らかの規制、スタンダードは間違いなく必要であるし、現実社会であるからには、ある種のけじめは欠かせない。建築基準法は、けじめとして利用するのに役に立ち続けてきたし、一般的レベルの向上という意味でも存在意義があった。

建築基準法以降の歴史は、建築界にとっては「後ろ向き」だった。しかし、建築基準法は「秩序さえ守ればいい」というザル法で、警察行政も“ほどほど”であったから、重荷ではあったものの、規制を受ける側はしのぐことができた。それが今、建築基準法改正によって、あまりにも“極端”になった。

建築は生き物である

人が先で、概念は後。建築はその最たるもの。まず、建築物が先にあった。「この建築はいい」「これは悪い」という議論から始まり、それがだんだん広がって建築という概念が生まれた。その過程で、学問が発達し、諸々の認識論が出てくる。ただ、如何せん建築は非常に枠が広いし、複雑で、それに携わる業種も多い。簡単に基準化、標準化することはできない。

とりわけ基準化、標準化が最も困難なのは、設計である。これまで学会が出してきた設計指針、設計基準は、実は部材設計基準でしかない。つまり、地面から建物全体を貫く一貫したシステムとしての設計基準は、今まで存在しなかった。そして今、日本建築学会の100年の歴史の中で、ようやく耐震設計が体系化された。できる限り不明な要素を排除し、すべてが論理的合理性を満たすように組み立てることによって、免震が初めて耐震設計を体系化したのである。

このように、建築の領域は途方もなく広く、深い。そして、建築は生き物である。このとてつもない対象を秩序づけるとき、行政は一体何をすべきなのか。一つはっきりと言えるのは、行政は建築の全貌も実状も知らないということ。つまり、建築を司る法の執行者には、その法が100%機能しているかどうかを確認する能力すらない。それは、永遠に変わらない真理である。皮肉めいた言い方をすれば、建築の社会は行政官が牛耳れるほど柔でもなければ、単純でもない。

わが国の今の建築行政は、言うなれば、プロの、それも非常に難しい技を身につけたプロに対して、「ああしなさい」「こうしなさい」とアマチュアが命令しているようなもの。それは、秩序維持に則って利益を得ようというプロにとっては、非常に有り難いお告げかもしれない。が、見識と倫理観を持ち、本当によいものをつくろうとするプロにとっては耐え難い執行である。

工学の物差しで測ってみると

行政には、こういうことに対する理解があってしかるべきだが、それがいっこうに伴ってこなかった。その一番の原因は、建築の目的性能は「測れない」という事実にある。建築においては、本当の意味での安全性の確認はできない。しかし行政は「安全」ということから、くちばしを入れ続けてきた。そして、今回の建築基準法改正によって、この無意味な行為にさらに拍車をかけようとしている。

都市計画も、全体の利益を私有財産に優先させ、「全体のために」と言っているが、本当に「全体のため」になっているのか。これまでの経緯を考えてみると、そのことについて行政官の理解は及んでいないと考えざるを得ない。警察行政には組織の論理が入ってくる。行政機構の中に、自律的に、現実に対決している相手を十分理解し、リードするタレントを育てる能力を持ち得なかったのである。

くちばしを入れようと思ったら、勉強しないといけない。が、行政という組織は無責任体制であり、無責任がまかり通るため、勉強しなくなる。失敗について責任をとらされるのであれば、いやでも勉強するしかない。人間は、本来怠け者である。飯が食えなくなるから、働く。生命体そのものは、そういう風にできているのだ。

現状を知らないことの怖さ。材料を知らないで力学をやっている学者がいるとする。彼は、「こういう材料ならば」と仮定して、その範囲内でしか通用しない理論を繰り広げることになる。もちろん、抽象化することで法則性を調べることが科学の使命である以上、この学者の営みを否定することはできない。

一方、工学は現実問題を現実的に解決する。つまり、技術と科学を踏まえ、最適解を出そうというのが工学である。現実の理解が問題なのだ。工学の物差しを当てたとき、今の建築行政で基準法関連、とりわけ構造関連は甚だおかしいというよりほかはない。組織工学という物差しで測ってみると、「建設省建築研究所は行政上、どういうことをやるべきか」が割合と明確に出てくる。その答えは、「法律の効果を研究すればいい」である。あるいは「法律の効果があったかどうかを、どうやって測るかについて研究すればいい」なのだ。

建築そのものは、建築をやっている人たちの方が技術的にはるかに上。科学的にもおそらく上であろう。にもかかわらず、その境界を超えて行政は規制を強化しようとしている。組織というものは、官民を問わず必ずそうなるのである。

仕様と性能

行政が現状をどのくらい知らないか。それは、建築の「検査」というものに対する理解度に顕著に現れている。今回の建築基準法施行令改正では、仕様設計から性能設計への移行を掲げている。そして、性能設計に道を開くための切り札として出されたのが検査機構である。検査機構をつくり、そこで性能を確認すればいいというのである。しかし、その検査機構が果たして機能するのかどうか。私には、それが正常に機能するとは到底考えられない。こと建築においては、本当の意味での性能は測ることができない。それは、地震が来るまで明らかにならない。事実、耐震設計で性能を評価できるのは、今のところ免震しかないのである。

仕様と性能。両者は切り離すことができない一つのセットである。ある性能を目指し、その性能を得るために仕様が決められる。「こういう風に作ったら、こういう性能が出る」の「こういう」が仕様である。仮に仕様を排除し、性能で発注するという方策を選んだとしても、当然、どこかで仕様確認をする必要がある。それでは、仕様確認は誰がどのようにして行うのか。現状を見る限り、そのことについての理解が全くと言っていいほど行政側にはない。

今までの設計は、設計者が性能を予定して、仕様を決めるというものであった。言ってみれば、これも性能設計である。性能確認の方法がないので、仕様で発注するという方策を採ってきたのである。出来上がったものが仕様通りにできていれば、メーカーに責任はない。責任は設計者の側にある。つまり、設計者は仕様確認に対して強い関心を持たざるを得ない。

建築におけるトラブルは、弁償できないほど高額である。それゆえ、「あの人は間違いなくチェックしてくれる」という相互信頼に基づいて個々の仕事が動いていく。私が日建設計で業務担当をしていたころ、「日建設計は間違いがない」「現場員が厳正だから」と言われ、誇らしく思うことがしばしばだった。「だから、おたくに頼む」という声を何度聞いたことか。そのとき実感したのは、ユーザーは建築基準法を信頼していないということであった。「法律でこうなっています」と説明しても、「法律がおかしければ、変えればいい。それよりも、このことについて君はどう思うのか」という話に、決まってなった。

今、行政は「性能で発注するのだから、仕様は要らない。ただ性能を保証すればいい」と言う。繰り返すが、それではその性能はどうやって調べるというのか。

本来は設計者がやるべきこと

これまで行われてきた仕様発注が最良でないことは、誰もが知っている。手間もかかる。が、現状では他に方法がないから続けてきたのである。そして今、法律が変わった。これによって、仕様が守られているかどうかを検査する検査機関が必要になった。そして、どのような検査をしたら性能がつかめるか、という答えのない問題が浮上している

一口に検査といっても、複雑なメカニズムと多くの人手がかかわる対象物について、その仕様が完全に守られたかどうかを確認するのは極めて困難な作業である。およそ、画一的にルールを決めればすむような問題ではないのだ。名目的な器はできたとしても、期待される役目を果たす検査機構はつくり得ない。これが私の出した答えである。なぜか。肩書き、役職、権威で検査はできないのである。本当の意味での検査には倫理観と使命感、そして高度のタレントが要求される。官僚機構には到底できないこと、一目瞭然である。

もとを正せば、設計者がやるべきことを法律でやろうとしている点に、今回の法改正の最大の問題がある。例えば解析にしても、設計者がやるのだから、細かい計算内容まで決める必要はない。法律はただ、「安全にしなさい」と言っておけばいいのである。例えば、「地震時に、間違っても柱が折れることがないようにしなさい」ぐらいに言っておけばいい。

もし設計者が、「地震時に、と言うけれど、それはどのくらいの地震か？」と聞いたとする。行政官は答えられないであろう。かわりに、いかがわしい方程式を持ち出してきて、「建設大臣がこれでやりなさいと言っている。それ以外は認めない」と言うのがせいぜいであろう。今回の法改正は、このような理不尽の産物なのである。

（ただ　ひでゆき）

237

電磁波吸収
ロックウール化粧吸音板

日東紡 商品開発部
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-3-10 日生伏見町ビル
TEL:06-6208-5085 FAX:06-6208-4903

はじめに

近年オフィスにおいて無線LAN、構内PHS等ワイヤレス通信機器が著しい進展をみせている。(図1) これらは電磁波にデジタル信号を載せ通信する仕組みとなっているが、電磁波が放射された周囲の環境には、電磁波を透過、反射、吸収する等さまざまな電磁波特性を有する建築構造躯体、内・外装建材が存在しており、電波伝搬特性に影響を与えている。特にオフィスでは、スチールパーテーション、デッキプレート、金属OAフロア、LOW-Eガラス等電磁波を反射する建材が多用されるようになり、室内では反射波による電波干渉が生じ通信速度の低下や通信障害を発生させている。(図2) 電磁波吸収ロックウール化粧吸音板『ソーラトンEnet』は、電磁波吸収性能により不要反射電磁波を低減し、デジタルワイヤレス通信を快適に利用できる空間を提供できる。(図3)

ソーラトンEnetの基本特性

現在デジタル通信機器で用いられる電磁波周波数は、0.8GHz～6GHzの帯域が一般的である。現在主流のワイヤレスLANは2.4GHz帯の電磁波を用いている。今年度から発売予定の次期無線LANは5.2GHz帯を用いる。ソーラトンEnetは、これらの周波数帯域において、5～9dBの反射損失性能を有しており (図4)、床、天井、壁がすべて電磁波を反射する素材で構成された5m×5.3m×3mHの天井部位に従来品とソーラトンEnetを施工し比較すると、電磁波の残響減衰特性が大幅に改善される。(図5) 電磁波の残響時間を意味する遅延スプレッドは、従来品の170nsから70nsに低減され、理論的なワイヤレスデジタル通信における通信速度は約2倍に向上することになる。市販の11Mbpsの伝送速度を有するワイヤレスLANを室内に設置し、伝送速度を実測したところ、1秒間で伝送できる平均伝送速度は、機種によって多少異なるものの6面反射環境下で、1.5倍～2.5倍の伝送速度向上効果が確認されている。

ソーラトンEnetの特徴

ソーラトンEnetは、従来のロックウール化粧吸音板と外観、不燃性、断熱性、吸音性が同一であり、全く同じ方法で施工できる。資源を有効に使う循環型リサイクル商品であり、エコマーク認定商品である。最近のワイヤレスLANは、室内の反射波が強い場合に、伝送速度を自動的に低下させる機能を有しているため、知らず知らずのうちに伝送速度が低下してしまい、オフィス作業の生産性低下をまねいていたが、ソーラトンEnetにより快適な通信環境を得ることができる。発信基地の数を増加させることにより、電磁波反射環境を改善する効果が得られる場合があるが、高価な基地局の増設はテナントの負担となる問題があり、更に機器間の干渉問題を招く結果となっていた。これらを改善する新しい解決手段として、ソーラトンEnetの採用を推奨する。

まとめ

ワイヤレス通信機器は、オフィス、病院、学校、店舗、工場等々今後ますます適用範囲が広がりつつある。電磁波を用いた通信環境をクライアントにとって最適な状態とするには、通信機器側の技術が必須であるが、空間を飛び交う電磁波の問題を解決するには、建築環境からの対策も不可欠である。ソーラトンEnetを施工することにより、今までに無い新しい付加価値をもつモバイルネットワーク対応オフィスを構築することができる。

①この商品は今後の建築環境とＩＴ革命による動画配信などのブロードバンド時代（高速ネットワーク時代）を考慮すると必ず必要な商品である。

②当面ネットワーク導入計画のないビルにおいても、予めソーラトンEnetを使用することで、オフィスレイアウト変更コストの低減およびオフィスの高機能化が同時に実現できる。

③6面反射環境下の現ビル室内に於いて、中継機を増設する方法よりイニシャルコストアップ（天井工事費トータルから見たソーラトンEnet施工のコストアップは約10%程度）は長い目で見て優位性のある商品である。

（松本　章／建材委員）

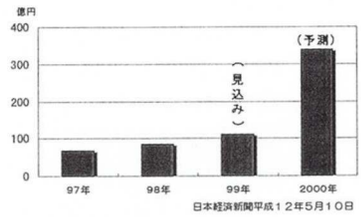
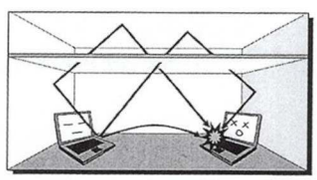


図1．国内の無線LAN市場


図2-1．通常のオフィスでのイメージ

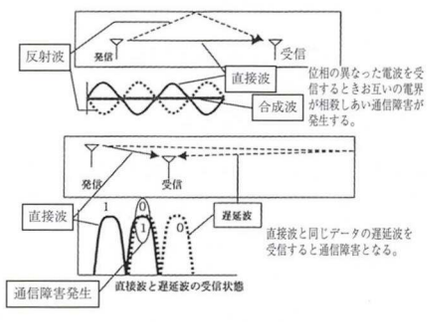
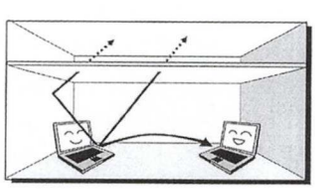


図2-2．通常のオフィスでの通信障害発生メカニズム


図3．ソーラトンEnetを施工したオフィスのイメージ

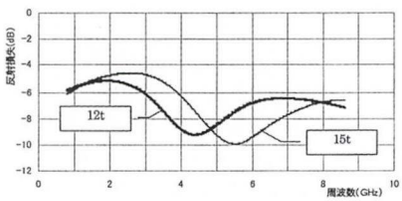


図4．ソーラトンEnet電磁波反射損失機能

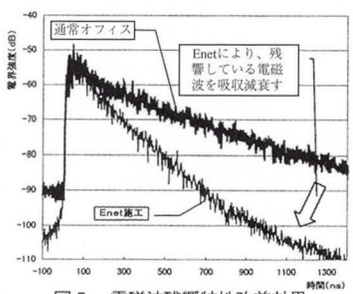


図5．電磁波残響特性改善効果

大阪市立住まいのミュージアム開館

大阪市北区天神橋筋６丁目の交差点に建つ大阪市立住まい情報センター８～10階部分に、４月26日、「大阪市立住まいのミュージアム」がオープンした。

ビルの９階は、甍ひしめく大店、小店。ひときわ高い火の見櫓。木戸門をくぐると風呂屋や会所。江戸時代の大坂の町並みがひろがる。

８階は、明治、大正、昭和の大阪の住まいの移り変わりを知ることができる近代フロア。明治の初代通天閣とルナパーク、大正の天神祭風景、明治初期の心斎橋筋などが再現される。

■企画展「町家のしつらいと飾り－近世大坂の住まい」

会　期　2001年４月26日(木)～５月28日(月)
　　10：00～17：00（入館16：30まで）

休館日　毎週火曜日（祝日に当たる場合は翌日）
　　祝日の翌日（その日が日曜、月曜日を除く）
　　毎月第３月曜日（祝休日の場合は水曜日）
　　12月29日～１月３日

観覧料　一般600円
　　中学生以下、障害者、大阪市内居住の65歳以上は無料（証明書要提示）

交　通　大阪市営地下鉄谷町線・堺筋線「天神橋筋六丁目」駅下車、３号出口より直結


人形屋と本屋の店先

「松下電器のユニバーサルデザイン戦略」－主催／アジア太平洋トレードセンター－

大阪デザイン振興プラザは、松下電器のユニバーサルデザイン戦略を取り上げ、デザインセミナーを開く。

日時　2001年５月18日(金)15：00～16：30

会場　ATC・ITM棟９階セミナールーム
　　大阪市住之江区南港北２-１-10

定員　100名（先着順）

参加　一般1000円、学生500円（受付で学生証提示）
　　＊参加費は当日受付支払い
　　＊セミナー終了後、ささやかなパーティー

講師　南部泰治（松下電器産業㈱電化・住設社デザインセンター所長）

内容　リラックスできるシステムバス「ユニリッチ」（平成12年度Ｇマーク金賞）、浴槽入浴なみの温熱効果がある「座シャワー」（平成９年度ＧマークユニバーサルデザインＧ賞）の商品開発事例を中心に、ユニバーサルデザイン戦略を語る。

ＳＤゼミ「住空間を考える」

大阪ガスインテリアデザインスクールの短期講座では、ディスカッションや演習を交えながら、５人の作家がこれからの住空間を語る。

①　６月13日(水) 18：45～21：05
住居論／東　孝光（大阪大学名誉教授）

②　６月27日(水) 18：45～21：05
住まいと環境／石井　修（美建・設計事務所）

③　７月11日(水) 18：45～21：05
コーポラティブハウス／広沢真佐子(COM計画研究所)

④　７月18日(水) 18：45～21：05
（テーマ・講師は未定）

⑤　８月１日(水) 18：45～21：05
集合住宅の計画／遠藤剛生（遠藤剛生建築設計事務所）

会　場　大阪ガスインテリアデザインスクール教室
　　アーバネックス備後町ビル６階
　　地下鉄御堂筋線本町駅徒歩３分

定　員　30名（定員になり次第、締め切り）

授業料　25,000円（税別、講義初日に支払い）

申　込　受講希望者は下記へ
　　大阪ガスインテリアデザインスクール
　　〒541-0051　大阪市中央区備後町3-6-14
　　TEL 06-6262-4089　FAX 06-6262-7202

シンポジウム「建築設備のリサイクル」

環境負荷低減の立場から建築設備のリサイクルの現状と課題を調査し、リサイクル法の促進を討議してきた日本建築学会環境工学委員会主催のシンポジウム。

日　時　2001年６月６日(水) 13：30～16：30

会　場　建築会館会議室
　　東京都港区芝5-26-20

プログラム概要

１．設備構成要素リサイクルの現状と課題
・パッケージ型空調機／中田春男
・空調機／船木昭二
・保湿材／宮川道雄

２．設計・施工における現状と課題／関　崇博

３．リサイクル促進方法の基礎的検討／高草木明

４．ディスカッション／司会：竹林芳久（清水建設）

定　員　70名

参加費　日本建築学会員2000円、会員外3000円
　　学生1000円　※資料代を含む

申　込　催物名称・氏名・勤務先・所属・電話番号を記入し、ＥメールかFAXで下記へ。
　　日本建築学会事務局研究事業部
　　E-mail:yonezawa@aij.or.jp
　　FAX 03-3456-2058

bautec2002へ出展募る

2002年２月６日～10日に、ベルリン国際見本市会場でbautec2002「ベルリン国際建築専門見本市」が開催される。

bautec2002では、リフト、建築作業用エレベータ、クレーン、ウィンチ、足場など高所建築作業現場のアクセスや安全確保にかかわる設備・技術を重点テーマとするが、建材、屋根・壁材、断熱材、シーリング材、レンガ／タイルの展示など、ヨーロッパ建築資材・技術が140000㎡の会場に集約される。

出展は、一方開き135ユーロ／１㎡。出展、視察などの詳細は、在日ドイツ商工会議所メッセ・ベルリン日本代表部（〒102-0075 東京都千代田区三番町２番地、TEL 03-5276-8730、FAX 03-5276-8735）へ。

環境・エネルギー優良建築物マーク

㈶建築環境・省エネルギー機構は、審査（委員長・松尾陽明治大学教授）に基づき３月２日付で下記の５件に対して、第６次環境・エネルギー優良建築物マークを交付した。

これらは室内環境水準を確保したうえ、一定水準以上の省エネルギー性能を有する建築物と認められたもの。

・（仮）ＪＲ貨物業務・商業棟－対象は業務棟－
・中部電力㈱佐久営業所
・神鋼パンテック㈱本社ビル
・ニッセイ新大阪ビル
・ニッセイ四日市ビル

「建築仕上診断技術者」講習会

㈳建築・設備維持保全推進協会（BELCA）は、タイル張り、モルタル塗りの外壁及び屋上防水などの診断技術者を育成するための「建築仕上診断技術者」（ビルディングドクター＜非構造＞）講習会を、東京、大阪、福岡で開催する。

講習は、修了考査を含む３日間で、５月１日より主催団体、及び関連団体で受講願書を配布している。

●大阪会場（定員150名）
2001年９月26日(水)～28日(金)
千里ライフサイエンスセンター（豊中市新千里東町）

●福岡会場（定員150名）
2001年10月２日(火)～４日(木)
天神ビル（福岡市中央区天神）

●東京会場（定員220名）
2001年10月17日(水)～19日(金)
総評会館（東京都千代田区神田駿河台）

申込み　６月20日(水)～７月31日(火)　－先着順－

受講料　50400円（テキスト代・税含む）
　　所定用紙により振り込む。

詳細問い合わせは、BELCA事業推進部（TEL 03-5252-3873）へ。

ハンズ大賞大阪作品展

「ハンズ大賞」は、「手で考えよう。手で見つけよう。手で創ろう」をスローガンに、昭和58年にスタートしたコンテストで、㈱東急ハンズが主催する。

作品のジャンルや応募資格には制限を設けず、幅広い年齢・職業・地域から応募を募っており、17回コンテストでは3歳から94歳まで応募者が広がって、応募総数は2576点にのぼった。

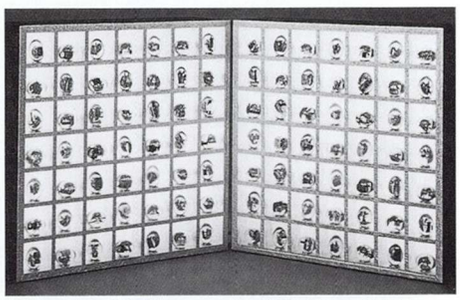
ここ数年の傾向として、空き缶やペットボトルなどの廃品を利用した手づくり作品が目立っているという。

二次にわたる審査の結果、2月21日にグランプリ以下全11賞30点が決まった。3月下旬の東京作品展を終え、二次審査に残った164作品が大阪作品展で展示される。

審査員は、栄久庵憲司委員長、浅井慎平、伊藤隆道、稲本正、内田繁、クニエダヤスエ、栃折久美子、三井康亘の7委員。

会場　IMPホール（大阪市中央区・OBP内）
　　地下鉄長堀鶴見緑地線・大阪ビジネスパーク駅

会期　2001年4月28日(土)～5月6日(日)10：00～20：00



グランプリ受賞「Re-works」田辺由美子・兵庫県
――廃品の電気パーツと子供の頃に採集したセミのぬけ殻をポリエステル樹脂で固めた作品。役目を終えたもの同士の生命力を、蛍光灯で照らしたタマゴの中に演出した

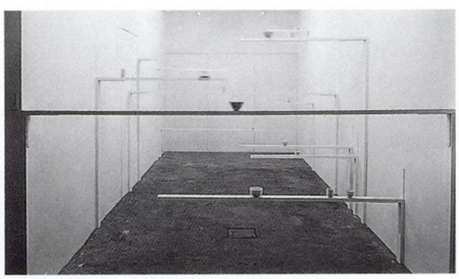
3つのインスタレーション展

京都の画廊アートスペース虹（京都市東山区三条通神宮道東入3丁目・都ホテル隣）は、5月に3つのインスタレーション展を開催する。月曜は休廊。

●2001年5月1日(火)～5月13日(日)11：00～19：00
奥田容子のインスタレーション

●2001年5月15日(火)～5月27日(日)11：00～19：00
ひらいゆうのインスタレーション

●2001年5月29日(火)～6月3日(日)11：00～19：00
北窓眞美のインスタレーション



奥田容子制作のインスタレーション

インテリアプランナー試験、受験申し込みは6月に

インテリアプランナー制度は建設省が認定する事業として、㈶建築技術教育普及センターが実施してきたが、平成13年度からはセンター独自の資格制度として実施されることになった。

建築物のインテリアの設計等に携わる技術者を対象に知識や技能の試験を行い、合格者に登録手続きを経て〈インテリアプランナー〉の称号が付与されるもので、昭和62年度創設以降、16000余名のインテリアプランナーが誕生している。

平成13年度試験は、受験申込書受付が6月18日（月）～7月9日（月）、学科試験が10月28日（日）、設計製図試験が2002年1月20日（日）に実施されるので、詳しくは㈶建築技術教育普及センター本部（TEL 03-3505-1831）へ。http://www.jaeic.or.jp/にも情報あり。

空間デザイン・コンペティション作品募集

日本電気硝子㈱が主催する第8回「空間デザイン・コンペティション」への作品募集が始まる。

A〔提案部門〕

課　題　ガラス質を使った公園
「……ガラス質とは、ガラスブロック、ネオパリエ&ラピエ、ファイアライト、クリスタルクレイ、真空式ソーラーシステムなどであるが、これらに限らず新しいガラス質の可能性を追求し、それらを組み込んだ提案も歓迎したい。……既存の公園のイメージを超えて新しい公園のあり方にチャレンジし、そのなかでガラス質を生かし、空間の魅力を増すものであって欲しい……」

登　録　2001年8月9日（木）―当日消印有効―
官製ハガキ、インターネット（http://www.kenchiku.co.jp）、FAX（03-3818-6742）のいずれかに「空間デザイン・コンペティション―提案部門」と明記し、所要事項を書き申し込む。

提出先　2001年8月23日（木）までに作品を㈱新建築社「空間デザイン・コンペティション―提案部門」係へ郵送or持参。
〒113-8501　東京都文京区湯島2-31-2

応募案　中判ケント紙or600㎜×840㎜の厚紙1枚に、提案の意図を表現する図面及び簡単な説明文（模型写真を含む）を収める。表現手法自由。縮尺自由。

B〔作品例部門〕

1～7回の本コンペ入賞作品は除く。2001年8月9日までに日本国内で竣工した建築物、構築物で、日本電気硝子のガラスブロック、ネオパリエ&ラピエ、ファイアライト、クリスタルクレイ、真空式ソーラーシステムを使用したものに限る。

応募は一つの登録に対し1物件とし、設計した個人または組織に限る。

登　録　2001年8月9日（木）―当日消印有効―
「空間デザイン・コンペティション―作品例部門」と明記し、「提案部門」と同様。

提出先　2001年8月23日（木）まで。
㈱新建築社「空間デザイン・コンペティション―作品例部門」係（TEL 03-3811-7101）

提　出　応募用台紙に所定事項を記入し、作品の完成カラー写真を所定箇所に貼り、提出。写真の大きさ、枚数は自由。必要であれば図面も。

登録に関する問い合わせは、㈱建報社（TEL 03-3818-1961）へ。賞金は〔提案部門〕金賞1点100万円、〔作品例部門〕金賞1点50万円。総額355万円。

「きのくにデザインコンペ」の結果

紀の国・木の家推進協議会（会長／中谷弘）が実施した「きのくにデザインコンペ」には156点の応募があり、3月26日、和歌山県勤労福祉会館「プラザホープ」で審査委員会を開催した。

審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞1点、特別賞4点、デザイン賞5点が選ばれた。

• 最優秀賞「赤松ハウス」
―潮上大輔（法政大学大学院陣内研究室）
• 優秀賞「ルーバー構造の家」
―秋本隆史／小林雅裕／松浦弘樹／大橋一隆（法政大学工学部建築学科）

http://www.nittoso.or.jp/

建築塗装会社約3600社が加盟する㈳日本塗装工業会のホームページに、「リフォーム時期のチェック方法」や塗装メーカー、関連団体へのリンク集が加わった。

今回追加された「塗り替え時期の見極め方」は、住宅を長持ちさせるためのチェックポイントやリフォーム時期の目安を写真でわかりやすく解説している。

これまで特に人気のあるコンテンツは、「カラーシミュレーション」のページで、256色のパレットから色を選び、屋根、壁、ドア、サッシなどに配色し、全体のイメージを見ることができる。

また、自分で塗り替えたい人のための「塗装の基礎知識」のページは、道具の解説から、塗装にふさわしい気候・時期やペンキの上手な塗り方まで、初心者向けに説明している。

日本建築協会

月間の動き

【平成13年 3 月分】

総会

第２回通常総会
28日　５時～５時30分・於本会会議室
出席者　市川会長ほか2191名(ロ)(委任状共)
議　案　(1) 平成13年度事業計画(案)の件
(2) 平成13年度予算(案)の件
(3) 名誉正会員推挙の件
(4) 定款細則の一部改正の件

理事会

平成12年度通常理事会
28日　４時～４時50分・於本会会議室
出席者　市川会長ほか46名(内委任状24名)
議　事　(1) 入退会者承認の件
(2) 平成13年度事業計画(案)の件
(3) 平成13年度予算(案)の件
(4) 名誉正会員推挙の件
(5) 定款細則の一部改正の件
(6) 経過事業報告

評議員会

第２回定時評議員会
21日　４時～４時50分・於本会会議室
出席者　市川会長ほか50名(内委任状32名)
議　案 (1) 評議員会議長、副議長互選の件
(2) 定款細則の一部改正の件
(3) ①名誉正会員の一部改正の件
②「協会21世紀を考える委員会」答申について

編集委員会

第12回編集委員会
７日　６時～８時・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか５名
議　事 (1) ４月号「ＩＴ社会におけるきずな」特集報告
(2) ５月号「自然素材」特集経過報告
(3) ６月号「成熟社会をささえるまちづくり」特集経過報告
(4) ７月号「ジャパニーズスタイル」特集経過報告
(5) 作品作風小委員会関係報告
(6) 会誌発行費用削減策の検討
(7) 収支状況報告
第12回広告企画小委員会
６日　５時～７時・於本会会議室
出席者　平松委員ほか７名
議　事 (1) ４月号広告経過報告
(2) ５月号広告経過報告
(3) ６月号広告経過報告
(4) 作品作風関係報告
(5) 独自特集企画
(6) 収支状況報告
第６回計画分科会ー建築計画系ー
１日　７時～８時30分・於本会会議室
出席者　菅野幹事ほか６名
議　事　特集号のテーマ案検討
第11回構造分科会
２日　６時～８時・於本会会議室
出席者　大氏幹事ほか３名
議　事 (1)「構造の頁」の企画
(2) 10月号構造特集について
第12回設備分科会
６日　６時～８時45分・於本会会議室
出席者　近藤幹事ほか３名
議　事 (1) ８月号設備特集のテーマについて
(2) 新シリーズの企画
第11回法令分科会
13日　２時～３時50分・於本会会議室
出席者　椎名幹事ほか３名
議　事 (1)「法令コーナー」の企画
(2) ６月号法令特集について
第12回作品作風小委員会
22日　７時～８時30分・於本会会議室
出席者　赤木副委員長ほか４名
議　事 (1) 作品の選定
(2) 作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(3)「gallery」掲載報告・予定
(4)「Sketch Book欄」の掲載予定
“W”座談会ー福祉関係者に聞く④「(仮称)老後も住み慣れたまちで暮らせる社会をめざして」
28日　２時～３時45分・於本会会議室
出席者　田村　満子(たむらソーシャルネット代表)
畠中　加枝(グループホームさわやか施設長)
司　会　塚口　明洋
第10回施工材料分科会
29日　５時～６時・於本会会議室
出席者　植田幹事ほか３名
議　事　特集企画

事業委員会

第７回事業委員会
21日　５時～６時30分・於本会会議室
出席者　多井委員長ほか12名
議　事　各小委員会からの報告と検討
第９回若い会員の集い小委員会
６日　７時～９時・於本会会議室
出席者　米井幹事ほか５名
議　事　今後の企画について
第７回見学会小委員会
８日　６時～９時・於本会会議室
出席者　福島副委員長ほか８名
議　事　実施報告と今後の見学会の候補について検討
第７回情報小委員会
14日　６時～８時・於本会会議室
出席者　川村副委員長ほか９名
議　事　今後の予定について報告と検討

出版委員会

第11回出版委員会
９日　５時30分～６時50分・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか５名
議　事 (1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2) 今後のテーマと執筆者選定
(3) 第24回〈プロのノウハウ〉講座の経過報告
第24回〈プロのノウハウ〉講座
建築基準法の性能規定を読みこなすコツ
16日　６時～８時・於本会会議室
講　師　高木任之氏(芝浦工業大学)
受講者　23名

教育委員会

第１回教育委員会
26日　６時～７時30分・於本会会議室
出席者　片倉委員長ほか５名
議　事 (1) 本年度の事業報告並びに次年度の事業計画
(2) 次年度の委員編成について
第47回工高生デザインコンクール募集規定作成会
15日　６時～８時・於本会会議室
出席者　吉羽審査委員長ほか審査委員10名
片倉委員長ほか教育委員６名
議　事　第47回募集規定(案)の検討

建築工事実務講習会

９時～５時・健保会館
７日　施工計画／受講者74名
講師　仮設・地下工事　関川詞之氏(大成建設)
上部工事・工程　佐貫　久氏(神戸大学大学院)
14日　仮設見積・積算／65名
講師　仮設見積　金澤　稔氏(大林組)
積算業務　高熊　満氏(竹中工務店)

見学会

第７回見学会
大阪府立狭山池博物館見学会
６日　１時30分～４時・参加者49名
第８回見学会
大阪市環境事業局舞洲工場見学会
27日　２時～４時・参加者63名
第９回見学会
NHK大阪新放送会館、
大阪市立博物館・考古資料センター見学会
28日　１時30分～４時30分・参加者98名

建築クラブ

第347回朝食会
13日　８時30分～10時・大阪全日空ホテル
演　題　「全国の小中高等学校の校庭芝生化」
講　師　室　孝幸氏(イソライト工業㈱専務取締役)
参加者　35名

入会者(敬称略)

[個人会員２名]

杉山　美納
(㈱東畑建築事務所)

藤井謙太郎
(藤井建設㈱)

◀会員の訃報
松本　博俊氏(㈱東畑建築事務所)
平成13年４月２日逝去

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—3344—1851(大代)　大阪本社☎06—6448—3603(代)
大阪支社　☎06—6448—5851(代)　名古屋支店　☎052—211—1535(代)　中国支店　☎082—247—5541
九州支店　☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

より快適な水環境をめざして
給排水衛生設備，冷暖房設備，消火設備の設計，施工

株式会社 西原衛生工業所 大阪本店

大阪本店　〒531-0071 大阪市北区中津六丁目8番4号
TEL 06-6458-3628（代表）
本　　社　〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目6番18号
TEL 03-3452-7441（代）
支　　店　札幌・東北・新潟・東関東・横浜・名古屋・九州

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役関西支店長　本木　満

関西支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話 06(6202)7554
本　　社　東京都千代田区有楽町1－4－1　電話 03(3502)6103
支　　店　北海道・東北・関東・千葉・横浜・北陸・名古屋・京都・神戸・四国・中国・九州

人と都市の快適な環境をつくります

営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電

あたたかみにあふれるクリエイティブカンパニーをめざす。
住友電設株式会社　大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)6537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(6352)1131(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2—22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

CHOYO

人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。

電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役　山本貴士

本　　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1671
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
取締役支社長　伊藤義信

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話大阪(6202)0325～9番
本　　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社 精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪（06）6768－5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）6768－1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
〒112-0002　電話（03）5689－2351代表

電気設備設計施工

株式会社 三興社

代表取締役社長　上田正雄

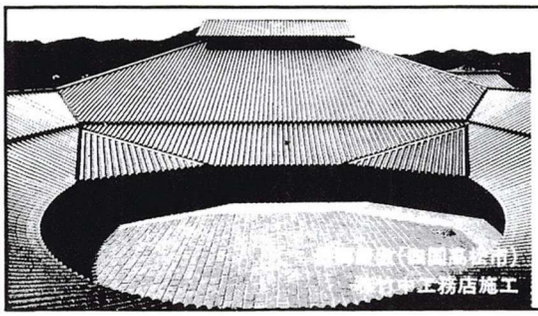
本　　社　大阪市中央区北浜3－6－13（日土地淀屋橋ビル）
電　話　06（6205）3671（代）
支　　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03（3666）1478（代）
営業所　堺・泉州・泉南・滋賀

OKUJU
スペース クリエイター
建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」
内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー
本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530—0047
TEL(06)6312—4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・南九州・京都

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒　板・掲示板・家　具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3—4—5
TEL06(6792)5858　FAX06(6792)2810

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06—6532—0641(代表)
FAX.06—6535—5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

●情報処理●企画・制作●編集●画像処理●印刷・製本
人と技術をクリエイティヴで結びます
日本データネット株式会社
本　社 〒530-0043 大阪市北区天満1-1-10　TEL.06-6352-7502　FAX.06-6355-2714
制作部 〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19　TEL.06-6352-0943　FAX.06-6355-5533
印刷工場 〒530-0043 大阪市北区天満2-5-15　TEL./FAX.06-6352-1551


〒556-0024
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、
ファックス 六五六一～七四五四
☎ 六五六一～七四一六

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.,
代表取締役社長 依藤孝行
青葉印刷株式会社
〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181
光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252－6000
東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）6877－1581

日本建築協会企画・販売

出版図書一覧

1917年3月に創設された日本建築協会（当時・関西建築協会）は、すでに昭和初期には大阪近辺で住宅博覧会や建築講演会を開く一方、当時は入手しにくかった建築の情報を図書の出版という形で会員に提供していた。

＊

以後、創立周年記念事業として、その時代の動きをとらえて単行本を出版している。

50周年、60周年、70周年、そして80周年に、図書の出版が企画され、現在も継続して発行・販売されている出版物は、以下のとおり。

＊

購入希望者は、㈱日本建築協会事務局（TEL06－6348－0635、FAX06－6348－0634）まで。

日本建築協会創立60周年記念事業

建築技術選書

A5判・130頁～160頁　発行:学芸出版社　本体価格¥1,200～¥1,400

1 茶室の話　岡田孝男
3 マイコンによる構造設計のすすめ（改訂版）　魚木晴夫
5 すまいの語録　茶谷正洋
7 構造計画とやさしい力学1　須賀好富
8 建具の知識と意匠　山片三郎
9 エレベータ・エスカレータ 立体駐車場　木村利雄
10 構造計画とやさしい力学2　須賀好富
13 医院・診療所の計画と設計　池田有隣・船越暉由
14 設計のコンピューター手法　飯塚英雄
16 石垣と石積壁　窪田祐
17 基礎と地盤の手ほどき　中堀和英
18 ショッピングセンターの計画　西脇顕正
19 住宅設計とインテリア　福岡喜久雄
21 住宅の家具　光藤俊夫
23 設備技術者のための建築再入門　光安義光
24 鉄骨構造の話　金多潔・甲津功夫・西沢英和
26 建物と地震災害　竹内吉弘・島田耕一
28 建築金物の知識　立野一郎
30 住宅三備心得帳　平田純一
31 住宅のエレクトロニクス　監修　小林郁
32 建築塗装の手引き　児島修二
33 建築式典の実際　若林嘉津雄
34 建築設計と高齢者・身障者　吉田あこ
36 日本壁　山田幸一
37 身近な耐震設計法　前川陽一
38 住宅の照明　監修　大島博
39 建築を志す人びとへ　日本建築協会出版委員会
特装本 火災安全学入門　岡田光正

選書シリーズは、在庫図書を掲載

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇

〈プロのノウハウ〉シリーズ

四六判2色刷り　発行:学芸出版社　本体価格¥1,600～¥2,500

TQCから見た建設業　荒木陸彦
軀体工事監理のチェックポイント100　須賀好富
空調設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
衛生設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
現場マンのアイデア発想　合原一夫
建築基準法の実際　矢吹茂郎
ニュー組積建築のすすめ　福島孝之　他
建築物の消防法を読みこなすコツ　高木任之
鉄筋工事・本音の現場学　荒川治徳
建築基準法の難解条文を読みこなすコツ　高木任之
工業化住宅・考 これからのプレハブ住宅　松村秀一
鉄骨工事の現場学　石田満裔
建築紛争の実際　岡本辰義
仕上工事監理のチェックポイント　日建設計監理業務研究会
ゼロ災への道 建設現場の安全管理活動　表　一郎
木造住宅のしくみ 在来工法の基本と応用　浅野平八・東　敏博
コンクリート工事のチェックポイント100　加賀秀治
インテリアコーディネートの100ポイント　町田ひろ子監修／松本　茂・村元俊子著
新版 建築基準法を読みこなすコツ　高木任之
木づくりの常識非常識　上村　武
建築関連法規を読みこなすコツ　高木任之
都市計画法読みこなすコツ　高木任之

日本建築協会創立70周年記念事業

選書特装版

B5判　発行:学芸出版社　本体価格¥2,800～¥3,800

構造コストと経済設計　須賀好富
新・建築と設備の接点　宮脇　毅・南部　武
建築設備の健康診断　牧野　茂
外壁構法チェックリスト　飯塚五郎蔵
水にまつわるトラブルの事例・解決策〈建築篇〉　「建築漏水」編集委員会
建築・都市・住宅・土木ー情報アクセスブック　菊岡倶也
建築デザインのための構造計画　須賀好富
場所打ち杭の設計と施工　阪口　理
建築と緑　瀧　光夫
入門・建築積算　生島道春
水にまつわるトラブルの事例・解決策〈設備篇〉　「設備漏水」編集委員会

昭和生まれ　関西の建築家50　1987年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会建築クラブ朝食会300回記念

講演記録集 **話のはなし**　1997年

B6判5分冊　企画:日本建築協会建築クラブ　1セット10,000円（消費税含む）

民間（旧四会）連合協定

工事請負契約約款

A4判のみ取り扱い

工事請負契約書・仲裁合意書・契約書使用上の留意事項

1部¥230（消費税含）送料 実費

日本建築協会創立70周年記念出版

住宅近代化への歩みと日本建築協会　1988年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会創立75周年記念出版

工高生デザインコンクール入選作品集　1992年

A4判　企画・発行：日本建築協会　定価2,000円

日本建築協会創立80周年記念出版

建築を志す人びとへ

A5判　日本建築協会出版委員会編著　本体価格1,800円

「協会21世紀を考える委員会」からの答申

㈳日本建築協会は「我が国建築界の堅実なる発展を期待する」という目的を掲げて、大正6年（1917年）に大阪で誕生した。発足当初から多くの建築専門業種で活躍する会員で構成されてきたが、近年、その幾つかの業種がそれぞれ別個の団体を結成したことに加え、10年余り続いた経済不況もあって本会個人·法人会員数は漸減の傾向を示しており、また個人会員の平均年齢の高齢化が見られるなど、会勢の将来に向けて様々な課題が山積するようになってきた。

「協会21世紀を考える委員会」は、平成12年7月、市川　宏会長の諮問を受け、21世紀を迎える本会が早急に解決すべき問題点を指摘し、その改善について提案することを目的として設置された。

委員会は今日までに6回の検討会をもち、その間に、若手編集委員等入会履歴の浅い方や若い会員の方々からの意見聴取なども行い、問題点の検討とその改善の方向性について議論を重ねてきた。

委員会での議論内容を別紙に議事要録として添付するが、それを要約すれば、次の項目となる。

1．本協会としては、創立時の理念を踏まえながら21世紀にふさわしい活動を活発に行うべきである。すなわち、建築界の殆ど総ての業種を網羅している会員構成の特色を発揮して現代社会が求める情報、あるいは広く社会一般への提言等を発信し続け、もって本会の建築・一般社会における地位を確固たるものとし、会勢の拡大を図ることが必要である。

2．現在の各常設委員会の活動を更に魅力的なものにする努力に加えて、社会一般の人々にも深い興味を与える工夫が要望される。各常設委員会に所属する委員の構成は、常に新陳代謝を図り、若手会員や会員歴の比較的浅い方々の積極的参加を求めて、事業内容のマンネリ化を防ぐことが必要である。

3．特に、機関誌「建築と社会」については、速報性が要求される記事などは今後導入が予想されるインターネット・ホームページに掲載するなどの改変に併せ、記事内容を後々まで残るようなものにする工夫が求められる。また、機関誌の発行頻度に関して、内容の充実と財政の健全化を図る立場から、「月刊」であるべきか、あるいは「隔月」·「季刊」であるべきかについて何度か議論が交わされたが、各々、利害得失が考えられ、方向性を出すまでには至っていない。今後、引き続いて議論し、可及的速やかに決断すべき大きな課題である。

4．本会の活動を活性化させるために、正·副会長や役員の選出の在り方、会務分掌役員の分掌担当業務の責任の在り方についても検討すべしという議論があった。役員·常設委員メンバーの固定化や老齢化が生じないよう組織·活動の弾力化を図り、所謂「小さな政府」による財政の健全化を心がけることも重要である。役員の定数とともに選出母体となる専門業種についても再検討すべき課題の一つである。事務局の在り方についても、今後、検討が必要である。事務局は冗費削減に知恵を絞るのは当然としても、事務局に会長の意向（想い）を実現すべく『提言·企画するブレーン』の配置が必要ではないかと思われる。

「協会21世紀を考える委員会」での議論は時間的な制約もあり、本答申は、今後本会があるべき（とるべき）方向性を示したものとなっている。新世紀となる平成13年（2001年）は、各会務分掌理事会·常設委員会においては、本答申の方向性に沿って『自分達で考え、具体的な改善策を検討』し、平成14年（2002年）からは『本協会は変わる』年として頂きたい。

以上、「答申」申し上げます。

平成13年1月22日

社団法人　日本建築協会
協会21世紀を考える委員会
委員長 金多　潔（元協会副会長、京都大学名誉教授）
委　員 内田　直樹（元㈱日建設計理事、神戸大学工学部教授）
委　員 川口　順弘（㈱竹中工務店専務取締役）
委　員 坂本 勝比古（神戸芸術工科大学名誉教授）
委　員 曽根　健二（㈱きんでん理事）
委　員 広原　盛明（龍谷大学法学部教授）
委　員 松村　慶三（㈱浦辺設計代表取締役社長）
委　員 宮田　照久（㈱昭和設計常任顧問）

（議論内容をまとめた議事要録は、掲載しておりません）

社団法人 日本建築協会定款

第1章　総　則

(名称)
第1条　本会は、社団法人日本建築協会と称する。
英文では The Architectural Association of Japanとする。
(事務所)
第2条　本会の主たる事務所は大阪府大阪市に置き、なお、本会の目的達成のため、必要な地に支部を置くことができる。
2．主たる事務所の位置の変更又は、支部の設置、変更、廃止については総会の議決でこれを定める。
(目的)
第3条　本会は建築関係各部門の連携協力によって、建築に関する学術、技術及び事業の進歩発展を図ると共に、建築を通じ広く社会に貢献することを目的とする。
(事業)
第4条　本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。
（1）建築に関する学術、技術及び施策の調査研究
（2）講演会、講習会等の開催その他建築に関する知識の普及
（3）建築に関する技術教育の振興
（4）建築の振興発展に資する業績等の表彰
（5）会報、雑誌、図書及び印刷物の刊行
（6）その他本会の目的を達するに必要な事業

第2章　会　員

(種別)
第5条　本会の会員は、次の3種とし、個人正会員及び団体正会員（以下「正会員」という。）をもって民法上の社員とする。
（1）個人正会員　建築又はこれに関係ある職務を有し、相当の学識又は経験を有する者
（2）団体正会員　建築又はこれに関係ある事業を営む法人又は団体
（3）準　会　員　本会の目的に賛同して入会した個人正会員以外の個人
(入会)
第6条　会員として入会しようとする者は、理事会の議決を経て会長が別に定める入会申込書により、会長に申し込まなければならない。
2．入会は、総会が別に定める基準により、理事会においてその可否を決定し、会長が申込者に通知するものとする。
3．法人又は団体たる会員にあっては、法人又は団体の代表者として本会に対してその権利を行使する者（1名に限る。以下「指定代表者」という。）を定め、会長に届け出なければならない。
4．指定代表者を変更した場合は、速やかに別に定める変更届を会長に提出しなければならない。
(名誉正会員)
第7条　個人正会員で次の各号のいずれかに該当する者は、理事会の推薦により総会の議決でこれを名誉正会員に指名することができる。
（1）学識経験者又は本会に対する功績が顕著な者
（2）30年以上正会員であって年齢65歳を超えた者
(会費)
第8条　会員は総会において別に定めるところにより、会費1口以上を納入しなければならない。
2．前条により指名された名誉正会員には会費の納入を免除することができる。
(会員の資格喪失)
第9条　会員は、次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。
（1）退会したとき。
（2）後見開始又は保佐開始の審判を受けたとき。
（3）死亡し、又は会員である法人又は団体が解散したとき。
（4）2年以上会費を滞納したとき。
（5）除名されたとき。
(退会)
第10条　会員は、理事会の議決を経て会長が別に定める退会届を会長に提出して、退会することができる。
2．退会しようとする者は、会費の完納等所定の義務を履行しなければならない。
(除名)
第11条　会員が次の各号の一に該当するときは、総会において正会員の表決権総数の3分の2以上の議決に基づいて除名することができる。
（1）本会の定款、規則又は総会の議決に違反したとき
（2）本会の名誉を傷つけ、又は本会の目的に違反する行為があったとき。
2．前項に該当し除名する場合には、その会員に対し、あらかじめ通知するとともに、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。
(会費等の不返還)
第12条　会員が既に納付した会費、入会金その他の拠出金品は、これを返還しない。

第3章　役員、名誉会長、名誉顧問、顧問及び参与

(役員の種類及び定数)
第13条　本会に次の役員を置く。
理　事　50名以上55名以内
監　事　2名又は3名
2．理事のうち、1名を会長、6名以内を副会長、1名を専務理事とし、1名を常務理事とすることができる。
(役員の選任等)
第14条　理事及び監事は、総会において選任する。
2．理事は正会員（法人又は団体にあっては指定代表者）の中から選任する。ただし、理事のうち2名以内は会員外から選任することができる。
3．会長、副会長、専務理事及び常務理事は、理事の互選とする。
4．理事及び監事は、相互にこれを兼ねることができない。
5．理事に異動があったときは、2週間以内に登記し、登記簿の謄本を添え、遅滞なくその旨を国土交通大臣に届け出なければならない。
6．監事に異動があったときは、遅滞なくその旨を国土交通大臣に届け出なければならない。
(職務)
第15条　会長は、本会を代表し、会務を総理する。
2．副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき

又は会長が欠けたときは、理事会があらかじめ指定した順序に従い、その職務を代行する。

3．専務理事は、会長及び副会長を補佐し、本会の常務を統括する。

4．常務理事は、理事会の議決に基づき、本会の常務を分担処理する。

5．理事は、理事会を構成し、定款及び総会の議決に基づき、本会の業務を執行する。

6．監事は、次に掲げる職務を行う。

（1）財産及び会計を監査すること。

（2）理事の業務執行状況を監査すること。

（3）財産、会計及び業務の執行について、不整の事実を発見したときは、これを総会又は国土交通大臣に報告すること。

（4）前号の報告をするため必要があるときは、総会又は理事会の招集を請求し、若しくは総会を招集すること。

（任期）

第16条　役員の任期は2年とする。

2．補欠又は増員により選任された役員の任期は、それぞれ前任者又は現任者の残任期間とする。

3．役員は、再任されることができる。

4．役員に欠員を生じたときはこれを補選する。

ただし、第13条に掲げる最低数を欠かないときは補選しないことができる。

5．役員は、辞任又は任期満了の場合においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

（解任）

第17条　役員が次の各号の一に該当する場合には、総会において正会員の表決権総数の3分の2以上の議決に基づいて解任することができる。この場合においては、その役員に対しあらかじめ通知するとともに、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

（1）心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。

（2）職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があると認められるとき。

（報酬等）

第18条　役員は無報酬とする。ただし、常勤の役員には報酬を支払うことができる。

2．役員には費用を弁償することができる。

3．前2項に関する必要な事項は、理事会の議決を経て会長が別に定める。

（名誉会長等）

第19条　本会に名誉会長、名誉顧問、顧問及び参与若干名を置くことができる。

（1）名誉会長は、本会の会長の職にあった者で理事会の推薦により総会の議決で指名した者とする。

名誉会長は、会長の諮問に応じ、かつ、各種の会議に出席して意見を述べることができる。

（2）名誉顧問は、本会の役員として特に功労のあった者で理事会の推薦により総会の議決で指名した者とする。

名誉顧問は、本会の事業遂行に助言し、協力するものとする。

（3）顧問は、建築に関係ある学識経験者であって、理事会の推薦により総会の議決で指名した者とする。

顧問は、会務の重要事項について、会長の諮問に応じ又は意見を提出する。

（4）参与は、会員の中から理事会が推薦し、委嘱した者とする。

参与は、会務について、理事会の諮問に応じ又は意見を提出する。

2．顧問及び参与の任期は2年とし、再任を妨げない。

3．名誉会長、名誉顧問、顧問及び参与については、第18条の規定を準用する。この場合において、規定中「役員」とあるのは、「名誉会長、名誉顧問、顧問及び参与」と読み替えるものとする。

4．顧問及び参与は、役員に就任したときはその位置を退くものとする。

第4章　総　会

（種別）

第20条　本会の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

（構成）

第21条　総会は正会員をもって構成する。

2．総会における正会員の表決権は会費1口につき1個とする。ただし、一正会員の口数が、総正会員の口数の50分の1を超えるときは、その超過分には表決権はないものとする。

（権能）

第22条　総会は、この定款で別に定めるもののほか、本会の運営に関する重要事項を議決する。

（開催）

第23条　通常総会は毎年2回開催する。

2．臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

（1）理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。

（2）正会員の5分の1以上から会議の目的を記載した書面により招集の請求があったとき。

（3）第15条第6項第4号の規定により、監事から招集の請求があったとき、又は監事が招集したとき。

（招集）

第24条　総会は、第15条第6項第4号の規定により監事が招集する場合を除き、会長がこれを招集する。

2．会長は、前条第2項の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3．総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも7日前までに通知しなければならない。

（議長）

第25条　総会の議長は、その総会において、出席正会員の中から選出する。

（定足数）

第26条　総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

（議決）

第27条　総会の議事は、この定款で別に定めるもののほか、出席正会員の表決権総数の過半数をもってこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（書面表決）

第28条　やむを得ない理由のため、総会に出席できない正

会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

2．前項の場合における前2条の規定の適用については、その正会員は出席したものとみなす。

（議事録）

第29条　総会の議事については、次に掲げる事項を記載した議事録を作成しなければならない。

（1）日時及び場所

（2）正会員の現在数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者及び表決委任者の場合にあっては、その人数を付記する。）

（3）審議事項及び議決事項

（4）議事の経過の概要及びその結果

（5）議事録署名人の選任に関する事項

2．議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2名以上が、署名及び押印をしなければならない。

第5章　理　事　会

（構成）

第30条　理事会は、理事をもって構成する。

（権能）

第31条　理事会は、この定款で別に定めるもののほか、次の事項を議決する。

（1）総会に付議すべき事項

（2）総会の議決した事項の執行に関する事項

（3）その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

（種類及び開催）

第32条　理事会は、通常理事会及び臨時理事会の2種とする。

2．通常理事会は、毎年2回開催する。

3．臨時理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

（1）会長が必要と認めたとき。

（2）理事現在数の3分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

（3）第15条第6項第4号の規定により監事から招集の請求があったとき。

（招集）

第33条　理事会は、会長がこれを招集する。

2．会長は、前条第3項第2号又は第3号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に臨時理事会を招集しなければならない。

3．理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも7日前までに通知しなければならない。

ただし、緊急の必要があるときは、あらかじめ理事会で定めた方法により通知することができる。

（議長）

第34条　理事会の議長は、会長がこれにあたる。

（定足数等）

第35条　理事会には、第26条から第29条までの規定を準用する。この場合において、これら規定中「総会」は「理事会」と、「正会員」及び「正会員の表決権」は「理事」と読み替えるものとする。

第6章　財産及び会計

（財産の構成）

第36条　本会の財産は、次に掲げるものをもって構成する。

（1）入会金及び会費

（2）寄附金品

（3）財産から生ずる収入

（4）事業に伴う収入

（5）その他の収入

（財産の管理）

第37条　本会の財産は、会長がこれを管理し、その方法は、総会の議決を経て、会長が別に定める。

（費用の支弁）

第38条　本会の経費は、財産をもって支弁する。

（事業年度）

第39条　本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（事業計画及び予算）

第40条　本会の事業計画及びこれに伴う予算に関する書類は、会長が作成し、毎事業年度開始前に、総会において出席正会員の表決権総数の3分の2以上の議決を経て、国土交通大臣に届け出なければならない。

これを変更しようとするときも、同様とする。

（暫定予算）

第41条　前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により事業年度開始前に予算が成立しないときは、会長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じて収入及び支出をすることができる。

2．前項の収入及び支出は、新たに成立した予算の収入及び支出とみなす。

（事業報告及び決算報告）

第42条　本会の事業報告及び決算は、毎事業年度終了後、会長が事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録等として作成し、監事の監査を受け、総会において出席正会員の表決権総数の3分の2以上の議決を経て、その事業年度終了後3月以内に国土交通大臣に報告しなければならない。

この場合において、資産の総額に変更があったときは、2週間以内に登記し、登記簿の謄本を添えるものとする。

（長期借入金）

第43条　本会が資金の借入をしようとするときは、その事業年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、総会において正会員の表決権総数の3分の2以上の議決を経て、国土交通大臣に届け出なければならない。

第7章　事　務　局

（設置等）

第44条　本会の事務を処理するため、事務局を設置する。

2．事務局には、事務局長及び所要の職員を置く。

3．事務局長及び職員は、会長が任免する。

4．事務局の組織及び運営に関する必要な事項は、総会の議決を経て、会長が別に定める。

（備付帳簿及び書類）

第45条　事務所には、常に次に掲げる帳簿及び書類を備えておかなければならない。

（1）定款
（2）会員名簿及び会員の異動に関する書類
（3）理事、監事及び職員の名簿及び履歴書
（4）許可、認可等及び登記に関する書類
（5）定款に定める機関の議事に関する書類
（6）収入及び支出に関する帳簿及び証拠書類
（7）資産、負債及び正味財産の状況を示す書類
（8）その他必要な帳簿及び書類

第8章　委員会

（委員会）
第46条　本会は、事業計画の円滑な推進を図るため、委員会を設けることができる。
2．委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、会長が別に定める。

第9章　定款の変更及び解散

（定款の変更）
第47条　この定款は、総会において正会員の表決権総数の4分の3以上の議決を経、かつ、国土交通大臣の認可を得なければ変更することができない。
（解散）
第48条　本会は、民法第68条第1項第2号から第4号まで及び第2項第2号の規定によるもののほか、総会において正会員の表決権総数の4分の3以上の議決を経、かつ、国土交通大臣の認可を得て解散する。
（残余財産の処分）
第49条　本会が解散のときに有する残余財産は、総会において正会員の表決権総数の4分の3以上の議決を経、かつ、国土交通大臣の許可を得て、本会と類似の目的を有する他の公益法人に寄附するものとする。

第10章　補則

（委任）
第50条　この定款に定めるもののほか、本会の運営に関する必要な事項は、総会の議決を経て、会長が別に定める。

付　則

1．この定款の変更は、平成12年11月7日から施行する。
2．この定款の規定において、総会又は理事会の議決を要する事項中、この定款施行の際、現に実施されている事項については、この定款に基づき総会又は理事会の議決を経たものとみなす。

昭和22年12月5日定款変更認可即日実施
昭和25年2月22日定款一部変更認可即日実施
昭和32年11月25日定款一部変更認可即日実施
昭和58年5月30日定款一部変更認可即日実施
平成12年11月7日定款変更認可即日実施

社団法人 日本建築協会細則

総　則

この細則は、定款に定めるものの他本会の運営に関する必要な事項について定める。

第1章　支部

第1条　会員100名以上居住する地域では支部を設置することができる。
2．前項に該当する地域において、支部を設置しようとする会員は、発起人を選任し、支部規程案及び賛成会員名簿を添付して会長にその旨を申し出るものとする。
3．会長は、前項の申し出を受け、適当と認められるときは、定款第2条第2項の規定により総会の議決を経て承認するものとする。
第2条　支部地域内に居住する会員はその支部に属するものとする。ただし、会員からこれと異なる申出があった場合にはこれに従うものとする。
第3条　支部に支部長その他の支部役員を置く。
2．支部役員の選任方法等は、支部規程で定める。
3．支部長は、支部を代表し、支部の会務を執行する。
支部長は、理事会に出席して意見を述べることができる。
第4条　支部の会務は、支部規程の定めるところによる。
2．支部規程の制定、変更は支部総会の議決でこれを定め、理事会の承認を経てその効力を生ずる。
第5条　支部規程には、支部に関する次の事項を記載しなければならない。
（1）名称
（2）事務所の所在地
（3）地域
（4）事業
（5）支部総会及び役員会に関する事項
（6）支部役員の選任及びその権限に関する事項
（7）その他必要な事項
第6条　支部の経費は、支部交付金、寄附金、支部事業より生ずる収入及びその他の収入でこれを支弁する。
2．本部は支部に対して、その支部所属会員の納付した会費の10分の4以内を支部交付金として交付する。ただし、特別の場合には理事会の議決を経て、これを増額することができる。
第7条　支部の事業年度は本会の事業年度に準ずる。
2．支部は毎年2月末日迄に次年度の予算を、5月末日迄に前年度の事業報告書並びに決算報告書を会長に提出し、理事会の承認を経なければならない。

第2章　会員及び会費

第8条　正会員として入会するには、正会員1名を紹介者とし、所定の入会申込書を本会に提出しなければならない。
学生生徒で準会員として入会するには、当該学校の在学証明書を提出しなければならない。
第9条　会員種別の変更を希望する会員は、所定の転格申込書を本会に提出しなければならない。ただし、学生生徒である準会員は、当該学校卒業と同時に正会員に転格するものとする。
第10条　会費は次のとおりとし、これを年3回以内に分納することができる。

（1）定款第5条第1号による者　（個人正会員）
年額金　14,400円
ただし、遠隔の地で、支部のない地方の正会員
年額金　12,600円
（2）定款第5条第2号による者　（団体正会員）
一口につき年額金　25,000円
（3）定款第5条第3号による者　（準会員）
年額金　8,400円

2．事業年度の中途で入会又は転格した者の会費は月割計算とする。

3．会員に特別の事情が生じたときは理事会の議決によってその期間中の会費の減免又はその他の措置をすることができる。

第3章　役員の任期の起算

第11条　役員の任期の始期は、選任された総会の日から起算し、終期は後任者が選任された総会の日とする。

第4章　評議員

第12条　会長は、理事会の議決を経て、正会員の中から評議員を委嘱することができる。

2．前項の評議員は、次の各号の一に該当する者の中から委嘱するものとする。

（1）職種別推薦母体から推薦された者

（2）支部から推薦された者

（3）会長が適当と認めた者

第13条　評議員の定数は、毎年3月1日における正会員の表決権数を基準として、次により算定した人数以内とする。

（1）支部に属しない地域からの評議員数は、その地域の正会員の表決権数200個毎、及びその端数毎に2名とする。

（2）支部に属する地域からの評議員数は、その支部所属正会員の表決権数100個毎、及びその端数毎に2名とする。

2．評議員の任期は2年とし、6月1日からこれを起算する。

第14条　評議員は評議員会を構成し、次の会務を処理する。

（1）総会における役員の選任に資するため、会長の諮問に応じ、候補者名簿の作成等意見を具申すること。

（2）総会が議決する場合における定款第11条第2項及び第17条第1項に規定する弁明に係る予審を行うこと。

（3）その他、総会又は理事会が議決により委任した事項の審議に関すること。

第15条　評議員会は、年1回定時会議を開催するほか、必要に応じ臨時会議を開催する。

2．評議員会は会長が招集する。

3．評議員会は、評議員の互選により議長1名、副議長1名を選出し、次により会議を運営する。

（1）会議は議長が主宰する。

（2）副議長は、議長を補佐し、議長事故あるときは、その職務を代行する。

（3）議長、副議長の任期は1年とする。

4．評議員会の定足数及び議決等については、定款第26条から第29条までの規定を準用する。

第5章　会務及び事務

第16条　理事は互選によって次のとおり会務を分掌する。

（1）総務・総会、評議員会、理事会、事務局、庶務、人事

（2）会計・収支予算、決算、財産の管理運営

（3）編集・雑誌その他の編集、出版

（4）会勢・会勢増強、会員名簿の刊行

（5）事業・見学会、説明会、講演会、展覧会、懇親会

（6）研修・研修会、講習会、セミナー

第17条　会務分掌理事のうち18名を常任理事に選任する。

第18条　常任理事会は常任理事の他、会長、副会長、専務理事及び常務理事をもって構成し、次の事項を処理する。

（1）理事会提出議案の作成に関する事項

（2）理事会の議決事項の処理に関する事項

（3）その他この会の会務執行に関する事項

2．常任理事会は、会長が招集し、会長、副会長、又は常任理事の要請により必要に応じて開催する。

第19条　本会の事務を処理するため事務局に局長1名を置き、専務理事又は常務理事を充てることができる。
事務局に次長、課長及び職員若干名を置く。

2．職員の給与は理事会でこれを定める。

第20条　副会長が事務局についての会務を分掌するときは報酬を支給することができる。
報酬の額は理事会でこれを定める。

第21条　本会は会報並びに雑誌「建築と社会」を発行する。

第6章　雑　則

第22条　この細則の改廃は、総会の議決を経て会長が定める。

2．この細則に定めるものの他、必要な規定の制定及び改廃は、理事会の議決を経て会長が定める。

付　則　この細則の改正は、平成12年11月7日から施行する。

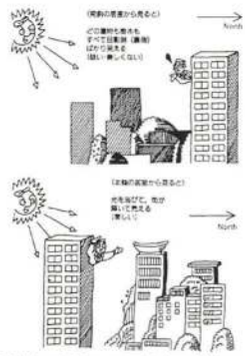
付　則　この細則の改正は、平成13年3月28日から施行する。

〈初年度版〉
ISBN4-7615-2196-1
企画／日本建築協会

徹底解説 大改正 建築基準法

初年度版





本書「住宅の居室の日照規定の削除」の項より

その中身はどう変わったか
どう対処していけばいいのか
大好評「読みこなすコツ」シリーズの著者が
わかりやすく、具体的に、
改正法のねらいを徹底解説

民間建築主事
住宅の居室の日照規定の削除
身分証明証の携帯・提示
準防火地域内における、
木造３階建共同住宅の解禁
連担建築物設計制度
性能規定化
などをポイント解説

高木任之著
A5・208頁・2000円＋税

学芸出版社
京都市下京区木津屋橋通
西洞院東入　〒600-8216
tel 075-343-0811
fax 075-343-0810

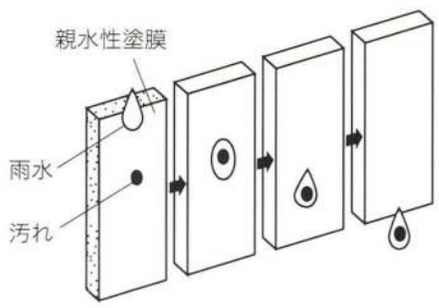
建物の汚れ
トラブル事例と解決策

「建物の汚れ」編集委員会・編著
〈建築技術選書・特装版〉

企画・(社)日本建築協会

ISBN4-7615-3086-3
B5判・二色刷・168頁
定価　本体3500円＋税

建物を美しく保つにはそれなりのコツがある



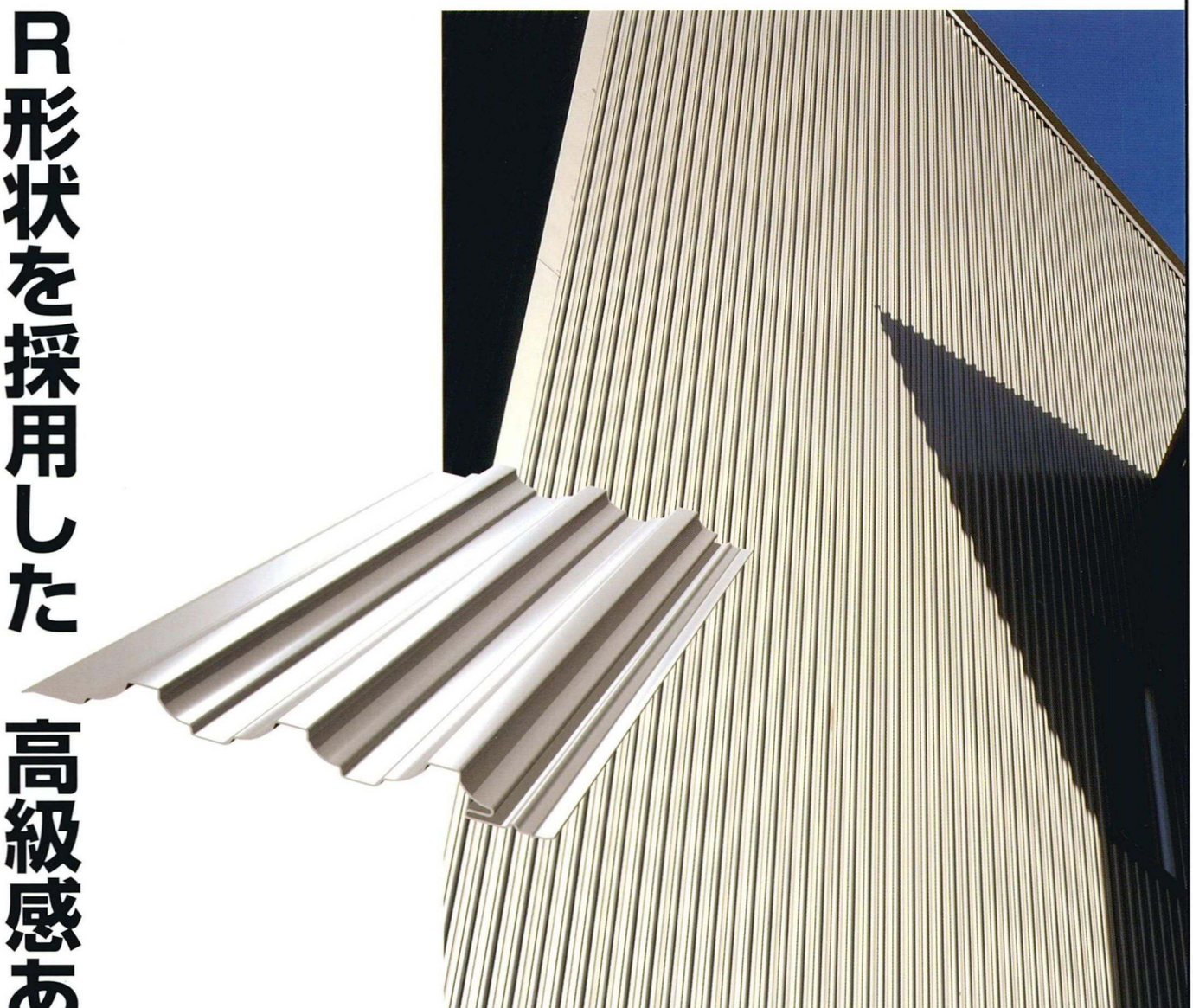
本書59頁より

学芸出版社
京都市下京区
木津屋橋通
西洞院東入
〒600-8216
tel 075-343-0811
fax 075-343-0810

汚れにくい設計、効果的なメンテナンスのために
トラブルにつながる要因を事例別に整理——
ゼネコン技術者による再発防止策のノウハウを伝授する

ヨドコウ

R形状を採用した 高級感あふれる美しさ



●独自の斜辺部逆R形状の新規意匠
●割付けしやすい200mmの働き幅
●建物外観にアクセントを付けるワンポイント使用も可能
●特別色対応も可能（100m²以上）

高級カラー鋼板製内・外装材
ヨドスパン200R

快適な生活環境を創造する
淀川製鋼

本　　社　大阪市中央区南本町4丁目1番1号　〒541-0054　☎(06)6245-1256
東京支社　東京都中央区新富1丁目3番7号　〒104-0041　☎(03)3551-7941
ホームページアドレス　http://www.yodoko.co.jp

Vol.82通巻950号　2001年5月1日発行　毎月1回1日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

社団法人 日本建築協会　〒530-0047 大阪市北区西天満1-6-8 ヤマトビル　電話06(6365)5611(代)　FAX06(6365)5602　振替口座00980-1-95177

定価1,200円（●本体1,143円●消費税57円●送料共）正会員の購読料は会費に含めて徴収